

An aerial photograph of a university campus. In the foreground, a large, light-colored building with a flat white roof and several air conditioning units is visible. To the left, a tall, white clock tower stands prominently, featuring a large clock face with black hands and numbers. Behind the clock tower, a multi-story building with a distinctive vertical architectural element is visible. The background is filled with lush green trees. A semi-transparent purple rectangle is overlaid on the right side of the image, containing white Japanese text.

東京学芸大学
大学案内
2027





Index

- 02 学長からのメッセージ
- 03 東京学芸大学の特徴
- 04 G-BRIDGE
- 06 教職の魅力
- 10 教育支援ってなに？
- 14 せんせいの一と
- 16 さあ 東京学芸大学で学ぼう
 - 学校教育教員養成課程って何？
 - 教育支援課程って何？
 - どんな免許や資格がとれるの？
 - どんなことを学ぶの？
 - 東日本唯一の教員養成フラッグシップ大学！
 - 自律型カリキュラムデザイン
- 21 学校教育教員養成課程の説明
- 51 教育支援課程の説明
- 66 卒業後の進路
- 70 もっと学びたい人は
- 72 取得可能な免許・資格
- 74 国際交流と留学
- 78 学生キャリア支援室
- 84 学生生活支援
- 86 自主ゼミ& EXPLAYGROUND
- 87 サークル図鑑
- 90 ぷらり学芸キャンパス MAP
- 92 附属図書館
- 94 学芸大の学食
- 95 東京学芸大学概要
- 99 大学までのアクセス
- 100 入学者選抜要項等について・授業料
- 101 ノート型パソコンの必携について・問い合わせ



学長からのメッセージ

東京学芸大学長 佐々木 幸寿

新しい旅のはじまり

緑豊かな小金井キャンパスへようこそ！ここでの学生生活が、皆さんの人生にとって「新しい旅のはじまり」になることを心から願っています。

これから皆さんが過ごす時間は、ただ知識を詰め込む期間ではありません。「自分はどう生きたいか？」を問い直し、これからの社会で「教育」がどんな役割を果たしていくのかを自分なりに考えていく、探索の旅の始まりです。

1 教育の「最先端」が集まる場所で

東京学芸大学は、日本最大級の教育系大学と

して歴史を刻んできました。でも、私たちが目指しているのは「大きい大学」であることだけではありません。

今、本学は「教育の未来をつくるハブ（中核）」へと進化しています。教育は今や学校の中だけのものではなく、社会のあらゆるところで必要とされる「知恵のベース」です。ここでは、いろんな分野を横断して学べます。時代の先を行く研究もどんどん進んでいます。このダイナミックな環境を、皆さんの「自分磨き」のために使い倒してほしいと思います。

新しい時代だからこそ面白い！ 「教育」をアップデートする旅へ

② 正解がない時代。だから「教育」はもっと面白くなる

今、AIの進化や人口減少など、社会はものすごいスピードで変わっています。AIが人間を超えるかもしれないと言われる中で、「人間にしかできないことって何？」と問われる時代が来ています。

そんな中、先生の役割も変わってきました。「正解を教える人」から、「子供と一緒に、学び、成長し、生きる意味を考えるパートナー」へ。

一人ひとりに合った学びを、みんなとの対話を通して「価値ある体験」に変えていく。そのためには、教育者自身が子供と同じ目線に立って、社会変化から意味を見いだしていく必要があります。誰かの人生に「伴走」する。これは大変なことですが、今の時代だからこそ味わえる、最高にクリエイティブで価値のある挑戦です。

③ みんながリーダーになれる、みんなが希望を生み出す

先が見えない時代、ついつい不安になることもあるかもしれません。でも、前例が通用しないからこそ、「誰かが最初の一步を踏み出すこと」で大きな価値が生まれます。

私が思う「リーダーシップ」は、一部の特別な人のものではありません。時には自分が引っぱり、時には誰かを全力でサポートする。そのように、みんなが自立して協力し合うことが、新しい時代のリーダーシップの形です。

一方的に自分の考えを語るのではなく、みんなが共感できる「価値」を一緒に作っていくこと。その積み重ねが、社会に「希望」を生み出します。情熱と勇気を持って判断し、自ら行動できる人になっていきましょう。

④ 「自分にとっての知恵」と「自分らしいキャリア」を

最後に。この自由な環境と、皆さんに与えられた貴重な時間を、どうぞ存分に楽しんでください。

大学に行く意味は、知識を吸収するだけではありません。学んだことを自分なりに消化して「自分にとっての知恵」を作ること。そして、そのプロセスを通して「自分らしいキャリア」を切り拓いていくことです。

皆さんの挑戦が、これからの教育と未来を明るく照らす光になると信じています。一緒に学び、一緒に未来をつくっていきましょう！

教育を面白くするメディア「エデュモット」

edumotto



教育を面白くするメディア「エデュモット」
edumottoは、「教育をもっと面白くする」をテーマに、東京学芸大学の学生と教職員と一緒に運営する公式ウェブマガジンです。学芸大ならではの情報や教育に関連するトピック等をお届けします。



東進TV【東京学芸大学教育学部】

学生と教職員が協働して学芸大の魅力を伝える動画を製作しました。是非ご視聴ください！



サークル一覧

学芸大には130ほどの文化系・体育系サークルがあります。その全てを一覧で紹介します。



とことん、教育！
とことん、学芸！

G - BRIDGE

未来の教育を創る「まなびと」たちを



アートアスレチック教育センター
Center for Applied Arts and Athletics Education

アートアスレチック教育センター「あそぶ」「つなぐ」「越える」をモットーに、芸術(音楽・美術・工芸・書道・演劇)やスポーツ領域と関連させたイノベーティブな教育パッケージの開発と、地域連携・産学連携による多様な活動を推進しています。



Möbius Open Library



Möbius Open Library

Möbius Open Library (メビウス・オープン・ライブラリー：略称MOL)では、「遊びから生まれる学び」を大切にしながら、図書館と知の未来を考える活動を行っています。



先端教育人材育成推進機構 Society5.0に向けた教員養成・教育者研修・教育支援人材育成のニーズに対応するため、先導的な教育プログラムの研究開発、教師教育の高度化システムの開発を進める拠点です。本学の「教員養成フラッグシップ大学」構想を実現するエンジンとしての役割も担っています。



教育学部紹介

学校教育教員養成課程には 27のコースと4つのプログラムが、教育支援課程には7つのコースがあります。バラエティ豊富な学芸大での学びをご紹介します。



特定非営利活動法人

東京学芸大こども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

東京学芸大こども未来研究所

遊びは最高の学び！子どもに関わる「ヒト」「モノ・コト」「コミュニケーション」を社会に発信しています。



東京学芸大学小金井キャンパス

自然あふれる学芸大のキャンパスを、空からお散歩してみませんか。歩いて見る景色とは一味違った魅力に気付けるかも？



つなぐ！

とことん、「教育」に取り組んでみたいと考えている皆さんに、

まずは、とことん、「学芸」のことを知ってほしい！

そして、とことん、「学芸」のことを好きになってほしい！

そこで、とことん、「学芸の魅力」をお伝えするために、

GAKUGEI BRIDGE のはじまり、はじまり！



G-BRIDGEのウェブ版が
スタートしました！



未来の学校
みんなで創ろう。
PROJECT

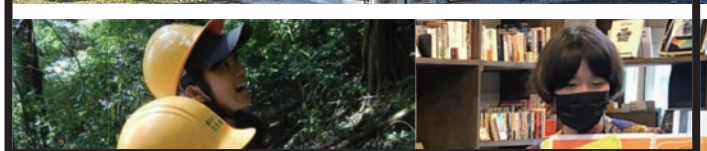


未来の学校 竹早地区の附属幼小中学校を舞台に、大学、企業、行政等のコラボレーションで、10年後の未来の学校を一足先にみんなで創ろうとしています。「SUGOI 部屋」は、GIGA スクール時代ならではの授業モデルと教室環境のあり方をパートナー企業との共創により実装する取り組みです。



EXPLAYGROUND

新しい公教育のモデル構築という目標をたてながら、教員も学生も児童生徒も地域の人も入り混じって、「好き」を起点に、「好き」を愉しむ活動をしています。



G-BRIDGE 5

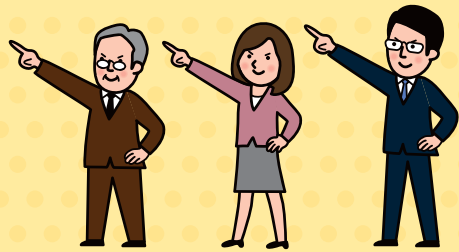
せんせいのーと
SENSEI NOTE

せんせいのーと

学芸大の教員ってどんな人？専門分野や経歴、授業などについて、インタビュー形式で紹介します。



教職の 魅力



教職の魅力って何だろう？

教職のやりがいや仕事の内容、大変なことなど、小学校・中学校・高校で毎日先生と一緒にいても実際のところはどうなのでしょう。また、今は先生も大変って聞くけど、じゃあ具体的にはどんなこと？

東京学芸大学で学んだことは先生として働くときにどんな事に役立っているんだろう？ 素朴な疑問を東京学芸大学を卒業し、活躍している先生方に聞いてみました！

また、先生がお休みの時に何をしているのかなど、普段の生活についても聞いてみました。

ぜひ**教職の魅力**を知って頂き、ともに学芸大で学びましょう！



教職の魅力について教えてください。

子どもと一緒に**自分も成長**できる

社会



吉田 基哉 先生

東京都北区立
なでしこ小学校

目まぐるしい早さで成長する子どもと一緒に、自分も大きく成長できることです。子ども達は自由な発想があると同時に、それぞれに十人十色のもの見方や考え方があります。そうした子ども達のふとした発言に自分も気づかされることが多く、1年間が終わる頃には子ども以上に自分の成長を感じることも多いです。日々成長していく子どもたちと一緒に生活できることは、教職の大きな魅力であり、日々のやりがいにも繋がっていると感じます。

生徒の成長を**間近に感じられる**

技術



渡邊 隆昌 先生

筑波大学附属
駒場中学校・高等学校

生徒の成長を間近に感じられる点が、最も大きな魅力だと思います。私たちは学校での指導を通して、生徒一人ひとりの可能性を広げられます。授業や活動の中で、生徒がいきいきと学ぶ姿を見ることは、私たち指導者にとって何よりの喜びです。また、教職は自分自身も成長できる仕事だと思います。よりよい授業を工夫し、実践できたときには大きな達成感が得られます。日々の教材研究もやりがいを感じています。授業は教師だけでなく、生徒とともに築き上げていくものだと考えています。



今はどんな仕事をしていますか？



吉田 先生

今は小学1年生の担任をしています。トイレの使い方や挨拶の仕方など、分からないことも多い1年生と一緒に、日々の生活の仕方を確認しながら授業をしています。また、校務分掌として、児童が参加する安全教室の運営や、ICT関連の仕事をしています。安全教室の運営では、警察署などの関係機関と連携を取り、ICT関連の仕事では、ラジカセやデジカメ等の機器の管理をはじめ、児童が使うタブレットやその使用のためのアカウント管理もしています。



渡邊 先生

現在は中学校・高等学校での教員をしています。免許を複数所有していることもあり、中学生と高校生の両方を指導しています。中学1年生から高校3年生まで幅広い年齢層を対象としていますが、指導するという点では共通する部分も多いと感じます。教科指導はもちろん、学級経営、生徒指導、校務分掌など、学校が行う仕事は多岐にわたり、充実感を持って取り組んでいます。現在は学校全体を見渡す立場での職務も担うようになり、若手のころとは異なる立場の中で、日々の仕事に励んでいます。



市川 先生

現在、公立小学校で英語専科として働いています。2つの小学校で、3年生から6年生までの外国語活動・外国語の授業を担当しています。「自分のクラス」がないことに寂しさを感じることもありますが、様々な学年の数多くの児童と関わることのできる楽しさがあります。同じ単元の授業をしても、クラス、児童ごとに興味を持つ点や反応が違って面白いです。校務分掌では、外国語活動・外国語主任として英語に関する学校行事の計画、実施をしたり、他校の主任の先生方と協力しながら外国語研修会の運営をしたりしています。

子供たちと関わるのが楽しい

英語



市川 夏海 先生

埼玉県宮代町立
笠原小学校

まず、子供たちと関わるのが楽しいです。授業や休み時間、学校行事などの様々な場面で子供たちと関わっていく中で、それぞれの思いや頑張りが見えてきます。それを見守り、応援しながら、子供たちの成長に関わっていける点に教職の素晴らしさを感じています。また、学芸大で先生方や友人たちと学んできたことを教科指導や生徒指導に直接的に活かすことができるのも、この仕事ならではの、と思います。



今の仕事で大変だったことは何ですか？



吉田 先生

ICT関連での更新作業が大変でした。各アプリに含まれる、児童の学年やクラス等の情報更新に莫大な時間がかかりました。その更新作業が遅れると、日頃の学習でアプリを使用することが難しくなるため、計画的に進められるよう努力しました。日々実感していますが、仕事を進める際に、大人同士が見通しをもって十分な連携を取れていると、回りまわって普段の教育活動にも良い影響があります。そのため教員は、子どもとはもちろん、大人同士でも十分なコミュニケーションを取ることも重要だと感じます。



大学での学びが活かした経験について教えてください。



吉田 先生

ゼミでの学びが、日頃の仕事に活かしていると感じることが多いです。卒論を書く際には、多くの人に伝わりやすい構成や文章を考えました。そうした中で、情報を人に分かりやすく伝えるための工夫を知り、授業を考える上でもその工夫が活かしています。また、ゼミ長として、ゼミに所属していた、色々なニーズをもった学生の意見を聞きました。そうした中で、様々な人の考え方やものの見方を知り、今では学級内にいる多種多様な子ども達の支援の際に役立っています。



渡邊 先生

部活動での取り組みです。私は4年間硬式野球部に所属しました。小学校から続けてきた野球でしたが、大学では怪我が続き、思うような活動ができませんでした。怪我で過ごした4年間は大変悔しいものとなりましたが、この経験があったからこそ、最後までやり抜くことの大切さ、困難に立ち向かう強さを学んだと思います。順調にいかなかった分、経験が力となり、現在の仕事にもつながっていると感じています。一人暮らしも良い経験でした。全国各地から集まった仲間とともに過ごした日々は一生の財産となりました。



市川 先生

大学での学びは、英語専科として働く上での自分の根幹となっています。大学では英語教育を専門とし、第二言語習得理論から模擬授業まで、理論と実践の両面から学びました。現在も、年間指導計画や単元計画を作成する際には、学んだ理論を意識しながら活動を計画しています。「英語が苦手」と言っていた子供が英語を一生懸命に聞き、少しずつ自分でも話せるようになっていく姿を見ると、改めて大学で英語教育を学んで良かったと感じます。





渡邊 先生

教師として仕事を学んでいくことです。初めのところは何もかもわからない中でのスタートとなります。その中で、先輩や先行実践から学びながら、自分自身の教育観を身に付けていくことが大切だと思います。教職に就いて20年以上が経過しましたが、これまで数えきれないほど多くの先生方に様々なことを教わってきました。生徒との向き合い方、授業の進め方など、少しずつ自分のものにしていったように思います。仕事を学ぶことは大変な面もありますが、地道な努力を続ける必要があると感じます。



市川 先生

小学校の英語専科として、たくさんのクラスで授業をしています。外国語活動は週1時間、外国語は週2時間しかありません。その短時間で数多くの子供たちの名前や顔を覚えていくことに毎年苦勞をしています。授業の中でのやりとりから少しずつ一人ひとりの情報を積み重ね、関連付けることで覚えています。また、各クラスの授業時数を確保するためのスケジュールを組む際には、パズルをしている気分になります。担任の先生方に協力していただきながら、必要な時数を確保しています。

休日の過ごし方は？ 最近熱中していることは？



吉田 先生

基本的に読書と料理をして、ストレス発散をしています。読書は、小説や新書など、一見教育とは関係なさそうな本も含めて、様々なジャンルの本を読むようにしています。ネットで本を買うこともありますが、敢えて本屋に行って、自分では買わなさそうな本を買ってみることもあります。料理は、普段は手軽に美味しく作れるレシピを調べ、休みの日には少し凝った料理にもチャレンジします。また、休みの日には旅行に行くことも多いです。夏休みなどで、まとまった休みを取って、同じ町に何泊もしていると、違った魅力が見えてきて楽しいです。



渡邊 先生

休日は旅行や趣味でリフレッシュしています。適度に息抜きをしたほうがアイデアも浮かびやすくなり、身体もよく動くようになります。生徒の前ではいつも元気な姿でいたいので、子どもたちの体力に負けないよう、しっかり休むことも大切にしています。学校が都内の中心地にあることもあり、最近では時間を見つけて郊外に足を運んでいます。自然に触れたり、寺社を訪れてゆっくりとした時間を過ごしたりしています。学校で働くことが好きで、自分の望んだ仕事に就いていますが、趣味や自分の時間も大切にしています。



市川 先生

学生時代に友人としていた「謎解き」に一人で挑戦しています。出かけた先でポスターを見て、久しぶりに参加したところすっかりはまってしまいました。友人とワイワイ話し合うのも楽しかったですが、じっくり一人で考えることの楽しさに気づき、出かけた先やアプリで取り組んでいます。行ったことのある場所でも、じっくり観察したり新たな発見があったりして、見方が変わるきっかけになります。

教育支援ってなに？



教育支援課程とは

社会や教育の課題が多様化・複雑化する中で、さまざまな専門性を持った人材が学校と連携や協働することで問題を解決していくことが今、求められています。こうしたニーズに応えて、東京学芸大学が日本で初めて設置したのが、教育を支援するスペシャリストを目指す「教育支援課程」なのです。

では、教育支援課程ではどんなことを学べるのでしょうか？ 卒業した後はどんな仕事に就いているの？ 大学での学びは仕事に活かされている？

気になる疑問を、教育支援課程を卒業し、現在教育支援職として働いている先輩方に尋ねてみました！



仕事の魅力について教えてください。

お互いにある気づきを共有できる

表現教育



小野 佳奈 さん

東京都渋谷公園通り
ギャラリー 学芸員

香川県・直島の美術館や地方の公立美術館、地域アーツカウンシルと、さまざまな場所で、また、さまざまな形で文化芸術に関する仕事をしてきました。美術や芸術に関わり続けているのは、作品やプロジェクト、場所を通して関わるさまざまな方とともに、新たな視点を獲得し続けられるからかなと思います。一つの作品の鑑賞を通して、あるいはプロジェクトを通して、私自身も気づきがあり、また、相手にも気づきがあって、それを共有できること、それをきっかけに考え続けられることがこの仕事の魅力だと感じています。

アプリ開発を通じて学校現場を支えられる

多文化共生



辻林 佑菜 さん

東京書籍株式会社

学生時代から「力になりたい」と願っていた学校現場を、アプリ開発を通じて支えられることが一番のやりがいです。自分が関わった教材が全国の教室で使われることには大きな責任を伴いますが、多くの仲間と協力して教育の未来をより良くしていく過程に、社会人ならではの楽しさを感じています。

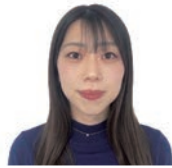
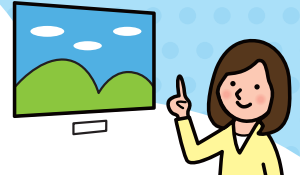
現在は東京書籍で、どの子ども等しく学べるデジタル教材を企画中です。大学での学びや実習経験を活かし、現場の先生や子どもたちに寄り添った「温かみのあるものづくり」を何より大切にしています。

今はどんな仕事をしていますか？



小野 さん

美術館の学芸員をしています。今は、東京都渋谷公園通りギャラリーという都立施設でアール・ブリュット（おもに専門的な美術教育を受けていない、独学であったり、福祉施設等で制作している方）の作品を、展覧会を通してひろく紹介しています。以前、所属していた美術館では教育普及活動にも携わっていて、学校への出張授業や対話型鑑賞なども行っていました。他にも美術館のアクセシビリティ、さまざまな方が美術館に行きやすく、過ごしやすくなるにはどうすればいいのかを考え、試行錯誤する日々です。



辻林 さん

現在は東京書籍株式会社で働いています。教科書のイメージが強い会社かもしれませんが、私はデジタル教材の開発を専門に担当しています。今の学校にはいろいろな背景や特性を持った子どもたちがいますが、どの子どもも取り残さずに学べる「個別最適な学び」を実現したい。そのために、現場の先生や子どもたちが本当に求めているものは何かを調査したり、新しい事業の種を検討したりするのが私の役割です。



野中 さん

私は現在、週4日、相模原市教育支援課のカウンセラーとして勤務し、週1日は東京都公立学校のスクールカウンセラーとして活動しています。市の相談室や学校において、不登校や友人関係、発達、学習、性格・行動面などに関する悩みについて、児童生徒や保護者からの相談に応じるとともに、教員へのコンサルテーションも行っています。必要に応じて心理検査やプレイセラピーを実施し、一人ひとりに寄り添った支援を心がけています。



子どもたちを身近で応援できる

カウンセリング



野中 藍子 さん
スクールカウンセラー

辛く苦しい気持ちを抱えながら生きている子どもたちが、自分の力で壁を乗り越えようとしていたり、自分らしさを見つけしていく過程を身近で応援できることにやりがいを感じています。また、保護者や教員とともに子どもたちの成長のために何ができるかを考え、関わりを重ねる中で少しずつ環境が変わり、その成長を共に喜べることも、この仕事の魅力です。



今の仕事で**大変**だったことは何ですか？



小野さん

展覧会やプログラムの企画です。特に、仕事に関わっている現代美術では、いかにして時代の空気を読み取り、社会に問いを投げかけられるかが重要だと考えています。設定したテーマでどのように作家を紹介し、かつ、多くの方に届けられるような内容にできるか。作家・作品の選定から、展示空間の設計、会期中のイベント実施、解説・キャプションの執筆、チラシ等広報物の作成と、それらに関する事務に至るまで、一つひとつ、どういう意図でそれをするのか自問しながらなので苦しいですが、やりがいのある仕事です。

大学での**学び**が活かした経験について教えてください。



小野さん

表現教育コースの先生方は、自分で問いを見つけながら学び続けていくことの大切さを教えてくださいました。少しでも興味があるなら違う教室の授業やゼミであっても参加してみるよう勧めてくれたり、趣味で続けていたピアノを応援してくれたりと、大学での経験を通して、世界は広がりました。面白かった授業のテーマや内容は、今でも自分の興味につながっていると感じます。さまざまな授業や活動で表現や芸術、文化、教育について学ぶことで、視野が広がり、多角的に物事を見る力が養われたように思います。



辻林さん

多文化共生学科で学んだ「多様性を認め合う」姿勢は、今取り組んでいるデジタル教材開発の根底にある大切な指針です。

また、教育実習で先生方の試行錯誤を間近で見た経験も、私の原点になっています。大学で得た多角的な視点と、現場への共感。この2つがあるからこそ、単なる便利な道具を作るのではなく、先生や子どもたちの気持ちに深く寄り添った製品づくりに向き合っているのだと実感しています。大学時代の学びが、今の仕事の土台になっています。



野中さん

発達心理学や教育心理学、多職種連携など、子どもや親子関係、学校に関する分野をじっくり学べたことや、実際にロールプレイでカウンセリングを学べたこと、学校での実習経験は、現在も働く中で基盤になっていると感じます。また、所属していたゼミでは自分について話す機会があり、人に受け止めてもらう安心感や、自分がどのようなときに感情が動きやすいのかわかることができました。こうした経験は、相談の場面で気持ちが揺れたときにも、落ち着いて対応する支えになっています。





辻林 さん

専門的な調査を進める中で、大学の教授や現場の先生から直接お話を伺う機会が多いのですが、そのたびに自分の知識不足や視野の狭さを思い知らされます。現場の悩みはとても複雑で「これさえあれば解決」という単純な正解がありません。壁にぶつかっては「どうすればいいんだろう」と迷うことばかりですが、その都度学び直し、多角的に物事を見る大切さを学んでいるところです。



野中 さん

相談を受ける中で、子どもたちや保護者の抱える辛さに触れ、自分自身も気持ちが揺さぶられたり、辛い気持ちになることがあります。そのような中でも、自分と相手の気持ちを混同せず、落ち着いて話を聞き続けることには大変さを感じます。また、子どもたちや保護者と教員との間で思いがすれ違い、板挟みとなる場面もあります。その時に、それぞれの気持ちや考えを受け止めながらも、何が大切かをどのように伝えるか悩むこともありますが、対話を重ねることを諦めず、真摯に向き合うことを心がけています。



休日の過ごし方は？



小野 さん

社会人のリアルを赤裸々に話しますが（笑）忙しい時期は仕事で体力を使い切っ
てしまいがちで、休日は寝ていることが多いです。そんな日は家事で1日が終わっ
てしましますが、気分転換にヨガや散歩に行くようにしています。元気な時は、気
になっている展覧会を見にギャラリーや美術館に行ったり、好きなカフェや服屋さ
ん、本屋さんに行ったり、友人と会ったりしています。休日を頑張りすぎるとその
後の生活にも影響するので、無理し過ぎず、どうにでもできる余白の時間をつくる
ように意識して過ごしています。



辻林 さん

仕事とプライベートを切り替えるため、休日はよくサッカー観戦に行っ
ています。スタジアムの熱気の中で応援に夢中になる時間が、私にとって一番
のリフレッシュです。時には試合に合わせて遠征し、旅を楽しむこともあります。
仕事とは違う環境で刺激を受けたり、心身ともにリラックスしたりす
る時間は欠かせません。



野中 さん

大学時代はさまざまなアルバイトに取り組みました。そこで出会った人たちとは
今もつながりがあり、社会人になってからもよく会っています。そうした人たちと
過ごす時間は、今でも大切なものです。また、アルバイトでお金を貯めて自分の
やってみたいことに挑戦する中で、自分は旅や登山が好きで、自分に合ったストレ
ス発散方法だと気づきました。働く中では大変なこともありますが、そうした時間
を楽しみに日々頑張ろうと思っています。



江角 周子

総合教育科学系 教育心理学講座
臨床心理学分野

専門について教えてください。

学校心理学、教育相談です。学校生活のなかで苦戦する子どもへの援助、子どもの成長を促す援助について考える領域です。その中でも近年は、学校や学級以外の「新しい学びの場」での不登校支援を主な研究テーマとしています。校内教育支援センター、教育支援センター（適応指導教室）といった言葉を聞いたことがあるでしょうか。そうした場で調査を通して、支援の内実や成果、課題などを明らかにしながら、子どもたちを取り巻く環境を整えるために必要なことは何だろうかといったことを考えています。

学生（高校生）の皆さんに期待することは？

誰かと語り合い、共に考える、そんな時間を大事にしてもらいたいと思います。知識を得ることだけではなく、明確な答えの出ない問いに向き合ったり、「当たり前」を問い直したりすることが大学での学びやその後の社会生活においては重要になると思います。気づいたことや気になったこと等について、たどたどしくてもいいので言葉にしてみても考えを深める。そうした経験の積み重ねがきっとみなさんの力になると思います。



森本 康彦

機構・センター 大学教育研究基盤センター機構
ICT/情報基盤センター

専門について教えてください。

私は、ICTや生成AIを活用し、子どもや学生が主体的に学び続けられる教育のあり方を研究しています。近年は特に、学びの場面で生成AIをどのように活用すれば、考える力や探究する力を伸ばせるのかに力を入れています。探究的な学びの過程をどのように設計し、学習の記録や振り返り（eポートフォリオ）を通して成長を可視化できるかを重視しています。成果や結果だけで評価するのではなく、問いを立て、試し、対話し、振り返るといった学びのプロセスそのものを価値づけることが重要だと考えています。こうした視点から、学校現場や先生方と協働しながら研究・実践を進めています。

学生（高校生）の皆さんに期待することは？

正解を早く出すことよりも、「なぜだろう」「もっとよくするにはどうしたらいいだろう」と問い続ける姿勢を大切にしてほしいと思っています。生成AIは便利な道具ですが、考えることを代わってくれる存在ではありません。自分の興味や違和感を出発点に、仲間との対話や挑戦を重ねながら学びを深めてください。その過程を振り返り、次の行動につなげていくことで、学びは確かな力として蓄積されていきます。



前原 健二

機構・センター 先端教育人材育成推進機構
次世代教育研究グループ

専門について教えてください。

教育の制度や政策を研究しています。ずっと継続して取り組んできたのはドイツの教育改革の研究です。日本とドイツはよく似ていると思われることもありますが、教育制度はかなり違っています。たとえばドイツはだいたい十歳で「大学進学につながる学校」とそれ以外の学校に分かれる戦前期のシステムを今も維持しています。批判の多いこの制度がなぜ今も保持され、それなりに機能しているのか。そうした外国の仕組みをよく理解することで日本の現状を捉え直し、改革の方向を考える材料が得ることが教育制度研究の役割です。

学生（高校生）の皆さんに期待することは？

教育制度を学んできた私は、入試システムを中心に置いた日本の教育の仕組みはよくないと思っています。それでも叶えたい目標があって、そこに至る道のりに入試があるなら、全力で挑戦してほしい。ただし、入試を自分の勉強のゴールにしてほしくはありません。大学にはそれまでとは比べ物にならない自由な時間があります。AIの時代だからこそ、たくさんの本を読み多くの知識を蓄え考える経験を積んで、まだ誰も見たことのない世界を生きるための足場を自分の中に作る大切だと思います。



花家 彩子

芸術・スポーツ科学系 音楽・演劇講座
演劇分野

専門について教えてください。

演劇と教育の関係について探究しています。演劇は、人と人が同じ空間に集まり、見る／見られる関係の中で成り立つ芸術です。その特性は教育と相性がよさそうに見える一方で、実際にはうまくいかない場面も多くあります。わたしはこの複雑さに関心を持ち、歴史や理論、社会との関係から考えています。演劇などの表現活動を、特別な技術や才能の成果としてではなく、人と人との関係や思考を予測不能なかたちで媒介するものとして捉え直し、その経験がどのようにわたしたちに影響を与えるのかを研究しています。

学生（高校生）の皆さんに期待することは？

部活や地域の活動、お稽古ごとなどで、一生懸命芸術に向き合ってきた人ほど、「結局、何が残ったのだろうか」と感じる瞬間があるかもしれません。特に進路や学びの継続を考えるタイミングでそうした疑問が生まれたなら、ぜひ一緒に「わたしたちにとって芸術の経験はどんな意味を持つのか」を考えたいと思います。大学での学びにおいては、表現活動を否定するのでも美化するのでもなく、人を変化させるものとして捉え直すことが可能です。今まで視界に入ってきた選択肢を選ばなかった人と、一緒に「次の問い」を探究していきたいと思っています。



さあ 東京学芸大学で学ぼう

東京学芸大学には、学校教育教員養成課程と教育支援課程があります。

学校教育教員養成課程って何？

学校教育教員養成課程は学校の先生をめざす人のための課程です。

全4専攻から成り、それぞれで幼稚園教諭、小学校教諭、中学校・高等学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭を主として養成します。

教育支援課程って何？

教育支援課程は学校と連携したり協働して教育にたずさわる、教育支援職（50・51ページ参照）をめざす人のための課程です。全7コースから成り、それぞれのコースの特性に応じて、学校や地域、教育行政、教育関連企業、教育関連非営利組織や海外などで専門性を活かし様々な支援をする人を養成します。

どんな免許や資格がとれるの？

学校教育教員養成課程の全ての専攻・コースでは、卒業と同時にその専門に応じた教員免許に必要な要件を満たすことができます。（詳しくは72ページをご覧ください。）

教員免許以外の資格として、学校図書館司書教諭や学校司書、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設、教育委員会で学校教育を支援するための資格（司書、学芸員、社会教育主事・社会教育士）の取得をめざすことができます。また、幼児教育コースでは保育士の資格の取得、ソーシャルワークコースでは社会福祉士の資格の取得及びスクールソーシャルワーカーの認定をめざすことができます。（詳しくは73ページをご覧ください。）

課程・専攻(類)・コース・プログラム

学校教育教員養成課程

初等教育専攻(A類)

- 国語コース
- 社会コース
- 数学コース
- 理科コース
- 音楽コース
- 美術コース
- 保健体育コース
- 家庭コース
- 英語コース
- 現代教育実践コース
 - ◇学校教育プログラム
 - ◇学校心理プログラム
 - ◇国際教育プログラム
 - ◇環境教育プログラム
- ものづくり技術コース
- 幼児教育コース

中等教育専攻(B類)

- 国語コース
- 社会コース
- 数学コース
- 理科コース
- 音楽コース
- 美術コース
- 保健体育コース
- 家庭コース
- 技術コース
- 英語コース
- 書道コース
- 情報コース

特別支援教育専攻(C類)

- 聴覚障害・言語障害系コース
- 発達障害・学習障害系コース

養護教育専攻(D類)

- 養護教育コース

教育支援課程

教育支援専攻(E類)

- 生涯学習・文化遺産教育コース
- カウンセリングコース
- ソーシャルワークコース
- 多文化共生教育コース
- 情報教育コース
- 表現教育コース
- 生涯スポーツコース

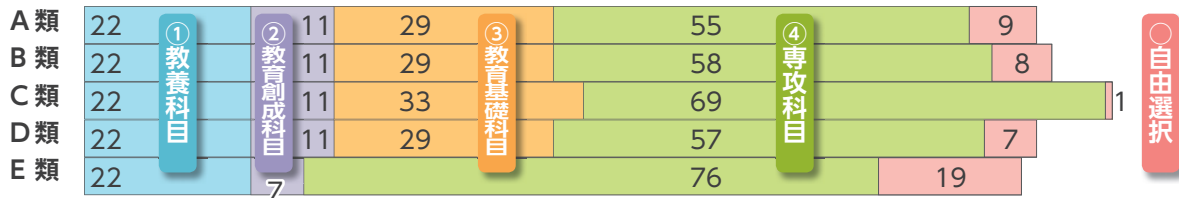


どんなことを学ぶの？

東京学芸大学では、「教養科目」、「教育創成科目」、「教育基礎科目」、「専攻科目」という4つの科目群を通して広く深く学んでいきます。

入学した課程によって、4年間で学ぶ科目の割合が異なります。授業科目の詳細については東京学芸大学ウェブサイトの、「授業ガイド」でご覧いただけます。

卒業に必要な単位数と科目群



※コース（プログラム）により単位数は異なる場合があります。

① 深い教養、豊かな知性を幅広く身に付ける「教養科目」

大学生にとって必要な深い教養と豊かな知性を幅広く身に付けられるよう、多様な視点から学ぶ科目群で、次の3つの領域で構成されます。

1 総合学芸領域

大学生としての学びの基礎を幅広く身に付ける姿勢を養うための科目です。

必修科目に位置付けられる「日本国憲法」「人権教育」「AI時代の情報」に加え、以下のカテゴリーに分類されます。

- (A) 「学びの基本」となる科目群
- (B) 人間の存在や営みについて深める科目群（人間の内容を扱う心理学や哲学、思想、文学、芸術等）
- (C) 社会の多様性や広がりを知る科目群（生活文化、地域文化、歴史学、社会科学、多文化共生等）
- (D) 世界の様々な事象を科学的に解明する科目群（自然科学、環境、情報）

2 健康・スポーツ領域

身体に関わる教養と技能を身に付ける領域で、必修科目の「スポーツ・フィットネス実習」と「ウェルネス概論」で構成されます。

3 語学領域

英語での発表を通し、意見交換を行うことを目的とする「英語コミュニケーションA,B」や、初習語学としてドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、イタリア語、スペイン語の語学力の養成を目的とする科目で構成されます。

② 未来を創造するための教育について学ぶ「教育創成科目」

変化が激しく予測困難な時代において、これからはより良い未来を「創造」していくことが必要不可欠です。「教育創成科目」では、子供・教師・学校が社会とともにより良い未来を創造していけるような教育の実現を目指し、そのために必要な資質能力を養うことを目標としています。

学校教育教員養成課程、教育支援課程の学生はそれぞれ以下に掲げる必修科目を履修し、自らの課題認識をもとにその他の選択科目の履修計画を自らデザインします。

【学校教育教員養成課程のみの必修科目】

- 「社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン」
教科横断的な学習やSTEAM教育等、教科・領域の枠組みを総合的に活用し、探究するプロセスを通じて学びを深める科目。
- 「学びを支えるファシリテーションの技法」
ファシリテーションの技法とともに学習するチームづくりの手法について学ぶ科目。
- 「チーム学校と多職種協働」
貧困や虐待など子供たちの置かれた多様な環境と、それを支援するための学校外も含めた連携のマネジメントについて学ぶ科目。
- 「教師のレジリエンスと自己管理能力の育成」
教師として安定した職業生活を送るため、ストレスにうまく適応する力とそのプロセス等について学ぶ科目。

【学校教育教員養成課程及び教育支援課程の必修科目】

- 「教育のためのデータサイエンス」

学校現場におけるデータの活用方法やデータサイエンスの基礎を学ぶ科目。

なお、「教育創成科目」は学校教育にフォーカスしたもの（Ⅰ群）と学校内外での様々な教育課題に関わるもの（Ⅱ群）から成り、学校教育教員養成課程と教育支援課程の学生が共通に学ぶ横断的な科目になっています。

③ 学校教育に関わる基礎を学ぶ「教育基礎科目」

学校教育教員養成課程のみに開設される学校教育にかかる基礎を学ぶ科目です。主に次のような内容について学校教育に関わる基礎を学び、実際の学校現場で教師の仕事を経験する「教育実習」や、4年間の振り返りと教師として働くための最後の準備を行う集大成の科目「教職実践演習」に繋がります。

- 教育の根本的な理念、歴史や、教育を取り巻く社会状況、教育制度、学校経営がどうなっているか等の基本的概念や基礎的な知識を学ぶ科目
- 教師や教職がどのようなもので、今日求められる教師の役割等について学ぶ科目
- 子どもの心と身体の発育や発達障害等への特別な支援について理解を深める科目
- 学校のカリキュラムの意義や編成方法について学ぶ科目
- アクティブラーニングなど教育の方法論や、教材及びICTの活用方法などについて学ぶ科目
- 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間の指導について学ぶ科目
- いじめ、不登校等への対応を含めた生徒指導や進路指導について学ぶ科目
- カウンセリングに関する基礎的な内容を含めた教育相談による支援について学ぶ科目

④ 専門分野について学ぶ「専攻科目」

各コースの教科や専門分野にかかる深い知識、高い技能、そして自ら考え実践する力を身に付けるための科目です。学校教育教員養成課程では、学校教育で扱う各教科（国語、社会、数学、理科等）、人間の発達や国際教育、環境教育等にかかる現代的な教育課題、特別支援教育や養護教育にかかる学びを深めます。実践力を身に付ける科目として、教育職員免許法で定める「各教科（保育内容）の指導法」や、専門的な学識と指導法との橋渡しをする「教育内容科目」を含み、学んだ知識や技能を実践に繋がります。

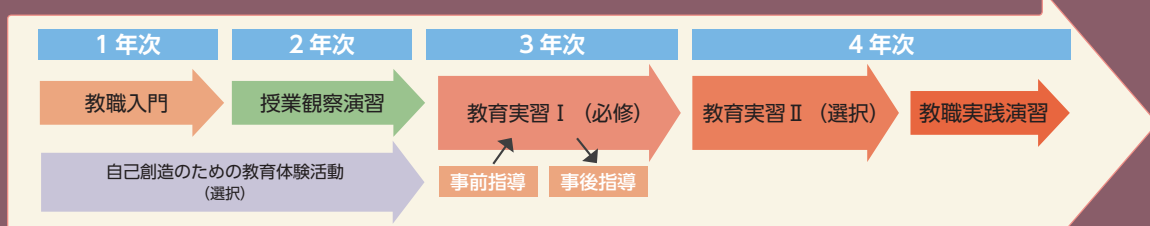
教育支援課程では、コースの特性に応じたグローバル化や情報化の進展、心の教育の必要性、表現やコミュニケーション等の専門的な内容や課程共通科目により、広く教育支援人材に必要とされる内容を学びます。立場を異にする様々な他者と連携・協働し、諸課題の解決策を導く実践力を身に付けるための科目も含まれます。

また、学校教育教員養成課程、教育支援課程ともに必修科目として初年次向け専門基礎科目の「入門セミナー」と、学びの集大成となる「卒業研究」を履修します。

○ 自らの学びをデザインする「自由選択」

上記、4つの科目区分から自由に科目を履修することができます。自らの課題認識に基づき、例えば「教育創成科目」から重点的に学びたい科目を選択したり、コースを越えて学びの裾野を広げるような科目を選択したりすることで、自らの学びを自由にデザインすることが可能です。

💡 教育実習を通じた4年間の流れ（学校教育教員養成課程）



教育実習を行うのは3年次ですが、そのための準備は1年次から始まります。1年次の「教職入門」では、授業や学校参観を通して、様々な教師の姿や教育実践に出会い、教師の仕事、学校における教育活動のよさや課題について理解を深めていきます。2年次の「授業観察演習」では、教育現場における授業映像等を視聴し、グループワークやディスカッションを行います。これにより授業観察の視点を得るとともに、学習指導案の構成や役割についても理解を深め、次年度の教育実習への問題意識を明確にします。このほか、「自己創造のための教育体験活動」において、学校現場等を体験する機会を増やし、教育実習に向けて準備を進めていきます。3年次の「事前指導」では、指導計画を作成し、実際に模擬授業を行ったうえで、附属学校で行う教育実習「教育実習Ⅰ（必修）」に臨みます。また、「事後指導」で振り返りや様々なフォローアップを行います。4年次の教育実習「教育実習Ⅱ（選択）」では、公立学校等の教育現場でさらなる経験を積み、授業実践や学級経営、児童・生徒理解に対する知見を深めていきます。最後に4年間の総まとめとして「教職実践演習」を受講します。「教職実践演習」ではこれまでの教育実習等での経験をもとに、「教職観」「教科基礎力」「学習指導力」「子ども理解力」「生活指導力」について、グループディスカッション等により省察し、自己の到達点と課題を確認します。



東日本唯一の教員養成フラッグシップ大学！

教員養成フラッグシップ大学は、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役としての役割を果たす大学のことを指し、本学は①先導的プログラムの開発、②全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開、③日本の教員養成制度改善に向けた提言を行います。

① 先導的プログラムの開発

令和の教師に求められる能力を整理

子供に身に付けさせる能力



変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造することができる力を子供に育成することができる教師

教師自身が身に付ける能力



学校や社会をより良く変革することに自律的・主観的に取り組むことができる力を有する教師

先導的な科目を開発

- ①「社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン」
- ②「学びを支えるファシリテーション技法」
- ③「チーム学校と多職種協働」
- ④「教師のレジリエンスと自己管理能力の育成」
- ⑤「教育のためのデータサイエンス」

★令和 5 年度より上記の 5 科目を新たに学校教育教員養成課程の必修に位置付け、令和の教師に求められる能力を養成。

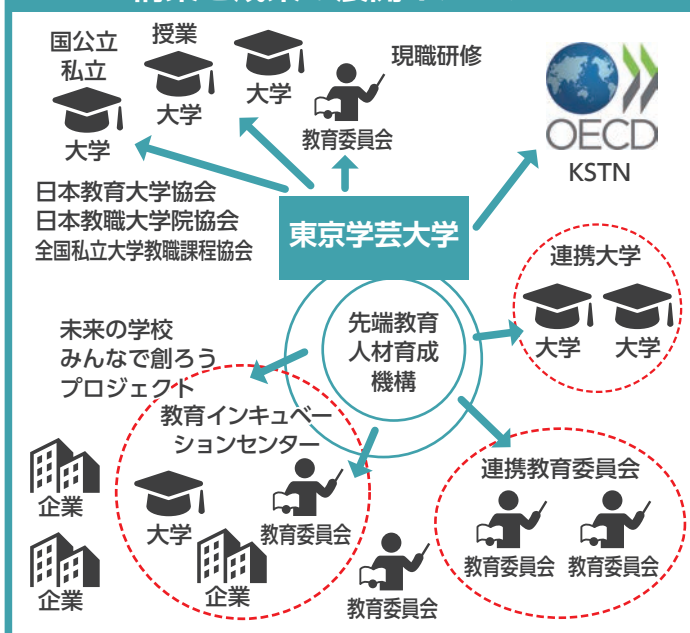
フラッグシップ特例の活用

フラッグシップ特例により、教育課程科目の柔軟な構成が可能に。
先の 5 科目を免許取得に必要な科目に位置付け、教職課程科目の見直しを実施。

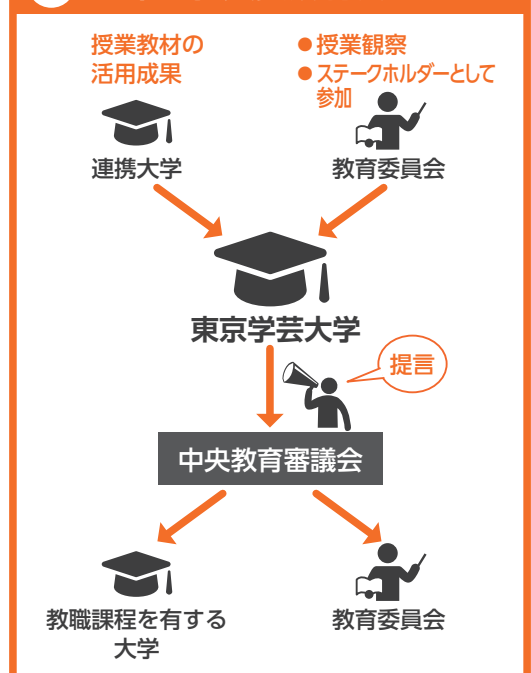


東京学芸大学独自の学びによる教員免許が可能に！

② 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開イメージ



③ 日本の教員養成制度の改善へ



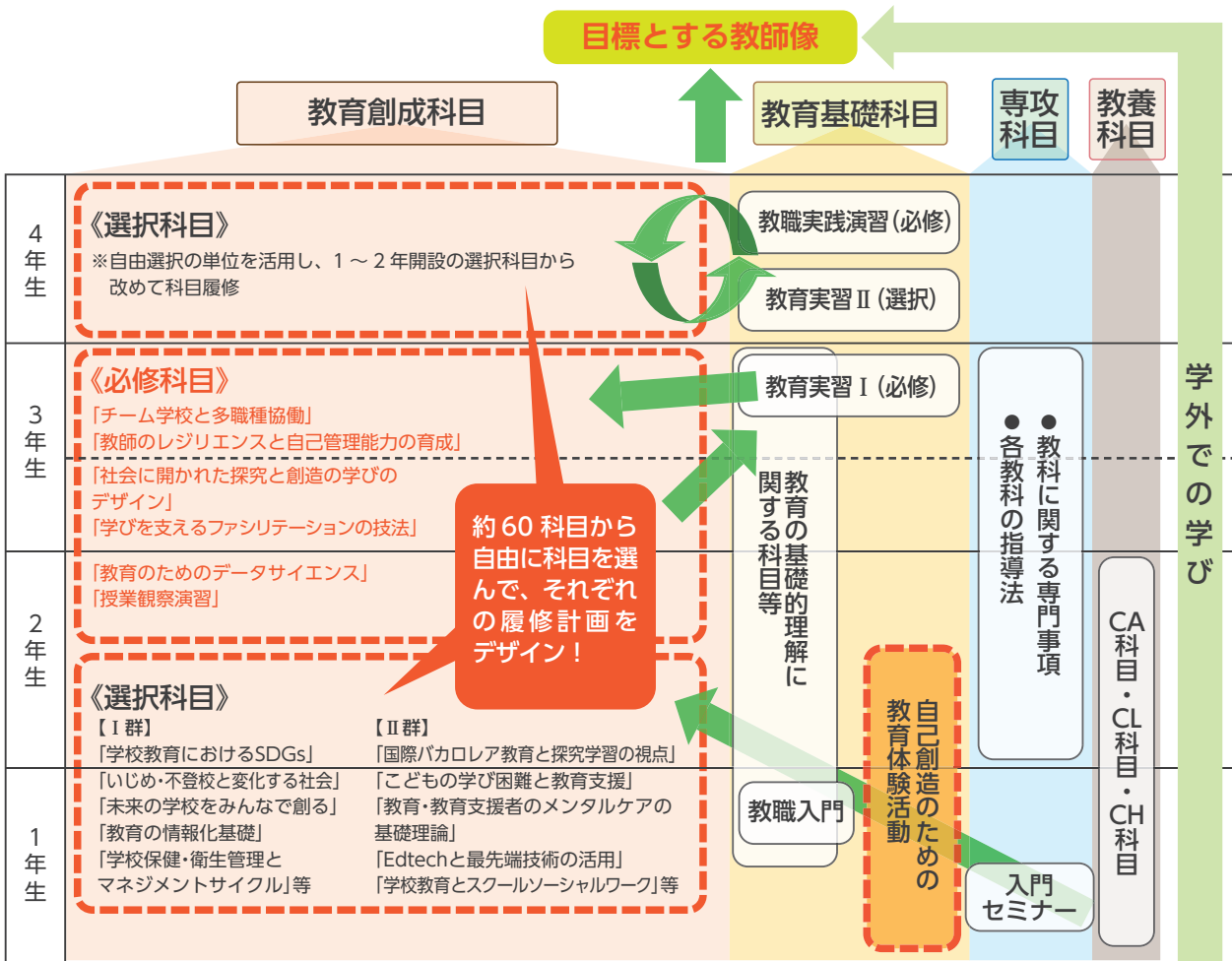


自律型カリキュラムデザイン

学校等での体験を目的とした授業科目「自己創造のための教育体験活動」や関係科目の履修を経て、自らの課題認識を認識し、ひとりひとりが目標とする教師、教育者像を設定します。

「自律型カリキュラムデザイン」とは、その目標に向けて、「教育創成科目（教育という営みの様々な課題について先端的な内容を学ぶ科目）」を中心に自ら履修計画を立てることのできる“生きた教員養成のプログラム”です。

自律型カリキュラムデザインの履修イメージ



【「自律型カリキュラムデザイン」に期待される4つの効果】

- ⇒目標とする教師、教育者像を定めるなど、学びの目的意識が明確になることによる学習効果の増大。
- ⇒それぞれのニーズにあわせて履修科目を選択可能。無駄のない個別最適なカリキュラムが実現。
- ⇒自ら履修計画を立てることによる主体性、自律性の成長。
- ⇒学ぶ側になって、体験的に、カリキュラムづくりを考える機会を提供。



これからの学校を創る先生をめざす



学校教育教員養成課程の目的

学校教育教員養成課程は、幼稚園・小学校の先生をめざす人のための初等教育専攻（A類）、中学校・高等学校の先生をめざす人のための中等教育専攻（B類）、特別支援学校の先生をめざす人のための特別支援教育専攻（C類）、養護教諭（保健室の先生）をめざす人のための養護教育専攻（D類）の4つの専攻から成ります。広い範囲での先生を養成していますので、将来、学校の先生として働きたいと思っている人に最適な専攻群です。学校教育教員養成課程では、そのために教員免許の取得が卒業の条件となっています。



東京学芸大学ならではのポイント

東京学芸大学の学校教育教員養成課程は、全国の国立教員養成系大学・学部の中で最も定員規模の大きい教員養成課程となっており、広い範囲での教員免許種に対応した課程構成となっています。

学校教育教員養成課程でのカリキュラムは、卒業後にすぐに自信をもって教壇に立てるように、多くの実践を経験できるものになっています。教育実習については、3年次に必修教育実習として東京学芸大学附属学校・園での実習を、4年次には、選択教育実習として、都内の公立学校・園、母校等での実習を行うことができます。また、複数の教員免許の取得を希望する学生に対しては、4年次の後半に、上記の教育実習と異なった学校種の実習を行うこともできます。このような豊富な実習カリキュラムにより、高い実践力のある先生を養成しています。

A類においては、小学校の教科を学んだ上で、自分の所属するコースについての専門分野を学びます。それらの専門分野には、国語・数学・理科・社会・音楽・美術・保健体育・家庭・英語・ものづくり技術など全教科に対応する専門分野が揃っています。このように小学校の先生でも、いずれかの教科についての専門性も兼ね備えることで、小中一貫校においても活躍できる先生の養成を目指します。また、A類で学べる専門分野には、学校教育・学校心理・国際教育・環境教育などもあります。これらは、学校教育現場での現在抱える課題に応じた分野であり、それらについての専門性をもつことにより、高い教育課題対応能力を備える小学校の先生も養成しています。さらに、A類の幼児教育コースでは、専門性の高い幼稚園の先生も養成しています。

B類、C類、D類においては、教員養成系大学ならではのカリキュラムにより高い実践力を獲得するとともに、自分の所属するコースに関する専門分野について深く学ぶことで、専門性の高い先生を養成しています。また、東京学芸大学には多くの大学教員が在籍し、それぞれ異なった専門分野をもつため、選択できる専門分野が非常に多様です。

以上のようなカリキュラムを学生に提供することにより、高い実践力と専門性を持ち、教育現場においてリーダー的存在になれる先生の養成を、東京学芸大学では行っています。



初等教育専攻

国語



演習形式の授業。それぞれ関心あるテーマを深め、発表し、議論を深めています。

ことばの森を探索し、真の教育力を培う

国語を得意とする小学校教員の養成をめざしています。日本の言語文化に対する広範な教養と高い言語能力・豊かな言語感覚を備えた指導力あふれる教員を育成します。2年次からは国際化する教育現場に即した日本語教育サブコースも設けられています。中学校・高等学校国語の教員免許も取得できます。

4年間の学び

A類国語の学びは、教科教育学としての国語科教育学の領域と、それを支える基礎科学としての日本語学、日本文学(古典文学・近代文学)、中国古典学、日本語教育学の全6領域で構成されています。これら6領域の授業のどこに比重をかけるかは、学問的関心や教育者像にもとづき学生自身が決定し、履修科目を選択することができます。1年次では諸領域の基本的な概念と枠組を、日本語学概論、日本文学概論(古典・近代)、日本文学史(古典・近代)、中国古典文基礎、日本語教育概論の講義で学びます。2年次からは、より専門性を深めるために、1年次の基礎をふまえつつ自らが調査研究してきたことを発表する演習科目が6領域で開設されています。特に日本文学は中古・中世・近世・近代・現代のように時代別の演習の授業を履修できます。また2年次からは国際化する教育現場に対応した日本語教育サブコースの選択もできます。他にも、日本語文法、日本語音声、日本語教育の方法、第二言語習得論など、日本語及び日本語教育に関する科目も豊富です。あわせて、それらの知識に基づきつつどのように指導するかを「国語科教材論」「初等国語科教育法」などで体系的に学びます。3年次からは自分が属する研究室で卒論に向けての準備が始まるので、2年次後半までにどの領域のどのようなテーマを深く究めたいか決めることになります。そして、4年次では4年間の学びの集大成として研究室の教員の指導を受けながら卒業論文をまとめます。

先輩からのメッセージ

A類国語コースの特徴は専門領域の広さにあると感じていま

す。「興味のある分野なんてないぞ」という方もご安心ください。私はいま、日本古典文学を専門としていますが、入学当初は何を学べばいいのか右も左もわからない状態でした。各科目の基礎から演習まで古典文学、近代文学、日本語学などを様々な分野を受ける中で古典文学に惹かれていきました。自分の興味から外れていると感じていた分野でも「あれ、意外に面白い!」と新しい出会いがたくさんあります。ぜひいろんな分野を巡ってください。国語コースは皆さんが当たり前のように使っている「ことば」をフィールドとします。「ことば」が織りなす文学、「ことば」の謎に迫る言語学、それらを教育に活かす国語教育。多くの出会いがあなたを待っています。

(橋本奈柚 4年)



外国人の子どもを対象に想定して模擬授業「くじらくも」(自主ゼミ「子どもゼミ」で)

特色ある科目

コース別入門セミナー、国語科カリキュラム論、国語科教材論、日本語学概論、日本近代文学概論、日本古典文学概論、日本古典文学史、中国古典文基礎、中国古典文献概論、日本語教育概論、日本語音声、日本語文法、児童文学、中国古典文学概論、異文化理解と心理、子どもの日本語教育



「臨地研究演習II」における地理巡検（神奈川県湯河原町・ミカン栽培地区での観察風景）

身近な生活から社会を知ろう

本コースには歴史学・地理学・哲学倫理学・法学政治学・経済学・社会学・社会科教育学の7分野があり、それらを幅広く学べます。2年生からいずれかの分野に所属して勉強を深めます。そこで学んだ知識や考え方等は、児童が主体的に取り組む学習を創造するなど、教員としてのバックボーンになります。

4年間の学び

1年次：社会コース入門セミナーで高等学校までとは異なる大学での勉強の方法について学びます。あわせて7つの各分野の必修・選択必修の概論科目を履修し、社会科の基礎的な概念や考え方を学びます。

2年次：7つの分野のいずれかに所属し、各分野の特色ある専攻選択科目を中心に履修していきます。これは基礎知識に基づいて応用力を獲得し、「社会に強くなること」を目的とします。これと並行して教職科目の初等社会科教育法等を履修し、社会科の考え方や教育・教材開発に関わる方法論、授業研究などに関して学びを深め、「社会科に強い」小学校教員として応用できる実践力を養います。

3年次：所属分野でのより進んだレベルの演習等に参加し、体系的な学修を深めていきます。9月には附属小学校での教育実習があります。それまでに学んだ知識やスキルを活かして授業を創っていきます。その経験・反省を基に、「社会科教材論」を通して教材研究を深めます。

4年次：学生生活の集大成となる質の高い卒業論文の完成をめざします。選択で6月を中心に公立小学校での教育実習を受けることができます。

本コースの重要な特色は、演習を中心とする少人数教育です。教員や仲間とともに行う社会や社会科に関する議論を通じて学問の楽しさを実感できるでしょう。

先輩からのメッセージ

社会ってどう動いているの？歴史の面白さをもっと伝えたい！そんな思いがあるなら、東京学芸大学の社会コースはぴったりです。地理・歴史・公民の各科目の内容を幅広く学べるのはもちろん、文献講読やフィールドワー

クなど体験しながら学ぶチャンスがたくさんあります。附属学校や連携する学校での実地での学びも多く、実際の学校現場の雰囲気を感じながら学びを深めることができます。そして教育や社会に興味を持つ仲間たちが集まっているので、話すたびに刺激を受け、自らの視野が広がっていく4年間です。「わかる楽しさ」を伝えられる社会科の教員を目指して、この東京学芸大学の社会コースで学んでみませんか？

（高野太郎 2023年度卒業生 東京学芸大学教職大学院2年）



歴史学分野のゼミ風景

特色ある科目

社会コース入門セミナー、社会科カリキュラム論、社会科教材論、社会科地域教材論、地域調査法、臨地研究演習、日本史研究と歴史教育、外国史研究と歴史教育、哲学・倫理学の諸問題、宗教思想の諸問題、国際関係論、刑法、経済学基礎論、経済学基礎演習、家族社会学、ジェンダーの社会学



初等教育専攻

数 学



数学教育の授業風景

学ぼう、伝えよう、美しい数学の世界

学生の数学的能力の育成と、小学校教員としての資質の養成を目的とする。小学校算数の内容を考察し、数学教育の理論と実践についての素養を身につけ、数学に対する興味と理解を深め、自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる。

4年間の学び

大学の数学は、高校までの直観的な説明とは異なり、一步一步階段を上るように緻密な論理を積み重ねて学習していく。物事を論理的に理解し、他人に明快に表現できるように努力でき、物事に対し自分の言葉で考え、表現できるように養成する。1年次に、大学の数学の基礎となる集合と論理、線形数学 I,II、微分・積分学 I,II を学ぶ。2年次に、基礎を踏まえて代数学 I,II、幾何学 I,II、解析学 I,II、確率・統計 I,II のそれぞれの専門分野の基本を学ぶ。3年次に、1、2年次で学んだ基礎的な数学の内容を踏まえて、数学分野においては、代数学各論、幾何学各論、解析学各論 A,B、確率論特論 I、確率論各論など現代数学の内容を学ぶ。数学教育分野においては、初等算数科教育法、算数科教育臨床といった算数の授業をどのように行うかという実践の基本を学び、数学カリキュラム論、初等算数科教材論で、小学校での算数をどのように体系的に教えているかを学ぶ。その上で、自分がより深く学びたいものを選び、卒業研究として4年次に学ぶ。

先輩からのメッセージ

A類数学コースでは小学校の教員に必要な資質・能力を学びながら、数学を専門的に様々な分野から学ぶことができます。小学校の免許に加えて、中・高の数学科の教員免許も取得でき、小・中・高のつながりを意識した授業づくりにも取り組めるでしょう。私も、算数・数学教育を通して、子どもたちにどのような学びを届けたいのかをじっくり考え、「数学」「数学教育」「教育」の三つの領域の関わりを味わいながら日々新たな学びを深めてい

ます。互いに刺激を受けながら成長できる仲間との出会いもこのコースの特徴です。あなたも4年間同じ目標を持つ仲間と意見を交わしながら、算数・数学の魅力を次世代の子供たちへ伝えてみませんか？

(大杉ステンピエン武司 2025年度卒業生)



ゼミでの風景

特色ある科目

線形数学 I,II、微分・積分学 I,II、集合と論理、位相数学、位相空間論、代数学 I,II、幾何学 I,II、解析学 I,II、確率・統計 I,II、代数学各論、幾何学各論、解析学各論 A,B、確率論特論 I、確率論各論、数学カリキュラム論、初等算数科教材論、算数科教育臨床



初等教育専攻

理科



物理学実験：オシロスコープを用いた音波の観測

感じよう自然の不思議 育てよう科学する心

ものごとを科学的に捉えて判断する能力を高める指導力をもつ教員を養成します。自然科学の本質を学んで理解を深めるとともに、理科教育の方法論を学ぶことで、科学のおもしろさを子どもにわかりやすく伝え、理科の力を引き出す方法について考えることができます。

4年間の学び

自然科学の学習は、基礎から始め徐々に高度な内容へと段階を経て学び、専門性を高めていきます。この特質を考慮して、理科に関わる自然科学の全領域と理科教育学にわたる充実した科目群が、1年次から4年次の各学期に順を追って開設されています。理科教育学・物理学・化学・生物学・地学の各教室に所属して、それぞれの専門性を高めながら教員としての資質を養います。講義以外に実験・実習・演習という形態の授業科目があり、より能動的に関わって主体的・体験的に学ぶことが求められています。1年次には、物理学・化学・生物学・地学の基礎となる講義と実験を履修します。2年次には、教職および各教科に関する科目と理科の専門性を高める学習が本格的に始まります。3年次には、教職および各教科に関する科目とともに、より専門的・発展的な理科の専門性を学習します。ゼミや実験等、研究室での活動が本格化するのもこの時期です。また、秋には附属小学校での教育実習があります。理科教育の指導法や技術を生かし、科学的な見方・考え方を子どもに伝える機会となり、それまでに学んだことを実践し振り返ります。4年次には、指導教員の下で卒業研究を行います。未知の課題に対して向き合い自ら真理を探究することを通じて、自然科学への理解と科学的な見方・考え方をさらに深めます。

先輩からのメッセージ

A類理科コースでは、小学校教員となるための幅広い知識から中学校・高校教員となるための専門的な理科の知識まで幅広く学ぶことができます。高校での履修の有無に関わらず、物理・化学・生物・地学の全分野を基礎から大学レベルまで学べる

ため、十分な知識を4年間で身につけることができます。また、各分野の本格的な研究に挑戦できるのも大きな魅力です。私は3年次から無機化学分野の研究室に所属しています。溶液調製や質量測定などといった基本的な実験操作から樹脂合成・吸光度測定・データ解析まで、様々なことに取り組んでいます。1年次から学習した基本的な知識から応用的な知識までを総動員し、試行錯誤を重ねながら研究に向き合う経験は、自然科学の奥深さと面白さを実感させてくれます。教育学と理科の専門性を深めたいあなたと学芸大学でお会いできることを楽しみにしています。(2025年度卒業生 岩元優人)



化学実験：アスピリンの合成

特色ある科目

理科コース入門セミナー、物理学概論Ⅰ、化学概論Ⅰ、生物学概論Ⅰ、地学概論Ⅰ、物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験、理科カリキュラム教材開発基礎Ⅰ・Ⅱ、理科学習評価論、初等理科教育法



初等教育専攻

音楽



「音楽科教材論A」(合唱)の授業の様子

心を育む音楽の力、音楽の世界を広げる

本コースでは、小学校全教科の学習内容や指導法を学ぶとともに、音楽の専門的な知識や技術を習得することができます。音楽に対する深い愛情、豊かな感受性、柔軟な社会性を備えた小学校教員の養成を目的としています。

4年間の学び

本コースでは、音楽の基礎的な知識と技能を幅広く学ぶと同時に、小学校全科の学習指導に関する内容を学ぶようにカリキュラムが組まれています。1、2年次には小学校の音楽科教員としての土台となる音楽的資質、知識を高めるための授業として、一つの専門に特化する形態ではなく、声楽・ピアノ・管弦打楽器・作曲・音楽学・音楽科教育の基礎的な科目を幅広く学びます。更に初年度春学期には音楽コース入門セミナーとして、4年間の学びに必要となる文献の探し方や楽曲解釈、ピアノの構造や扱い方、発声法、演奏における身体の使い方など、適宜外部より専門家を招き学びます。また興味に応じて和楽器・邦楽歌唱法・民族音楽などの科目も選択できます。2年次からは、音楽以外の教科に関する科目の履修を開始します。3・4年次では教育実習関連の科目を履修し、音楽科を中心とした小学校教育の理論・実践的な学びを深めます。並行し多くの学生が中学校・高等学校の音楽教員免許取得を希望し履修しております。3年次には声楽・ピアノ・管弦打楽器・作曲・音楽学・音楽科教育の実技と理論に関する6つの専門分野から一つを選択し、4年次秋学期に行われる卒業演奏、または卒業論文発表に向けて取り組んでいきます。本コースの特色は、レッスンなど演習を中心とするものが多く、教員との距離が近いことが挙げられます。4年間を通して、音楽の楽しさを実感できることと思います。

先輩からのメッセージ

高校の時、ピアノについてもっと深く学びたいと思い、A類音楽科への入学を決めました。現在は、岩手県の小学校で4年生の担任と合唱部での伴奏や指導をしています。これも大学での

各教科指導法の学びや、合唱等の授業、自主ゼミでの経験が、子どもたちへの指導に生きていていると思っています。特に専攻のピアノでは、丁寧かつ様々な知識を指導頂き、充実した日々を過ごさせて頂きました。現在、現任校の合唱部は全国大会に出場するなど、盛んに活動しています。伴奏や指導は大変ですが、大学で教員としての土台を培い、様々な学びや経験を得ることができたこと、そして卒業してもなお、大学の先生方や友人とのつながりがあることが子どもたちと共に音楽を創り上げる楽しさにつながっています。

(千葉のどか 2016年度A類卒業)



ピアノの実技レッスンの様子

特色ある科目

音楽コース入門セミナー、基礎声楽実技、合唱、ソルフェージュ、基礎ピアノ実技、基礎管弦打実技、作曲法、指揮法、音楽学概論、音楽教育特別研究、オーケストラ、吹奏楽、和楽器、邦楽歌唱法、民族音楽演習、ポピュラー音楽演習、音楽療法概説、リトミック演習



初等教育専攻

美術



芸術館において「ふれる・もつ・かんじる展」の展示準備

図画工作で教員になる、未来をつくる

本コースでは、美術の専門的な技能や理論を学ぶことを通して、豊かな発想力や高い指導力を備えた図工を得意とする小学校教員や、図画工作専科の教員の育成をめざしています。また、中学校美術、高校美術、高校工芸の教員免許も取得可能です。

4年間の学び

1年次には美術の基礎力を養うための必修科目と図画工作科及び美術科教育に関する科目を履修して、図工及び美術科教育に対する興味、関心及び理解を深めてもらいます。この間に、自分がどの領域に興味や関心が持てるかを探ることが重要です。2年次には1つの領域を選び、選択科目である「美術演習AⅠ・AⅡ（またはBⅠ・BⅡ）」を履修します。この授業は美術の専門的な知識や技能を段階的に積み上げていくことが目的となっています。また、それぞれの領域の選択科目を履修することで、教員としての幅広い視野を持つこともできます。3年次には、1、2年次に学んだ知識や技能を基盤として教職科目を履修していきます。3年次の秋学期には附属学校での教育実習Ⅰがあり、今までの成果を生かして授業に取り組みます。4年次には卒業研究に取り組みます。絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、美術科教育の領域の中で4年間の集大成として相応しい卒業制作及び論文発表を行います。美術の造形活動や理論研究を通じて図画工作科及び美術科教員としての資質や能力を磨き、創造的な視野を持った教育実践を行えるような人材になって欲しいと考えています。

先輩からのメッセージ

本コースの最大の魅力は、自らの感性を研ぎ澄ます「表現者」としての研鑽と、それを次世代に伝えていく「教育者」としての専門性、両方を追求できることにあります。1年次は、絵画・彫刻・デザイン・工芸など様々な領域や分野に触れて基礎力を養い、2年次からは、自ら選んだ研究室で、表現や教育の核心へと迫ります。美術の学びを

軸にしつつ、小学校教員になるために国語や算数、体育から家庭科まで全教科の知識を身につけることができます。表現を追求する日々も、あらゆる教科の垣根を越えた知の探究も、すべての学びが私を大きく成長させてくれました。この大学で過ごす4年間は、あなたの人生にとって、かけがえのない宝物となるはずです。本コースで、あなただけの物語を始めてみませんか。

(2025年度卒業生 片野結菜)



洋画演習室における壁画制作

特色ある科目

図画工作科教材論、図画工作科カリキュラム論、美術コース入門セミナー（A類）、絵画基礎Ⅰ、彫刻基礎Ⅰ、デザイン基礎Ⅰ、工芸基礎Ⅰ、日本東洋美術史概論、美学



初等教育専攻

保健体育



運動方法学総論 A では習熟位相に応じたコツの指導について動画を交えて学びます

体育を核にして小学校教育を考える

小学校で教えるさまざまな教科の中から、特に体育を専門的に学ぶことを柱にして小学校教員を養成しているのが本コースです。講義と実技の双方からなる多種多様な授業を通じて、小学校における教育全体の理解へ迫り、教員としての資質を磨き、指導力を養成することがこのコースの特徴となります。

4年間の学び

1年次：専門的な体育実技や保健体育分野における基礎学問を学習し、「教職入門」で教職の世界へ第一歩を踏み出します。2年次：「野外環境教育学」「体育・スポーツ社会学」などにより多くの保健体育分野の基礎学問を学習します。また、「保健体育科教材研究 A」「保健体育科模擬授業演習 A」などの授業を通して、保健体育の教材研究や授業方法の学習や教育実習の準備が始まります。さらに、体育を含め各教科の指導法の学習が始まります。夏季休暇中には、2日間の集中授業で3年次の教育実習の映像を観察する「授業観察演習」があり、翌年の教育実習の具体的なイメージを持つ機会があります。3年次：「保健体育科演習」など教育実習に直接関わる科目を履修し、教育実習の「事前指導」を通じて研究課題を決めていきます。初めての教育実習は附属小学校で行い、教材研究や授業実践を行う力を高めていきます。実習終了後には「事後指導」で実習の振り返りをし、4年次の選択実習での課題を設定します。4年次：それまでに得た知識や視点からテーマを決め、卒業研究として論文作成と発表を行います。また、選択で公立小学校での教育実習を履修できます。秋学期には4年間の学びの集大成である「教職実践演習」を受講し、社会に出るための最後の準備をします。以上のように、4年間を通して教育全体の理解へ迫るといふ本コースのめざす学習活動を行います。

先輩からのメッセージ

「運動が得意でないとやっていけないのでは…」入学前の私はそんな不安を抱えていました。しかし、そのような想像を覆して、実際の授業は「今持っている力で」運動を楽しみ、そして「より

高まった力で」学習を深めるためには、ということの子どもの視点から考えられる場でした。実技の授業を通して「できる」と「教えられる」ことは違うということを深く実感しました。また、実技だけでなく運動学・生理学・体育学など専門的な学びも充実しており、保健体育という教科の奥深さに触れることができました。情熱ある教授や刺激的な同期との出会いは、私の視野を大きく広げられるきっかけとなりました。4年で蓄積した授業ノート、そして培った視点は、教員となった今も私の支えとなっています。体育の面白さに存分に浸れる学びがここにあります。

(2024年度卒業生 樋口まこ (練馬区立小学校教諭))



選択科目「インクルーシブスポーツ」では、バラスポーツ体験をもとに理論を学びます

特色ある科目

保健体育コース入門セミナー、保健体育科研究法、体育史、衛生・公衆衛生学 A、運動生理学 A、スポーツバイオメカニクス、体づくり運動 A、器械運動 A、陸上 A、水泳 A、表現運動、バスケットボール A、サッカー A、ソフトボール A、バレーボール A



初等家庭科教育法の授業で、自作した消費生活に関するカード教材をみんなで検討する

生活の自立を支援できる教員になろう

本コースでは、家庭科を中心とした専門的な知識や技能の修得を通して、子どもの生活自立を支援できる小学校教員を養成します。衣食住をマネジメントし、家族や地域と連携して、自立して生活できる力を育成する家庭科の専門性を、小学校での指導に活かすことができます。

4年間の学び

1年次では、入門セミナーで、大学での学びや家庭科を専門とする小学校教員となる意義を学びます。専門科目としては、衣・食・住、家庭経営に関する科目を履修し、被服の機能と被服材料や歴史の変遷、基礎的縫製技術（含む被服製作）、食品の調理性（含む実習）、住居の役割や機能と住生活の変化、人生をデザインするための意思決定論の基礎を学びます。2年次には、教職に関する科目が始まり、小学校家庭科の内容や指導法（初等家庭科教育法）、教材づくりの工夫（家庭科教材論）について学びます。専門科目としては、保育に関する科目も開講され、乳幼児の発達や生活、子育て支援についても学びます。衣・食・住については、1年生での学びを基に、被服管理や洗剤の特性（含む実験）、ライフステージと被服構成（含む被服製作）、栄養学（含む実習）、室内環境調整（含む演習）を学びます。3年次には、教育実習に向けて、事前指導での授業参観などを通して、より具体的に実習に臨む準備をします。2年から3年にかけて、小学校で学ぶ各教科の指導法や教科の内容に関する科目も学んでいきます。4年次には、卒業研究に取り組みます。各々のテーマに沿って、4年間の学びの集大成として論文を仕上げます。

先輩からのメッセージ

皆さんは、家庭科と聞いて何を思い浮かべますか？衣食住、家族、消費等、家庭科はとても幅広く奥が深い教科です。本コースでは、小学校教員に必要な力を身に付けながら、調理実習や被服製作、保育実習等を通して家庭科の専門性を高めます。また、中・高の家庭科教員免許も多くの学生が取得します。私は4年間の学びを通して、これからの社会を生きる子どもに

とって家庭科はとても重要な教科だと実感しました。小学校では5・6年生のみ学ぶ教科ですが、1年生からの学びを生かして、日々の生活に目を向け、実践的な学習を通して生きる力が身に付くことが家庭科の魅力だと考えます。皆さんもこの充実した環境で家庭科を学び、生きる力を育てられる教員を目指しませんか？

（2025年度卒業生 日置明里）



人体の不感蒸泄（気体水分）量に関する実験を行い、快適な衣生活を考える教材観を養う

特色ある科目

家庭科教材論、家庭科カリキュラム論、家庭コース入門セミナー、家庭経営学概論、被服学概論、栄養学概論、住居学概論、児童学概論



初等教育専攻

英語



Chiang Mai Rajabhat University (タイ) の学生との国際協働学習

英語と出会う楽しさを小学生に

小学生の学び方の特徴を理解し、その力に寄り添う英語の授業ができる人材を育てます。カリキュラムは英語学、英米文学文化、英語教育学を含む多様で体系的な科目から構成されています。在学中に中・高の英語の免許も取得することができます。

4年間の学び

1年次には主に英語運用能力を高めるための科目と、英語学、英米文学文化、英語教育学の基礎を学ぶための科目を履修します。2年次から小学校英語に関する科目の履修が始まります。合わせて他教科の指導法や教科内容についての学習も始まります。3年次には小学校英語に関する学びをさらに深め、言語学習に関する理論を学びながら高い実践的な指導力も身に付けることを目指します。また、附属小学校での教育実習があり、ありのままの児童の学習や学校生活の様子を観察し、教員生活の実際を経験します。4年次には、東京都の公立小学校での教育実習の機会があります。また、これまでの学びの集大成として卒業論文を英語で執筆します。卒業論文は英語学、英米文学文化、英語教育学の中から分野を選び、自ら決めたテーマで書き上げます。

小学校の英語教育は、指導体制や教材など、他教科にはない独自の対応が求められます。言葉の教育の本質を見つめ、専門性の高い指導力をつけることを目指しています。

先輩からのメッセージ

A類英語科での学び全てが、今の私の財産です。特に、子どもたちを前に初めて「先生」として4週間を過ごす附属小学校での教育は印象深いものでした。小学校1年生のクラスに入り、英語の授業を行いました。楽しい授業にはなったものの、英語本来の「楽しさ」を伝える授業には程遠いもので、大学で学んだ「言語習得の流れ」や「指導法」を全くといっていいほど活かせませんでした。その時の「もっとこうすれば」という後悔が、現場で働く今

でも、私の学び続ける原動力になっています。卒業して3年経った今でも、英語科の先生には、授業づくりなどの相談に乗ってもらっています。みなさんも英語科で学びに没頭できる4年間を過ごしてみませんか。

(有路愛 2022年度A類英語卒業生)



数や形をテーマにした模擬授業

特色ある科目

英語読解、英会話、英作文、英語音声学概論、現代英語学、イギリス文化概論、アメリカ文化概論、英米文学概論、小学校英語教育概論、小学校英語教育演習、英語科と異文化理解、初等英語科教育法、英語科研究、第二言語習得、英語科教材論、英語科カリキュラム論



初等教育専攻
現代教育実践
学校教育



算数「かさ」の模擬授業（教育実習事前指導）

子どもと学ぶ、子どもに学ぶ

学校教育プログラムでは、教科指導の能力に加えて、古今東西の教育事情や教育のあり方に影響を及ぼす学校内外の諸要因について高い見識を持ち、現在の学校に適應するのみならず、新たな学校のあり方を模索・構想・提言・実現できる教師の養成をめざしています。

4年間の学び

1・2年次は、学校教育プログラムの学修の中心となる教育学の5領域（教育哲学・教育史・教育方法学・教育経営学・教育社会学）の基礎を学びます。教職・教育実践研究への入門となる授業を履修するとともに、教育学の基本文献をゼミ形式で読むことで、研究の基礎的能力や協働する力を身に付けます。3年次は「演習」と呼ばれる教育学の専門授業に参加し、研究室での活動も開始します。附属小学校での教育実習にも取り組みます。4年次は卒業論文作成のための主体的な探究が中心となります。公立小学校での教育実習を経験することで、教職で必要とされる知識や技能をさらに身に付けることも期待されます。

こうして、学校教育プログラムの学生は4年間で次のことを身に付けることができます。

- (1) 個々人の能力や性格の把握にとどまらず、子どもたちがどんな社会（時代）を生活している（生きてゆく）のかを知って授業に反映させる、視野の広い子ども理解。
- (2) チャイムが鳴ったら席に着く、教師の指示に従う、といった授業の前提条件を意図的に整えるための原理や技術。
- (3) 各教科の独自性を尊重しつつ、必要に応じて教科の枠を超える授業づくりの発想・構想力。
- (4) 教科教育に含まれないが学校教育を支える大きな力を発揮している諸活動（学校行事や給食・清掃など）に注目してその意義を正当に評価するセンス。
- (5) 学校を広く社会の中に位置付けてとらえ、子どもの成長を見守る大人の協働を実現するマネジメント力。

先輩からのメッセージ

学校教育プログラムでは、教育学の基礎をさまざまな領

域から学び、考えを深めることができます。教育と聞くと、教科指導を思い浮かべることが多いと思いますが、本プログラムではその土台となる広い学びを得ることができます。教科の縛りが無い分、給食指導やピアサポート活動、ICTなど教育に関する幅広い事象が対象になり、3年生からの研究室活動では自分の興味のあることに時間をかけて向き合うことができます。そして、ここでの学びは、子どもと関わる上でも大切な糧になるはずです。

また、学校教育プログラムは約20人の小規模プログラムですが、各々が教育に関する熱い思いや考えをもっています。そんな仲間たちと切磋琢磨しながら過ごす4年間は、本当に楽しく宝物になることでしょう。学校教育について深く学び、追究してみませんか。（三塚真優 4年）



蕎麦打ち体験（教育実践研究法）

特色ある科目

教育実践概論Ⅰ、教育実践研究法、教育学基礎論、教育学文献研究法、合科的学習教材論、カリキュラム論、教育技術論、学級経営の理論と実践、教育調査法



初等教育専攻
現代教育実践
学校心理



表情への反応に関する心理学実験。各自の関心に応じた卒業研究を行います

心を知る教師が教育を変える

学校心理プログラムでは、児童生徒の学習や生活全体にわたる「生きる力」を育むために必要な心理学の知識と技能を学びます。そして、それにより学力を高め、発達の個人差に対応し、いじめや不登校のないクラスづくりを進めるなど、現代の多様な教育課題に対応できる教師を育てます。

4年間の学び

学校心理プログラムの学びは、小学校教師として、児童の発達段階をふまえた効果的な学習指導や生活指導を実践する力を身につける学びです。具体的には、理解や動機づけの仕組みを学ぶ「教授・学習、認知心理学」により、学習を支援する力を高めたり、「社会心理学」の学びで、子どもが互いに尊重しあい、助けあうクラスを作る力が養われます。また「発達心理学」の学びは、学年に応じた心の成長を理解する力につながり、「臨床心理学」の学びにより、子どもの悩みに寄り添いながら成長を支えることができるようになります。

小学校教員免許への道のりは、1年次の「教職入門」、2年次からの各教科教育法を経て、3年次の「教育実習Ⅰ」（附属学校）、4年次の「教育実習Ⅱ」（協力校）へと続きます。一方、学校心理学の学びは、1年次の「心理学概論」や「心理学統計法」に始まり、2年次から心理学各領域の知識や技法を専門的に学びます。そして、3年次に各自の興味に応じた研究室に配属され、4年次に、教育に関する疑問や課題を心の視点から考える卒業研究を実施します。2つの道のりは互いに独立ではなく、学校見学や教科の学びで問題意識を育み、心理学の授業でそれを解決する力を身につけ、それを教育実習や卒業研究に生かしていくという「スパイラルな学び」で教師としての実践力をつけていきます。

先輩からのメッセージ

学校心理プログラムでは、教育学と心理学の両面から、子どもの発達段階や特性に応じた関わり方を学ぶことができます。学校現場では、学習支援に加え、自己理解や対人関係の構築を支える心理的支援も必要不可欠です。私は4年間の学びを

通じて、教育知識だけでなく、子どもの行動や言葉の背景を心理学的に捉え、児童理解に活かすことの重要性を実感しました。教員として、子どもの小さな変化や学習・行動のサインに気づき、丁寧に関わる力は非常に重要です。こうした力は、安心して学べる環境づくりの基盤となり、個に応じた指導や支援につながります。本プログラムでの学びは、子どもの成長に寄り添う教員を目指すうえで大きな支えとなるはずです。

(山田祥子 4年)



模擬授業で子ども達に対する学習指導力を高めます

特色ある科目

3年次春学期の「教育心理学実験」では、「教授・学習、認知心理学」「社会心理学」「発達心理学」「臨床心理学」の各領域からテーマを選び、統計法、実験法、質問紙調査法などの技法を駆使して自分たちで研究を仕上げます。



初等教育専攻
現代教育実践
国際教育



正解のない問題について議論を重ねます

世界的視野にたって日本の教育にとりくむ教師

本プログラムでは、国の内外を問わず、すべての子どもたちが、お互いを尊重し協力しつつ、ともに生きることができるような人間形成に取り組む教員の養成をめざします。そのために人間の多様性と共通性を踏まえた教育実践を、国際的視野から追及します。

4年間の学び

1年次、「コース別入門セミナー」「国際教育基本文献講読」「教育実践概論」などで、教育学・心理学の学問的基礎を身につけ、選択により「比較教育学研究」で比較研究の基礎を学び、教育のさまざまなテーマについて資料を比較し議論します。2年次は、「国際教育交流史」「国際教育のカリキュラム」「教育開発と教育協力」「海外・帰国児童生徒教育論」「異文化間心理学」「国際教育臨床」などの専門科目を学びます。3・4年次は、「国際教育演習A～D」において専門的な議論を深めるとともに研究法を学び、「国際教育フィールド研究Ⅰ・Ⅱ」で各自の研究テーマにそれぞれの方法からアプローチします。附属学校での教育実習とその「事前・事後の指導」において教育実践力を身につけていきます。4年次は、「卒業研究」「教職実践演習」や選択実習において、教育の理論研究と実践研究の総まとめをします。思考力、表現力の基礎を備えた人、他人の意見や情報を鵜呑みにしないで疑問を問いかけながら自分の考えを確立し、その考えを仲間と共有できる人に、このプログラムに来てもらいたいと思います。

先輩からのメッセージ

「国際教育」の学びは幅広く、多角的かつ多面的に教育を見つめ直すことができます。私自身、授業で抱いた関心を深めるために留学し、現地での学びを通して教育観が大きく変化しました。本選修には、諸外国へ留学した学生や、興味を自由に探究する学生など、個性豊かな仲間がいます。少人数だからこそ、こうした仲間と深く関わり、互いの経験や知見を共有できるのは国際教育プログラムの魅力の一

つです。異なる視点に触れる日々は、将来、多様な価値観・背景を持つ子どもたちを受容できる教員への成長に繋がると思います。広い視野とあなたらしい教育の形を、国際教育プログラムで見つけてみませんか。

(2025年度卒業生 岡野蒼)



アイデアを出し合い、練り上げます

特色ある科目

「コース別入門セミナー」「国際教育基本文献講読」「国際教育フィールド研究Ⅰ・Ⅱ」「国際教育のカリキュラム」「比較教育学研究」「帰国・外国人児童生徒のための日本語教育」「国際教育交流史」「国際教育演習A～D」「海外・帰国児童生徒教育論」「異文化間心理学」「教育実践概論」「国際教育臨床」



初等教育専攻
現代教育実践
環境教育



地域の環境観測へ

フィールドから環境を探る

文系・理系の枠を超えて、領域横断的・総合的に「環境」について学ぶことができます。座学だけでなく、様々なフィールドで実物に触れ、手足を動かし、心と頭を働かせた観賞・観察・測定・調査を通して、体験的に環境リテラシーを身につけ、1人1人の個性に応じた環境マインドを養うことをめざします。

4年間の学び

1、2年次では、教職に関する科目に加えて、「環境」を理解するために自然科学と社会科学の基礎的な知識を学びます。生態系生態学、河川生態学、魚類生理学、植物生態学、保全生態学、景観生態学、環境社会学、自然地理学、環境教育学などの環境に関わる幅広い分野の基礎を学びます。また、野外に出て自然環境を自ら観察・測定・分析し、環境を理解する方法を学び、環境問題を解決するための手段を考えていきます。3、4年次では、それまでの学びを基礎とした実験や実習を通して、さらに環境について理解を深めます。また、3年次には教育実習があります。学び、身につけた知識を教育現場で実践し、「環境を教える」ことについて自分なりの答えを模索する機会になります。そして4年次には、環境教育プログラムにおける学びの集大成として卒業研究に取り組みます。

環境教育プログラムにおける実践の場は教育実習だけではありません。知識や経験を基に、地域の人達に自然環境を伝える技術・方法を考え、実践する機会もあります。また、子どもたちと触れあい、環境を保全する仕組みについて考える場など、実践する機会には困りません。環境教育プログラムは、豊富な教育環境を活用して多くを感じ、考え、そして身につけることで、魅力的・個性的な環境教育観を持った人に成長してもらうことを期待しています。

先輩からのメッセージ

東京学芸大学で過ごした4年間は、本当に密度の濃い時間でした。私が所属していた環境教育では、座学に加えてフィールドワークの機会も多くあり、教科等横断的な視点の大切さ、物事を多面的・多角的に捉えようとするこの

大切さを学びました。2年生の秋学期ごろから、社会科学の学生と共同の研究室に入ったことも、私の学生生活の中で大きな出来事だったと思います。研究室の先生、仲間たちと学び、研究に打ち込んだことで、学び続けることの必要性、研究の楽しさに気付くことができました。卒業後、公立小学校で教員をしています。もちろん楽しいことばかりではありませんが、毎日子どもたちの笑顔を見ることができて幸せな教員生活を送っています。大学で学んだことを十二分に活かし、今後も努力し続けます。

(2023年度卒業生 香田 桜子)



地域の環境観測でのフィールドワークの様子

特色ある科目

自然環境調査法、地域の環境観察とその実践、地球環境論、河川環境論、学校教育におけるSDGs、植物進化生態学、環境教育概論、自然体験学習論、環境教育教材論、環境教育カリキュラム論、エコスクール論、環境と教育実践、環境教育野外実習、自然環境解析実験、博物館と展示の活用



初等教育専攻

ものづくり 技術



授業風景（設計）

豊かな“ものづくり力”をもつ教師になろう

技術や科学に関する強固な知識を持って、ものづくりをすることができる小学校教員を育てることを目標とする理系中心の教職課程です。この目標を達成するため、「ものづくり」の技術の基礎的な科目として科学、技術、工学、数学（いわゆるSTEM*）全般を広範囲に学習できるカリキュラムとなっています。*STEM：科学 (Science)・技術 (Technology)・工学 (Engineering)・数学 (Mathematics) の頭文字を取った略語。

4年間の学び

1年次には、基礎的な教職科目のほか、製図、木材加工、金属加工等の授業を通して、エンジニアリングデザインプロセス（工学的設計プロセス）に基づいた設計・試作・製作などの、「ものづくりの技術」に関する基礎的な能力を身につけます。希望する場合は、中学校の技術科教員になるための教職科目と数学・物理学についての基礎知識に関する学習も行います。2年次には、1年次の学習内容を踏まえ、小学校の教員になるため、情報処理など幅広い知識を習得します。小学校で教える各科目の教育方法や教育内容に関する科目も履修するようになります。3年次には、2年次の学習内容を発展させ、小学校教員になるために必要なさらなる学習を行います。2年次・3年次では各専門科目の基礎事項を学ぶと共に、実験・実習により、基礎的な知識・技能を活用し、企画・創造力を高めることができるようなプロジェクト型・問題解決型の授業を行います。また3年次初頭に、卒業研究のために研究室への配属が行われ、研究室のゼミ等により卒業研究に向けての準備が始まります。3年次の9月～10月には附属学校での教育実習があります。4年次には卒業研究が実施されます。設定した卒業研究の課題に関し、約1年をかけてじっくりと研究します。卒業研究は究極の課題学習です。自主性を発揮して挑んで下さい。ものづくり技術特有の問題解決型の学習や卒業研究を通して、STEM全般に強固な知識を持ち、主体的に企画・創造力を高めていくことができる人になって欲しいと考えています。

先輩からのメッセージ

みなさんは「モノ」をつくるのが好きですか？自分の考えや想いを込めて新たな価値を創造することができるもの

づくりって素敵ですよ。本コースでは、技術に関する専門的な内容を踏まえた「ものづくり」を学べるのが最大の魅力です。また、1学年約10名という少人数のコースであるため、親しみやすい環境で充実した大学生活を送ることができます。先生方や先輩方との繋がりも強く、教育や技術についての新たな挑戦ができる機会も多く用意されているため、自分の可能性を大きく広げることができると思います。ぜひ、大学で身につけた「ものづくり力」を小学校でどのように活かしていくかについて共に語り、考えを深めていきませんか？（蓮見百華 2024年度卒業生）



ボール盤を用いた穴開け加工（イメージ）

特色ある科目

ものづくり技術コース入門セミナー、工業数学Ⅰ・Ⅱ、工業物理学Ⅰ・Ⅱ、ものづくり・技術教育カリキュラム論、ものづくり・技術教育教材論、基礎製図、情報処理概論、木材加工の応用Ⅰ



初等教育専攻

幼児教育



実習では、自ら保育を立案し、実践を通して学んでいきます(教育実習I)

幼児教育の未来を創る保育者になろう

幼児教育コースでは、幅広く、深い理論の学びと、豊かな実践の学びを融合し、高い力量を持つ保育者を養成します。幼児教育の不易の課題と今日的課題に対応できる専門性を備えた保育者、幼児教育の未来を創る保育者の養成をめざしています。

4年間の学び

1年次には主に幼児教育や発達の基礎的な理論を学ぶための科目と、音楽や造形などの基礎的な知識や技術等を身に付けるための科目を履修します。1年次の秋学期からは、保育内容の領域に関する専門事項(幼児と健康、幼児と言葉など)の科目が始まり、2年次には、保育内容の指導法に関する科目の履修が増えていきます。これらの科目から、遊びや生活における乳幼児の姿を理解し、具体的な活動を通して総合的に指導するための知識や技術等を学びます。また入学時より大学の講義と関連させながら、附属幼稚園(小金井園舎と竹早園舎)を訪問します。直接幼児とかかわる体験や保育者の姿を見て学び、実践的力量を高めていきます。3年次の春学期には附属幼稚園での観察実習があり、数日かけて幼児と保育の様子を記録し、それをもとに多面的に幼児を理解する手法を学びます。秋には3週間の教育実習が附属幼稚園であり、それまでに学んだ知識や技術等を生かして自ら日々の保育を構想し、実践する機会があります。3年次からは幼児教育演習の科目履修が始まり、自らの研究関心を高めていきます。そして、4年次には卒業研究に取り組みます。幼児や保育に関わるテーマを設定し、1年かけてじっくり探究し、卒業論文にまとめます。4年間を通して、幼児の世界や保育の営みの豊かさを深く知り、他者と経験を交流して協同的に学んでいく保育者になってほしいと思います。

先輩からのメッセージ

幼児教育・保育には唯一の正解がありません。だからこそ、幼児一人ひとりと向き合い、よりよい保育や関わり方を求めて試行錯誤することが大切です。大学での実践的で多様な学びは、私の幼児教育における日々のチャレンジを支えてくれています。

模擬保育後の意見交換、仲間と共に保育に向き合う幼稚

園実習、現場で働く先生方や園長経験のある方々の講義、先生方の温かく熱心なご指導。そして、共に学んだ同期と卒業後もつながり続けられること。これらすべてが、私の教員としての歩みを支える大きな力になっています。皆さんもぜひ幼児教育コースで、かけがえのない仲間と学びを重ね、これからの幼児教育と一緒に築いていきましょう。(2024年度卒業生 田代日菜子)



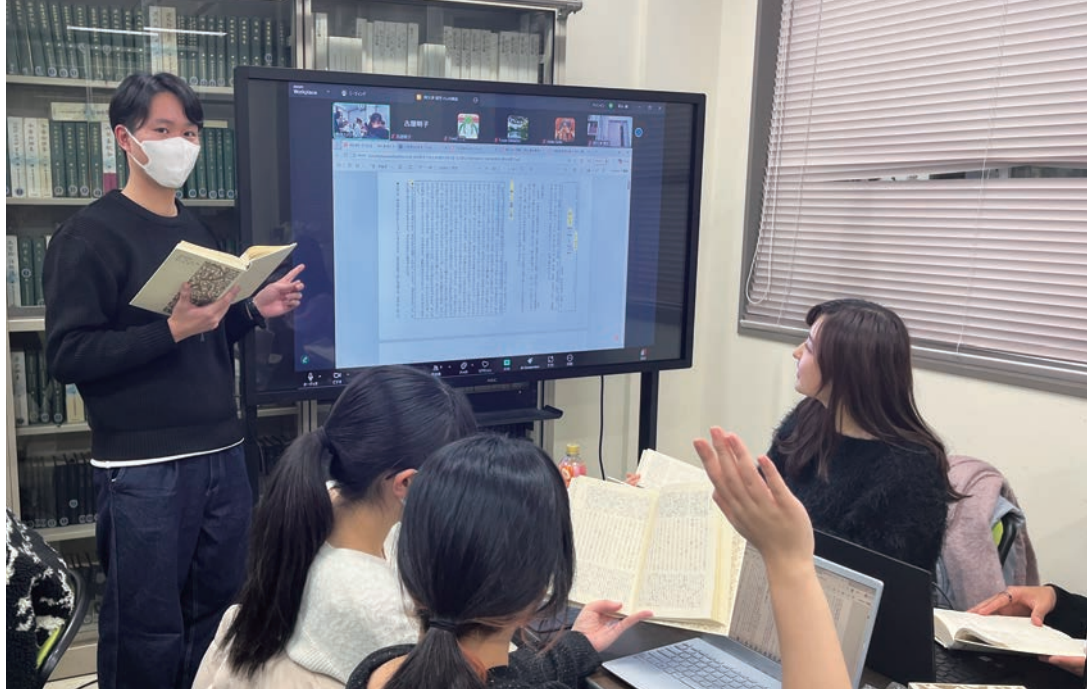
保育園における子育ての支援の実際にあふれる様子(幼児教育コース入門セミナー)

特色ある科目

幼児教育学、保育者論、幼児教育コース入門セミナー、乳幼児心理学、幼児の健康指導研究、乳児保育I、保育原理、子ども家庭支援の心理学、保育内容総論、幼児と健康、幼児と人間関係、幼児と環境、幼児と言葉、幼児と表現A、幼児と表現B、保育内容「健康/人間関係/環境/言葉/表現A/表現B」、幼児教育演習

詳しくは「東京学芸大学 幼児教育」でウェブサイトを検索して下さい。





巡検風景（長瀬町）：地理学の臨地研究の授業で河川地形の説明を受ける場面

ことばの森を探索し、真の国語力を培う

本コースは、中学校・高等学校の教育現場で活躍できる、高い専門性をもった国語科教員の養成を目的としています。中等教育における学習内容と指導法を学びつつ、日本語、日本文学、中国古典などの日本の言語文化に対する認識を深め、高い言語能力と豊かな言語感覚を備えた指導力あふれる人材を育成します。

4年間の学び

B類国語の学びは、教科教育学としての国語科教育学の領域と、それを支える基礎科学としての日本語学・日本文学（古典文学・近代文学）・中国古典学の全5領域から構成されています。これら5領域の授業のどこに比重をかけるかは、学問的関心や教育者像などにもとづき学生自身が決定し、履修科目を選択することができます。1年次ではこれら諸領域の基本的な概念と枠組を、日本語学概論、日本文学概論（古典・近代）、日本文学史（古典・近代）、中国古典文学概論、中国古典文献概論の講義で学びます。2年次からは、より専門性を深めるために、1年次の基礎をふまえて自ら調査研究してきたことを発表する演習科目が5領域で数多く設けられています。特に日本文学は中古・中世・近世・近代・現代のように時代別の演習の授業を履修できます。他にも、日本語文法、日本語音声、日本語教育の方法、第二言語習得論など、日本語及び日本語教育に関する科目も豊富です。あわせて、それらの知識に基づきつつどのように指導するかを「国語科教材論」「中等国語科教育法」などで体系的に学びます。なお、3年次からは自分が所属する研究室で卒論に向けての準備が始まるので、2年次後半までにどの領域のどのようなテーマを深く究めたいか決めることになります。そして、4年次では4年間の学びの集大成として研究室の教員の指導を受けながら卒業論文をまとめます。

先輩からのメッセージ

B類国語コースで学ぶ利点は、学生同士の強い紐帯の中で、深い学びを実現できる点にあります。このコースは、学生同士が互いに顔なじみになりやすく、意見を交わし

ながら学習を進めることができます。また、国語を学ぶことに高い意欲を持つ学生が多く、それぞれが関心を寄せる分野について主体的に学んでいます。そうした知識は、大学での学びを通してより強固なものとなっていきます。私は現在、古典をテーマに学びを深めていますが、時代別の演習では古典以外の分野にも触れます。その際、周囲の仲間がそれぞれの得意分野の知識を共有してくれることで、理解が一層深まります。このような学生同士の横のつながりが、学習面に大きく生かされている点に、本コースの魅力を感じています。（小川陽穂 4年）



国語科教育法の講義風景。模擬授業の実践と振り返りを行っています。教材は「高瀬舟」

特色ある科目

コース別入門セミナー、国語科カリキュラム論、国語科教材論、日本語学概論、日本近代文学概論、日本古典文学概論、日本古典文学史、中国古典文基礎、中国古典文献概論、日本語教育概論、日本語音声、日本語文法、児童文学、中国古典文学概論、異文化理解と心理、子どもの日本語教育



中等教育専攻

社会



歴史学分野のゼミ風景

深い知識と思考力で社会を探究しよう

本コースには歴史学・地理学・哲学倫理学・法学政治学・経済学・社会学・社会科教育学の7分野があり、それらを幅広く学べます。2年生からいずれかの分野に所属して研究を深めます。そこで学んだ知識や考え方等を踏まえて、生徒が多面的・多角的に追究する学習を創造するなど、専門に強い教員になることをめざします。

4年間の学び

1年次：社会コース入門セミナーで、高等学校までとは異なる大学での勉学の方法について学びます。あわせて7分野の必修の概論科目を履修し、社会科の基礎的な概念や考え方を学びます。

2年次：7つの分野のいずれかに所属し、各分野の特色ある専攻選択科目を中心に履修していきます。これは基礎知識に基づいて応用力を獲得し、「社会に強くなること」を目的とします。これと並行して教職科目の中等社会科教育法等を履修し、社会科の考え方や教育・教材開発に関わる方法論、授業研究などに関して学びを深め、「社会科に強い」教員として応用できる実践力を養います。

3年次：所属分野でのより進んだレベルの演習等に参加し、体系的な学修を深めていきます。9月には附属学校での教育実習があります。それまでに学んだ知識やスキルを活かして授業を創っていきます。その経験・反省を基に、「社会科教材論」を通して、教材研究を深めます。また、中等社会科・地理歴史科教育法や中等社会科・公民科教育法の授業で、実践力をさらに養います。

4年次：学生生活の集大成となる質の高い卒業論文の完成をめざします。選択で公立中学校・高等学校等での教育実習を受けることができます。

本コースのカリキュラムの重要な特色は、演習を中心とする少人数教育です。教員や仲間とともに行う社会や社会科に関する議論を通じて学問の楽しさを実感できるでしょう。

先輩からのメッセージ

私は、自分の好きな教科を専門的に学びたいという思いで本コースを選びました。2年次から所属する専門分野や3年次の附属校実習では、仲間と議論をしたり、先生方から

丁寧な指導を受けたりしながら、自身の課題や研究について納得がいくまで考えることができます。そのなかで、自分の固定観念や常識を何度も覆され、新たな視点や考え方が身につきました。このような経験を通して教科の専門性が高まっただけでなく、「こんな授業をしたい」、「生徒にこんな力を身につけてほしい」という教員としての目標が明確になっていきました。本学での4年間の学びや経験は、教員人生を支えてくれる大きな財産になると思います。

(一宮彩純 2024年度卒業生 中学校教諭)



「教職実践演習」におけるグループディスカッションの様子

特色ある科目

社会コース入門セミナー、社会科カリキュラム論、社会科教材論、地域調査法、臨地研究演習、日本史研究と歴史教育、外国史研究と歴史教育、哲学・倫理学の諸問題、宗教思想の諸問題、国際関係論、刑法、経済学基礎論、経済学基礎演習、家族社会学、ジェンダーの社会学



解析学の授業風景

学ぼう、伝えよう、美しい数学の世界

学生の数学的能力の育成と、中学校・高等学校教員としての資質の養成を目的とする。中学校・高等学校の数学の内容を考察し、数学教育の理論と実践についての素養を身につけ、数学に対する興味と理解を深め、自然や社会に対して自らの頭で論理的に考える態度を育てる。

4年間の学び

大学の数学は、高校までの直観的な説明とは異なり、一歩一歩階段を上るように緻密な論理を積み重ねて学習していく。物事を論理的に理解し、他人に明快に表現できるように努力でき、物事に対し自分の言葉で考え、表現できるように養成する。1年次に、大学の数学の基礎となる集合と論理、線形数学 I,II、微分・積分学 I,II を学ぶ。2年次に、基礎を踏まえて代数学 I,II、幾何学 I,II、解析学 I,II、確率・統計 I,II のそれぞれの専門分野の基本を学ぶ。3年次に、基礎的な数学の内容を踏まえて、数学分野においては、代数学特論 AI, AII, B, C、幾何学特論 AI, AII, BI, BII、解析学特論 AI, AII, BI, BII, C, D, E、確率論特論 I, II、確率論各論等、現代数学の内容を学ぶ。数学教育分野においては、中等数学科教育法 I, II, III, IV、数学科教育臨床といった数学の授業をどのように行うかという実践の基本を学び、数学科教材論、数学教育研究、数学カリキュラム論で、中学、高校での数学をどのように体系的に教えているかを学ぶ。その上で、自分がより深く学びたいものを選び、卒業研究として4年次に学ぶ。

先輩からのメッセージ

B類数学コースでは、中学校・高等学校の数学科教員に求められる資質・能力を養うべく、数学の様々な分野や数学教育学について学習します。これらの学びは、教員を目指す学生にとっては授業づくりの基礎となり、即戦力の人材として成長できるでしょう。また、教員以外の進路を選ぶ学生にとっても大きな力となります。数学の厳密な思考方

法や論理構成力、データを正確に扱う力は、ビジネスや研究開発など幅広い分野で強みとなります。また、教育学を通して学ぶ「相手に伝える力」や「課題を構造化する力」は、社会で求められる汎用的スキルとして高く評価されるはずです。数学と教育の両面から学ぶ4年間は、多様なキャリアにつながる豊かな土台となるでしょう。

(大村圭吾 2025年度卒業生)



ゼミでの風景

特色ある科目

線形数学 I,II、微分・積分学 I,II、集合と論理、位相数学、位相空間論、代数学 I,II、幾何学 I,II、解析学 I,II、確率・統計 I,II、代数学特論 AI, AII, B, C、幾何学特論 AI, AII, BI, BII、解析学特論 AI, AII, BI, BII, C, D, E、確率論特論 I, II、確率論各論、数学カリキュラム論、数学科教材論、数学科教育臨床



中等教育専攻

理科



生物学実験：花と果実の構造の観察

自然科学の奥深さを伝える教員になろう

専門性の高い物理、化学、生物、地学の知識や技能、考え方を講義や実験を通じて深め、理科教育の考え方を学ぶことで、自然科学の見方・考え方や科学的探究心を育てる能力をもった教員を養成します。自然科学の豊かさや深みに真正面から向きあい、その楽しさを仲間と分かちあえます。

4年間の学び

自然科学の学習は、基礎から始め徐々に高度な内容へと段階を経て学び、専門性を高めていきます。この特質を考慮して、理科に関わる自然科学の全領域と理科教育学にわたる充実した科目群が、1年次から4年次の各学期に順を追って開設されています。物理学・化学・生物学・地学の各教室に所属して、それぞれの専門性を高めながら教員としての資質を養います。講義以外に実験・実習・演習という形態の授業科目があり、より能動的に関わって主体的・体験的に学ぶことが求められています。1年次には、物理学・化学・生物学・地学の基礎となる講義と実験を履修します。2年次には、教職に関する科目と教科に関する学習が本格的に始まります。3年次には、これまでの学習を基礎として、教職・科目に関するより専門的・発展的な内容を学びます。ゼミや実験等、研究室での活動が本格化するのもこの時期です。また、秋には附属中・高等学校での教育実習があります。理科教育の指導法や技術を生かして、科学的な見方・考え方を生徒に伝える機会となり、それまでに学んだことを実践し振り返ります。教育実習を通じて、自らの専門分野の学びを深めることもできます。4年次には、指導教員の下で自然科学に関する卒業研究を行います。未知の自然科学の課題に対して自ら真理を探究することを通じて、根拠に基づいて自然科学の理解を深めるとともに、自然科学の研究の手法を修得します。

先輩からのメッセージ

B類理科専攻の授業では、教室での座学に加え、多くの実験や野外演習を通して、ありのままの自然に触れながら科学を

学ぶことができます。また、多様な教育観を持つ仲間と議論できるのも、魅力のひとつです。理科教員志望の人には、お勧めの専攻です。私は天文学研究室に所属し、卒業研究として口径20cmの天体望遠鏡の開発に取り組んでいます。フライスでの金属工作を通して望遠鏡の部品を制作し、天体追尾のための制御ソフトの整備を行いながら、観測システムの完成を目指しています。自分の技能が向上したと感じるときが、とても楽しいです。来年度は修士課程へ進学し、開発した望遠鏡を使って木星の衛星の分光観測に挑戦する予定です。

(2025年度卒業生 中村朝陽)



地学実験：岩石の観察実験の様子

特色ある科目

理科コース入門セミナー、物理学概論Ⅰ・Ⅱ、化学概論Ⅰ・Ⅱ、生物学概論Ⅰ・Ⅱ、地学概論Ⅰ・Ⅱ、物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験、理科カリキュラム教材開発基礎Ⅰ・Ⅱ、理科学習評価論、中等理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ



「オーケストラ」の演奏会の様子

心をつなぐ音楽の力、音楽の深さを伝える

本コースでは、音楽全般について広く学ぶとともに、各自が1つの領域を選択して専門の内容を深め、それぞれの個性を磨いていきます。音楽に対する深い造詣、高い指導力、幅広い教養を備えた中学校・高等学校教員の養成を目的としています。

4年間の学び

本コースでは、入試において選択した各自の専門分野をより深く学ぶことを通じ、中学校・高等学校音楽科教員として必要な教科の知識と力を養うことを目的としてカリキュラムが組まれています。また1、2年次には自分の専門分野のみではなく、声楽・ピアノ・管弦打楽器・作曲・音楽学・音楽科教育の基礎的な科目も幅広く履修します。更に初年度春学期には音楽コース入門セミナーとして、4年間の学びに必要な文献の探し方や楽曲解釈、ピアノの構造や扱い方、発声法、演奏における身体の使い方など、適宜外部より専門家を招き学びます。また興味に応じて和楽器・邦楽歌唱法・民族音楽などの科目も選択できます。これらの授業は、内容に応じ少人数のグループレッスンから大人数の合唱・合奏まで多様な形態で行います。3・4年次では教育実習関連の科目を履修し、音楽科教育の理論・実践的な内容を深めます。同時に、各自の専門性を深める科目や、興味に応じた科目を選択していきます。4年次の卒業研究では、卒業演奏や卒業論文に取り組み、大学での学びを総括します。本コースの特色は、レッスンなど演習を中心とするものが多く、教員との距離が近いことが挙げられます。4年間を通して、音楽の楽しさを実感できることと思います。

先輩からのメッセージ

私は現在、東京都の中学校で音楽科に勤務するとともに合唱部の顧問も務めています。大変に感じることもありますが、とてもやりがいのある日々を送っています。私の出身のB類音楽科では入学当初から専攻を深く学ぶ

ことができ、加えて合唱、指揮法、オーケストラ、和楽器といった多様な実技を学ぶこともできます。ここでの幅広い学びは、クラシック、邦楽、ポピュラーなど多岐にわたる内容を教える中学教員としての大きな支えになっています。また、同級生、先輩、後輩との距離も近く、今も情報交換や交流が続いていることは、かけがえのない財産になっています。B類の仲間とともに楽しく音楽を学んだ日々は、今では生徒や部員たちと向かい合いながら音楽を実践する日々につながっています。

(田中香璃 2016年度B類卒業)



声楽の実技レッスンの様子

特色ある科目

音楽コース入門セミナー、基礎声楽実技、合唱、ソルフェージュ、基礎ピアノ実技、基礎管弦打実技、作曲法、指揮法、音楽学概論、音楽教育特別研究、オーケストラ、吹奏楽、和楽器、邦楽歌唱法、民族音楽演習、ポピュラー音楽演習、音楽療法概説、リトミック演習



中等教育専攻

美術



蛍光ペンとブラックライトを使った造形ワークショップの様子

美術。その限らない可能性を追求しよう

本コースのカリキュラムは、美術科教育学、絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学の各分野の専門性が身につくように組まれています。美術に対する深い造詣と、その面白さや奥深さを伝えられる高い指導力を兼ね備えた中学校の美術および高等学校の美術・工芸の教員を養成しています。

4年間の学び

1年次には美術のそれぞれの領域の基礎力を養うための必修科目と美術科教育に関する科目を履修して自分が興味・関心を持てる領域を探究します。2年次には1つの領域を選び、選択科目である「美術演習 AI・AII(または BI・BII)」を履修します。この授業は美術の専門的な知識や技能を段階的に積み上げていくことが目的となっています。また、それぞれの領域の選択科目を履修することで、教員としての幅広い視野を持つこともできます。3年次には、1、2年次に学んだ知識や技能を基盤として教職科目を履修していきます。3年次の秋学期に取り組む附属学校での教育実習はそれまでの学習成果を教育の現場に活かし、将来の教員としての自覚と自信を育む場と位置付けられます。4年次には卒業研究に取り組みます。絵画、彫刻、デザイン、工芸、造形芸術学、美術科教育の領域の中で4年間の集大成として相応しい卒業制作および論文発表を行います。

本学での4年間を通じて身に着けた資質や能力を糧に、研鑽を怠らず常に創造的な視点で教育に取り組み、美術に秘められた無限の可能性を発信し続けていく教員、それが本コースが追求する教師像であるといえます。

先輩からのメッセージ

中学校の美術教員になりたいという思いから、この学科を選びました。教員を目指す学生にとって、この大学での学生生活は本当に恵まれた環境だと感じています。

B類はA類と同様、幅広い授業内容になっている上に、専門分野の科目も充実しているので、自分の興味ある研究や

制作にじっくりと向き合うことができます。また、学内外には学生が展示を行える場所が多く、自分たちで企画した展覧会やイベントに積極的に挑戦できる点も魅力的です。さらに、地域との関わりが深く、イベントや造形ワークショップに参加する機会が多いことも、この学科の魅力です。教育と地域、地域と美術のつながりを実践的に学べる環境の中で、教育に対する自分なりの考えを持てるようになりました。

B類美術コースであなたなりの理想の教員像を見つけてみませんか。
(2026年度学部4年生 小寺希奈)



地域商店街の事務所ガラス面を飾るマスキングテープを使ったアート作品

特色ある科目

美術コース入門セミナー、美術科教材論、美術科カリキュラム論、絵画基礎Ⅰ・Ⅱ、彫刻基礎Ⅰ・Ⅱ、デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ、工芸基礎Ⅰ・Ⅱ、日本東洋美術史概論、西洋美術史概論、美学、図画工作・美術科基礎、美術演習 AI・AII、BI・BII



中等保健体育科教育法Ⅳでは、模擬授業の実践をとおしてよりよい保健授業づくりを考えます

時代を切り拓く保健体育教師をめざす

本コースは、中学校および高等学校の保健体育教員の養成を目的としています。学校体育で実施する各運動種目の実技能力を身につける科目、また、実施する側、指導する側両面で必要となるスポーツ科学的思考力を身につけるための授業を通じて、保健体育教員に必要とされる学校現場での指導力の育成をめざします。

4年間の学び

1年次：専門的な体育実技や保健体育分野における基礎学問を学習し、「教職入門」で教職の世界へ第一歩を踏み出します。2年次：「運動生理学B」「スポーツバイオメカニクス」などにより多くの保健体育分野の基礎学問を学習します。また、「運動方法学総論B」など運動指導の基礎となる学習や「中等保健体育科教育法」「保健体育科模擬授業演習B」など保健体育の教科教育法の授業を履修することを通して教育実習の準備が始まります。夏季休暇中には、2日間の集中授業で3年次の教育実習の映像を観察する「授業観察演習」があり、翌年の教育実習の具体的なイメージを持つ機会があります。3年次：「保健体育科カリキュラム開発論B」など教育実習に直接関わる科目を履修し、教育実習の「事前指導」を通じて研究課題を決めていきます。初めての教育実習は附属の中学校、中等教育学校、高等学校などで行います。大学で学んだ知識やスキルを活かして教材研究や授業実践を行う力を高めていきます。実習終了後には「事後指導」で実習の振り返りをし、4年次の選択実習での課題を設定します。4年次：それまでに得た知識や視点からテーマを決め、卒業研究として論文作成と発表を行います。秋学期には4年間の学びの集大成である「教職実践演習」を受講し、社会に出るための最後の準備をします。以上のように、この専攻では体育実技はもちろん保健の授業もしっかり指導できる保健体育教員の指導力育成にも力を入れています。

先輩からのメッセージ

「学芸大なの？いいなあ。」先日、尊敬している先輩教員から言われました。その先輩は経験豊富で授業もわかりやすいのですが、初期は授業で何を重視したらいいのか全く分からずに苦勞したとのことでした。このコースで

は、教育やスポーツに関する多角的な知識だけではなく、授業をどのように展開するかという経験までもギュッと4年間に凝縮して学ぶことができます。実際に「中等保健体育科教育法」で“教育、保健体育とは何か”という根本的な問いに向き合い続けた日々や、「模擬授業演習」で授業を一から作った経験が今の仕事に活きていると感じます。さらに、同じ志を持った仲間との繋がりが4年間でさらに充実したものへと引き上げてくれました。ぜひ学芸大で、素敵な4年間を！

(2018年度卒業生 松田一輝 (さいたま市立中学校勤務))



生徒にバスケットボールの面白さを伝えるにはどうすればよいか考えます

特色ある科目

保健体育コース入門セミナー、保健体育科研究法、体育史、人体解剖生理学、体育原理B1・B2、学校保健学B、体育・スポーツ心理学、体育・スポーツ社会学、柔道B、剣道B、器械運動B、陸上B、水泳B、ダンス、バスケットボールB、サッカーB、ソフトボールB、バレーボールB



中等教育専攻

家庭



グルテンを抽出する実験などを通して、調理の科学的背景を体験的に学びます

生活を科学し、未来の暮らしを提案しよう

本コースは、生活科学に関する高度な専門性と優れた実践力を身につけた中学校・高等学校家庭科教員を育成しています。生活を科学的にとらえ、少子高齢化や消費者問題、食育などの現代的な課題を解決し、未来に向けた新たな暮らしを創る力を養います。

4年間の学び

1年次では、入門セミナーで、大学で学ぶ意義や家庭科教員になる心構えについて理解します。専門科目では、衣・食・住、家庭経営の基礎を学ぶ科目を履修し、被服学、被服文化（含む浴衣の着装）、基礎的縫製技術（含む被服製作）、食品の調理性や科学的な知識（含む実習）、住居の役割や機能と変化、意思決定論、家計などを学びます。2年次には、教職に関する科目（中等家庭科教育法、家庭科教材論）の履修が始まり、3年次にかけて、中学・高等学校での家庭科教育の目的や内容、指導方法、カリキュラムについて学びます。保育に関する授業も始まり、乳幼児の発達や生活、子育て支援（含む保育園実習）について学びます。さらに、被服の洗浄や染色、ライフステージと被服構成（含む被服製作）、栄養素の特性、各ライフステージにおける栄養摂取や生理的变化、安全・快適な住環境について実習を交えて学んだり、より詳細な家計の仕組みを学び、指導者としての知識と技術を身につけます。3年次には、事前指導で授業観察や模擬授業を行った上で、教育実習に臨みます。また、各領域の現代的な課題、家庭生活に関わる電気・機械や情報処理等について学び、家庭科を学ぶ意義や、教材、指導法についても理解を深め、家庭科教員としての専門性を高めます。4年次の卒業研究では、家庭科教育学、保育、衣、食、住、生活経営の各領域を選び、4年間の学びの集大成として論文を仕上げます。

先輩からのメッセージ

B類家庭コースでは、中学校及び高等学校の家庭科教員になる上で必要となる、家族・家庭生活、衣・食・住生活、

消費生活・環境といった幅広い知識と実践力を身に付けることができます。その上で個人の興味と関心に応じて選択科目や卒業研究を通し、各分野の専門性をさらに高めることが可能です。大学生活の中では、B類家庭コースだけでなくA類家庭コースや他学年の学生とも様々な考えや視点から活発に交流し、家庭科の楽しさや重要性の理解を深めています。生活を科学的に学び、生徒に家庭科の楽しさや実践力を身に付けさせることのできる教員の基礎を作っていきます。 (佐々木郁翔 2025年度卒業生)



高等学校家庭科の模擬授業では、デジタル端末を活用した即時の意見共有をしています

特色ある科目

家庭コース入門セミナー、家庭経営学概論、家族関係学、被服学概論、被服構成学、栄養学概論、調理学概論、住居学概論、児童学概論、乳幼児と生活Ⅰ、家庭電気・機械・情報処理、家庭科教材論、家庭科カリキュラム論



めねじの加工（イメージ）

理論的背景のある創造力を身につけよう

技術・工業に関する教職科目と理学・工学などについての幅広い科目が体系的に配置され、基礎的内容から応用的内容へと段階的に学ぶことができる理系中心の教職課程です。中学校技術科および高等学校工業科の教員としての高度な専門能力を有し、自発的に創造できる教員を育てることが目標です。

4年間の学び

1年次には、製図、木材加工、金属加工等の授業を通して、エンジニアリングデザインプロセス（工学的設計プロセス）に基づいた設計・試作・製作に関する基礎的な能力を身につけます。これと並行する形で、中学校の技術科教員になるための基礎知識と教科教育学、数学・物理学についての基礎知識に関する学習も行います。2年次には、1年次の学習内容を踏まえ、技術科教員になるため、教科教育学、栽培学、加工学、電気工学、情報工学、機械工学等に関する幅広い知識を習得します。3年次には、2年次の学習内容を発展させ、技術科教員になるための教科教育学や工学について更なる学習を行います。2年次・3年次では座学により各専門科目の基礎事項を学ぶと共に、実験・実習により座学で得た知識の確認を行います。また3年次初頭に、卒業研究のために研究室への配属が行われ、研究室のゼミ等により卒業研究に向けての準備が始まります。3年次の9月には附属学校での教育実習があります。4年次には卒業研究が実施されます。設定した卒業研究の課題に関し、約1年をかけてじっくりと研究します。卒業研究は究極の問題解決型学習です。自主性を発揮して挑んで下さい。技術科特有の問題解決型の学習や卒業研究を通して、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力する人になって欲しいと考えています。

先輩からのメッセージ

このコースには、技術科教員及び工業科教員を目指す学生が全国から集まっています。技術科・工業科の授業を構成する技術科学と、教育学の両方を先生方のきめ細かな指導の下で学ぶことができます。木材加工・金属加工・

栽培などの実際に手を動かす実習もあり、実践的な内容を多く取り扱っていることも特色です。1学年10名程度という少人数のコースなので、学生同士のつながりも強く、自由な雰囲気の中で日々学びを深めています。私は、教育に対する思いを持つ学生たちと親身になって支えてくださる先生方のおかげで充実した学生生活を過ごせています。みなさんもぜひ一緒に学びませんか？きっと、実りのある4年間を送ることができるでしょう。

（高橋凜子 2024年度卒業生）



授業風景（試作）

特色ある科目

技術コース入門セミナー、工業数学Ⅰ・Ⅱ、工業物理学Ⅰ・Ⅱ、ものづくり・技術教育カリキュラム論、ものづくり・技術教育教材論、金属加工概論、基礎製図、栽培、工業技術、情報処理概論、技術科教育法Ⅰ～Ⅳ、工業科教育法Ⅰ・Ⅱ、青年期の職業指導、木材加工の基礎・応用Ⅰ・Ⅱ、電気回路、機械工学の基礎



中等教育専攻

英語



英文法をわかりやすくどう教えるか、議論にも力が入ります

英語を学ぶおもしろさや奥深さを伝えよう

英語教育の理論と実践、英語学、英米文学文化についての多様な科目が体系的に配置され、基礎から高度な専門性へと段階的に学ぶことができます。高度な英語運用能力を有し、英語に関する素養と豊かな人間性を備えた英語教師を育てることが目標です。

4年間の学び

1年次には主に英語運用能力を高めるための科目と、英語学、英米文学文化、英語教育学の基礎を学ぶための科目を履修します。2年次には、教職に関する科目（英語科教育法など）の履修が始まります。これらの科目は3年次も引き続いて履修し、中学生、高校生に英語を学ぶ楽しさを伝え、生徒たちの英語学習を適切に援助するために必要な知識や指導技術を学びます。授業中にはグループで意見を交わしながら英語教材を作ったり模擬授業を行ったりします。また、英語学や英米文学文化の授業も引き続き履修し、より専門的な内容を学び、英語という言葉や英語圏の文化についての教養を深めます。例えば、英語という言葉の仕組みや歴史について学んだり、文学や映画を題材に、文化の成り立ちを読み解く力をつけたりします。3年次には附属学校での教育実習があり、それまでに学んだ知識や技術を生かして実際に中学生、高校生を相手に授業をします。4年次には卒業研究に取り組みます。英語学、英米文学文化、英語教育学の3分野の中から1つを選び、自ら決めたテーマのもと、4年間の学びの集大成として英語で卒業論文を書き上げます。また、希望者には4年次にも教育実習の機会が用意されています。学生生活を通して、外国語や外国文化を学ぶことに粘り強く努力し、他者理解に向けて自らを開こうとする人になって欲しいと考えています。

先輩からのメッセージ

「先生といえば学芸大」と聞いて進学を決めた大学での4年間は、教員として働く今の私にとって大きな財産になっています。多様な授業を通して、先輩の授業映像を見たり、英語の絵本の活用法を考えたり、生徒の立場で音声の学

習を体験したりする中で、英語を教えるための引き出しがどんどん増えていきました。さらに、模擬授業に臨み、フィードバックをもとに客観的に振り返り、新たな気づきを得るというサイクルを通して「自分が英語教育で大事にしたいこと」が蓄積されていきました。今でも授業づくりで悩んだ時には、増やした引き出しの中から自分なりの解決策を導き出しています。自分がやってみたいことを受け入れてくれる先生方と、常にモチベーションを高めてくれる仲間と挑戦を続ければ、きっとあなたにとっても財産になるはずです。

（小田怜奈 2024年度B類英語卒業生）



「こうじゃない?」「そうかなあ」 試行錯誤と切磋琢磨

特色ある科目

英語読解、英会話、英作文、英文法演習、英語音声学概論、現代英語学、英語史概論、文法理論、イギリス文化概論、アメリカ文化概論、英米文学概論、英語科教材論、中等英語科教育法、第二言語習得、英語科カリキュラム論、英語科と異文化理解



「漢字研究 B」における作品検討会

書について学び、その魅力を伝える

書の実技、歴史、理論、鑑賞、指導法について、幅広い視点から、深く学ぶことができます。書の歴史や文化、書の表現や教育についての総合的な力を身につけ、高度な専門性と豊かな人間性を備えた高等学校芸術科書道の教員を育てることを目標としています。

4年間の学び

1年次には、書や書写・書道教育の基礎について学ぶ科目、書道実技の技能を高め、書道史についての理解を深める科目、日本文学や中国文学、国語学の基礎を学ぶ科目を履修します。2年次には、書道実技や書道史、書の鑑賞に加え、書道科教育法など、書写・書道教育の理論や指導法について学ぶ科目の履修がはじまります。また、国語の各分野についても、演習の授業を通じてさらに深く学んでいきます。3年次の春学期には、教育実習の事前指導が行われます。秋学期には附属学校での教育実習があり、それまでに学んだ知識や技能を生かして、高等学校芸術科書道や中学校国語科の授業を、実際の生徒を前にして行います。また、卒業研究（作品制作と卒業論文）に向け、作品制作や学術研究の方法を学ぶ科目の履修がはじまります。4年次には、卒業研究に取り組みます。卒業研究は、作品制作研究と卒業論文の執筆からなり、4年間の学びの集大成として、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3分野の作品制作と、書写・書道教育や書学・書道史についての論文執筆を行います。授業での学びや、授業外での学書や作品制作を通して、書の文化や歴史、書の表現や教育について、幅広い視点から深く学び、子どもたちや社会に向けて書の魅力を伝えることができる人になってほしいと考えています。

先輩からのメッセージ

本コースでは、高等学校芸術科書道および中学校国語科の教員を目指す上で必要な力を養うことができます。教員に求められる知識と技術の両面を、4年間を通して着実に高めることができます。知識面では、書道史や学習指導要領について講義形式で学ぶほか、2年次以降は自ら疑問を見出し、研究・発表する機会が設けられています。技術面では、各書体の書風の学習を基礎として、仮名、各種創作、篆刻まで、高等学校芸術科書道で扱う内容を幅広く学

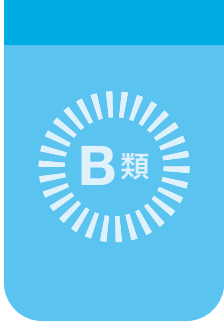
びます。先生方の丁寧なご指導に加え、仲間同士での批評を重ねながら、技術の向上を目指します。3年次・4年次には教育実習があり、大学で学んだ内容を実際の授業を通して確認することができます。二度にわたる実習経験は、将来現場に立つ際の大きな安心感につながりました。書道コースの学生向けサークルでは、学生主体で活動を行い、さらなる学びを深めています。学年を越えた交流を通して、自身の表現について考えを深めることができました。本コースでは多様な角度から書道を見つめ、その理解を深めていくことができます。書道の教員を目指す方は、ぜひ東京学芸大学書道コースへお越しください。（杉本菜摘 2025年度卒業生）



「書道科教育法 II」における模擬授業

特色ある科目

漢字研究 A/B/C、仮名研究 A/B、漢字仮名交じり研究 A/B、書道科教育法 I / II、書道科カリキュラム論、書道科教材論、書道史研究 A/B、書論・鑑賞研究 I / II / III、書学 I / II、書学・書作品制作演習、日本古典文学史、日本近代文学史、中国古典文基礎、中国古典文学概論



中等教育専攻

情報



本学卒業生による高校情報科の授業風景

集まれ！ 情報科教員を目指すすべての高校生

情報技術が急激な進展を遂げ、情報通信機器やサービス、情報を適切に選択・活用していくことが不可欠な社会が到来してきています。その社会で活躍することになる生徒たちに、科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力とデータ活用力を育む情報科と数学科の教員に必要な知識・技能を学ぶことができます。

4年間の学び

情報コースでは、教育支援専攻（E類）情報教育コースの学生と共に、1年次に計算機システムの仕組み、プログラミングやアルゴリズム、情報数学などの情報科学・情報工学の基礎を学んだ後、2年次以降でオペレーティングシステム、情報システム、ネットワークシステム、計算機ハードウェア、コンパイラ、HCI、情報メディアなどの専門的な内容を学んでいきます。

加えて、情報社会や情報倫理、情報科教育に関する教材論やカリキュラム論、そして情報科教育法を学び、また、授業観察と教育実習、教職実践演習を通して、高校情報科教員としての力をつけていきます。

これらに合わせて、1年次に情報科学・情報工学の土台にもなる解析学、代数学、数理・データサイエンスを、2年次以降で幾何学、数学科教育法、さらにデータ分析や知識処理を学んで、“データの活用”と“コンピュータの活用”が重視された新しい中高数学科教育に対応できる力を習得します。3年次からはE類情報教育コースの学生と共に研究室に所属し、研究室それぞれの専門分野における研究手法を学んで、4年次には卒業研究に取り組みます。卒業研究としては、授業や学習を支援するソフトウェア・ハードウェアの開発研究、情報教育とICT活用に関する実践研究やカリキュラム開発など様々なテーマに取り組んでいます。

先輩からのメッセージ

「教育学部で情報を専門的に学んで、どんなこと？」 そう思っている人、多いのではないのでしょうか。私も高校生の頃は同じでした。でも大学で学ぼううちに分かったのは、子どもたちに“情報の面白さ”や“使いこなす力”をどう伝えるかを、本気で考える学びだということです。今の学校では一人一台端末が当たり前になり、情報を教える先生の役割はどん

どん大きくなっています。B類情報コースでは、プログラミングやデータ、情報デザインなどを楽しく実践しながら、教える力を育てていきます。教員になった今、「大学での学びがあったから挑戦できる」と実感しています。もし、“情報を教える仕事って面白そう”と思うなら、ここでの学びがあなたの未来を広げてくれます。

（濱本龍尊 2024年度A類情報教育選修卒業生）



免許科目である「計測と制御」の授業風景

特色ある科目

情報科教育教材論、情報科教育カリキュラム論、コンピュータシステム概論、計算機ハードウェア、オートマトンと形式言語、オペレーティングシステム、ネットワークシステム、マルチメディア情報解析、情報メディア、情報社会と情報倫理、知識処理と人工知能



特別支援教育専攻

特別支援教育



聴力検査の実習の様子。様々な検査や評価方法についても学びます

子どもたちを支える強くて優しい人になる

障害のある子どもの教育や発達について学べるよう、高い専門性をもつ教員による少人数での指導が行われています。C類の学生は、厳しい中にも温かみを感じられる雰囲気の中で理論と実践を学ぶことができ、卒業生は高い専門性を備えた教師や専門家あるいは研究者として全国で活躍しています。

4年間の学び

【特別支援学校教諭になるなら、東京学芸大学】

C類では、1年生で「特別支援教育概論」などの特別支援教育に関わる基礎的内容を学習するとともに、学校見学などを通じて障害児教育の実践について学びます。2年生以降「聴覚障害・言語障害系コース」及び「発達障害・学習障害系コース」の各コースに分かれて、それぞれの障害の特性に関するより専門的な内容を学びます。また3年生の秋学期以降は、各研究室のゼミに参加して、卒業研究に向けての準備を開始します。さらに春学期では附属小学校における教育実習、秋学期には附属特別支援学校や都立ろう学校での教育実習を行い、実践の力を磨いていきます。4年生になると教員採用試験に向けて勉強に励む学生が多く、卒業研究とあわせて忙しい1年を過ごします。卒業時には、小学校教員免許状と特別支援学校教員免許状（聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の4領域）の2種類の教員免許を取得することができます。また、学生によっては、中・高等学校や幼稚園の教員免許の取得もめざしている者もいます。C類は卒業に必要なとされる単位も多く、近隣の特別支援学校等での教育支援やボランティアに参加することも多いため、忙しい4年間となりますが、その分、大学生生活は充実したものとなるでしょう。

先輩からのメッセージ

C類の授業では、障害についての心理・生理・病理などの基礎的な知識から、実践的な支援方法や指導事例についても幅広く学ぶことができます。また、障害児と関わるボランティア活動や臨床活動も充実しており、授業で学んだことを実際に活用する機会も多くあります。私は、聴覚障害

児へ発達支援をする臨床活動に参加し、1人の子どもに深く関わることや集団の中の1人として支援を行うことを通じて様々な気づきを得ることができました。それぞれの子どもにあった支援方法があり、その支援方法を子どもの姿を通して考えられるのがC類の魅力の一つだと思います。ぜひ、C類で温かい先生方の丁寧なご指導とやさしい仲間にも恵まれた充実した4年間を過ごしてください。

（下村萌日 2025年度卒業生 教職大学院1年）



お子さんを対象とした調査研究の様子

特色ある科目

特別支援教育概論、各障害（聴覚・言語障害、知的障害、肢体不自由、病弱）の心理・生理・病理および指導法、重複障害教育総論、言語・情緒・発達障害教育総論、特別支援教育支援方法論、特別支援教育演習など



養護教育専攻

養護教育



附属幼稚園での保健教育の様子

子供の健康な未来をつくる養護教諭になろう

子供の健康支援のエキスパートとなる養護教諭を養成しています。そのために、健康に関する幅広い学問的基礎と養護実践の基礎を学び、実習などを通して実践力を培います。さらに、スクール・ヘルスケアを多角的に捉える視点とマネジメント能力を育みます。

4年間の学び

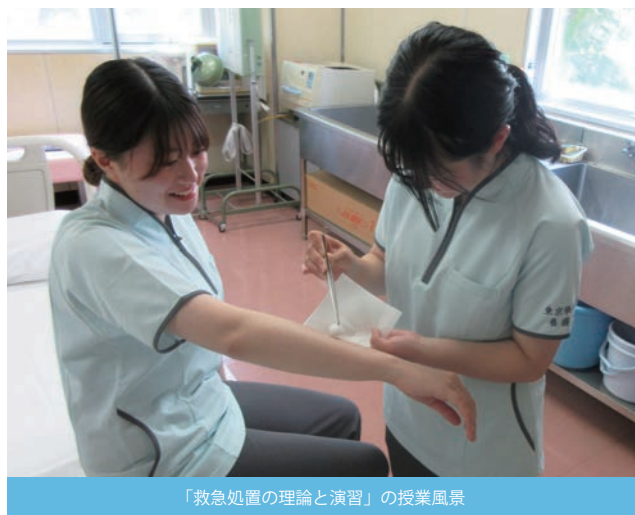
1年次には、公衆衛生学や生理学など、子供の健康課題を見つけ、対処していくために必要な科目や、学校保健、健康教育、養護教諭の専門科目等の、基礎となる部分を学びます。2年次には、1年次で学んだことをベースに臨床医学・看護学などの科目を履修します。これらの科目は3年次にも引き続いて履修し、養護教諭として健康面から子供のケアをするために必要な知識や技術を学びます。例えば保健だよりを作成したり、保健教育の指導案とその教材を、グループで意見を交わしながら作成し、実際に幼稚園児の前で指導したりします。また、保健科の免許を取得するための保健科教育法の履修も始まります。3年次には、フィジカルアセスメントや救急処置の理論と演習など、より専門的、実践的な内容を学びます。さらに、附属学校での養護実習があり、それまでに学んだ知識や技術を生かして実際に小中学生を相手に、保健教育や一日保健室経営をする機会があります。加えて病院実習もあり、学校以外の保健や健康サービスの実際について学びます。4年次は、選択で公立小中学校での養護実習、保健科の免許を取得予定の人は保健科実習があります。また4年間の学びの集大成として、自ら決めたテーマのもと卒業論文を書き上げます。学生生活を通して、養護教諭として、健康面から子供のケアに携わる人、学校や子供の健康課題解決のために、知識と技術を活用できる人になって欲しいと考えています。

先輩からのメッセージ

「けが人がいないときは何をしているの?」と聞かれることが多い養護教諭ですが、実際の職務は多岐にわたります。子どもが抱える課題は複雑化しており、私たち養護教諭は看護学、教育学、心理学等様々な知識を総動員させて保健の専門職として、チームで連携しながら日々子どもとその取り巻く環境に対応しています。D類養護教育コースでは、その基礎となる知識

や技術の習得、物事を多角的に捉え深く思考する力が養われました。また数多くの実習を通して、各発達段階の子どもの様子を学ぶことができたことも、現場での実践に活かされています。私は教育実習を機に小学校の養護教諭を志望し、現在までずっと小学校で勤務しています。現場は予測できないことの連続ですが、この大学で培った学びと支えは、いつも私に確かな自信を与えています。

(河田万葉 (旧姓:堀江) 2018年度卒業生)



「救急処置の理論と演習」の授業風景

特色ある科目

養護教育専攻入門セミナー、養護概論、学校安全と危機管理、健康と栄養、精神保健、救急処置の理論と演習、学校看護学理論と演習Ⅰ～Ⅳ、健康教育教材論、養護活動カリキュラム論、小児科学、歯科保健、養護実践学、健康相談活動の理論と方法



教育を支援するスペシャリストをめざす



教育支援課程の目的

日本の社会や教育は、今、大きな変革期を迎えています。情報化、グローバル化が進む現代社会の中で、教育の課題も複雑化・多様化しています。こうした中で、学校と社会が一体となって教育をすすめていくために、教育マインドと様々な専門性を持つスペシャリストが連携しつつ、教育の営みを幅広く支援していく必要があります。

教育支援課程は、変革期の真ただ中にある教育現場のさまざまなニーズに応えうる人材の育成を目指しています。教育の基礎知識と教育支援の専門知識、さらに協働する力やネットワークを形成する力を習得することを通じて、学校の外部にあって学校現場と協働し、様々な現代的教育課題の解決を支援する意欲と能力を備え、自ら考え行動できる教育支援職を養成することを目的としています。



東京学芸大学ならではのポイント

教育支援とは、学習者（子どもなど）を支援する場合と教育者を支援する場合の2つを含みます。学びに関わるさまざまな人々へ働きかけ、補助したり、連携したり、協働したりして、教育活動の質を維持・改善する一連の活動を指します。新しい時代の教育は、連携と協働がキーワードです。子どもを地域・社会全体で育てること、教育を通じた地方創生や地域づくり、教育を支える市民と専門職の育成などといったすべてのことがらに、教育支援は関わります。

東京学芸大学の教育支援課程は、全国の教員養成系大学・学部在先駆けて初めて設置された、次世代の教育と社会を担う人材養成をめざす課程です。本課程では、学校と連携し協働して教育にたずさわる教育支援職を育てるため、それぞれ学びたい領域や高めたい専門性に応じて、生涯学習・文化遺産教育、カウンセリング、ソーシャルワーク、多文化共生教育、情報教育、表現教育、生涯スポーツの7コースを設置しました。卒業後、めざす仕事について詳しく知りたい方は、各コースのページをご覧ください。



カリキュラムの特色

課程共通科目（「教育支援概論」など各コースの学生が協働で学ぶ科目）では、教育支援の基礎的な知識の獲得と、チームアプローチ力を育成します。また、様々な教育現場をフィールドにして高度な実践力を身につけるために、コース別選択必修科目として、フィールド系科目が開設されていることも特色のひとつです。さらには、学校教育にフォーカスした内容や学校内外での様々な教育課題に関する内容を、学校教育教員養成課程と教育支援課程の学生が共通に学ぶ横断的な科目として「教育創成科目」が用意されています。



めざす仕事

将来、学校や地域、教育行政、教育関連企業、教育関連非営利組織等の場で教育支援人材として活躍することを期待しています。例えば、子どもや学校を支えるカウンセラーやソーシャルワーカー、生涯学習・社会教育施設職員、教育情報システムの開発者、多文化共生教育に関わる教育支援職員、劇場やイベントなど芸術表現活動に関するスタッフ、スポーツ指導者・関連団体職員、教育・研修関連の民間企業スタッフなどです。

詳しくは、各コースのページを参照してください。



教育支援専攻

生涯学習・ 文化遺産教育



授業の中で、公民館等での実際の講座を企画・運営

「学び」をつなぐコーディネーターになる

だれもが学び成長することができる生涯学習社会を目指して、地域や学校などさまざまな場面で、人と人、人とモノ、過去・現在・未来をつなげ、人々の学びあいを支える人を育てます。社会教育学、図書館学、博物館学、文化財科学、考古学、保存科学といった分野から、生涯学習・文化遺産教育の専門性を培います。

4年間の学び

1年次には、生涯学習や文化遺産教育をめぐる考え方や現代社会における課題、実際の取り組みなど、基本的なことについて学びます。2年次以降はより専門的な力量を形成するために、履修モデルをもとに領域や分野を定めて学習を進めていきます。

生涯学習領域に関心のある学生は、子ども・おとな・高齢者など多様な世代や状況にある学習者の支援、学習活動の組織化、地域教育などについて学びます。また、生涯学習を支える条件や環境整備、法制度、公民館・図書館・博物館などの生涯学習施設、専門職の役割に関しても学んでいきます。

文化遺産教育領域に関心のある学生は、文化遺産の保護・保存とその活用を行っていくために必要な知識と技術について学び、文化財の調査・研究法、保存・修復法について専門性を培っていきます。

3年次からは、「社会教育」「図書館」「博物館」「文化財科学」「考古学」「保存科学」の分野から主専攻を選択し、演習を通してより専門的に学びを深め、4年次には卒業研究に取り組みます。

授業では、現場や現物に実際に触れ、自分たちでも実践する主体的・能動的な学習方法を多く取り入れています。

先輩からのメッセージ

生涯学習領域ではチーム活動を通じて、地域の学びの場の形成を円滑に進めていく専門的スキルを身につけられます。私の主専攻である「社会教育」では、立川市の学習館と協働し、「プレ錦まつり」や「かわせみカフェ」などのイベントを開催しました。住民と交流の場を創り出す実践から、入学前よりも積極的に行動できるようになりました。

文化遺産教育領域は実践の機会が豊富で、高い専門性を身につけます。考古学での実測や保存科学におけるX線調査、博物館のバックヤード見学などを行います。また、先生から遺跡見学会や発掘調査事業を紹介していただくこともあり、現場での活動も充実しています。

学びの舞台は身近な場所にも数多く存在します。皆さんも、人々の学びを支えながら、自らも学習者として経験を深めてみませんか？

(居倉優菜 4年)



家庭科が所蔵している古い着物資料の調査活動

特色ある科目

生涯学習支援論、社会教育経営論、社会教育実習、地域図書館経営論、子ども図書館サービス論、学校図書館サービス特論、生涯学習社会と博物館、博物館学基礎論、博物館実習、文化遺産教育と考古学、文化遺産と保存科学、保存科学実地研究、文化財科学概説、文化財分析化学実験、文化遺産教育フィールド演習

めざす仕事

卒業後は、図書館司書、学校司書、国公立の博物館・美術館等学芸員、公民館主事、社会教育主事、自治体職員などをはじめとして、生涯学習・文化財関係の施設・団体、大学・専門学校等教育機関、教育・研修関連の民間企業、博物館等の展示制作・教育活動支援企業、文化財調査研究機関等さまざまな職場での活躍が期待されています。

各分野の詳しい内容や実際の授業の様子については、下記ウェブサイトも見てください。随時更新中です。

<https://sites.google.com/view/lifelongheritage/>

生涯学習・文化遺産教育コース

社会教育学

図書館学

博物館学

考古学

保存科学

文化財科学

東京慈恵会医科大学学術情報センター

伊深桐唯 さん (2024 年度卒業生)

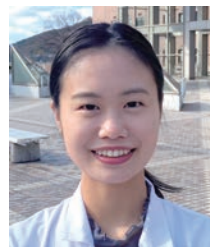
私は、東京慈恵会医科大学の学術情報センターで司書として働いています。図書館では、情報サービスを担当しています。主な業務はカウンターでの資料の貸し借りなどの利用者対応と、利用者の方が見たい資料や知りたい情報を調べるレファレンスです。またその他にも利用者への文献検索講習など、利用者サービス中心の業務を行っています。大学では図書館学を専攻していました。図書館学含め生涯学習領域の授業やゼミでは、座学だけでなく、関連施設への訪問見学や企画の実行、イベントへの参加など実践的な学びの機会を得ることができます。これらの経験を通して、より図書館に対する視野が広がり、特に学習を支援することへの興味を持ったことが、今の自分自身につながっているのだと思います。



川崎医療福祉大学教務課

上野由香子 さん (2020 年度卒業生)

私は、岡山県の私立大学職員として教務課で働いています。事務作業や教員・学生対応のほか、オープンキャンパスや入試にも携わります。今は、放送大学や社会人学生の給付金手続きなどを主に担当しています。どこでも誰でも学べる機会の提供に向けて試行錯誤している点が、大学時代に学んだ生涯学習の目指すところと繋がっていると感じます。社会教育ゼミで市民講座を企画した際、楽しそうに学ぶ社会人の方々と交流したことが印象に残っています。社会人3年目の時、自分も好きなことを学びたいと思い、休日に学校に通ってキャリアコンサルタントの資格を取得しました。生涯学習という考え方に出会えたことが、今の自分の可能性を広げてくれていると思います。



こども家庭庁成育局保育政策課

大坪亜也菜 さん (2019 年度卒業生)

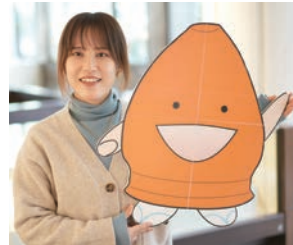
私は現在、こども家庭庁で事務官として働いています。こども家庭庁は令和5年4月に設立された組織です。私は、中でも保育に関わる政策、特に保育所、幼稚園、認定こども園等の職員配置や職員の処遇に関わる施設等への財政支援に関する政策を担当しております。私は、大学で生涯学習や社会教育学を学び、こどもの居場所づくりや生活を豊かにするための土台となる人々の生活を支える仕事に興味を持ち、特にこどもに重点をおく現在の職場を選びました。日々目の前の仕事に追われる毎日ですが、大学時代に講義や公民館での講座企画等を通して、様々な人々のニーズとその背景を知り、何ができるのか考え、実行する機会を得たことは、今の職場でも、活かされていると考えています。



府中市ふるさと文化財課

青柳有紀 さん (2023 年度卒業生)

私は府中市ふるさと文化財課に所属し、ふるさと府中歴史館で勤務しています。主な業務内容は、地域の文化財普及を目的としたイベントの実施や、社会科見学で歴史館を訪れる小学生への解説など、文化財活用に関することです。大学では考古学を専攻していました。少人数だからこそ、個々人で興味のある分野に取り掛かることができ、サポートしてもらえる環境が整っていると思います。また文化遺産教育や社会教育など実践的な授業が多く、様々な人と関わり合いながら学んできました。このような大学の授業を通して得た多くの経験が、文化財活用の考え方の大きな助けになっていると実感しています。これからも、地域の文化財をたくさんの人に興味をもってもらえるよう、業務に励みたいと思います。





教育支援専攻

カウンセリング



令和8年度1年生 将来のカウンセラーになる「たまご」たち

心のを聴くカウンセラーになる

人々の心を支え、心の回復や成長の手助けをするカウンセラーは、学校や地域社会に欠かせない存在となってきました。本コースでは、臨床心理学・カウンセリングを専門として教育と社会に貢献する人材を育てます。悩みや苦しみを抱える人に寄り添い支援する技術をもった専門家になるために学びます。

4年間の学び

カウンセリングコースでは、公認心理師（国家資格）を養成するための学部カリキュラムに基づき、教育を行っていきます。1年次には、臨床心理学概論、心理学概論、教育・学校心理学、発達心理学などの授業を通して、心理学や臨床心理学の基礎を学ぶとともに、心理学統計法など心理学研究に必要な基礎学習を開始します。2年次になると、心理学的支援法、福祉心理学、障害者・障害児心理学などで支援の基礎となる態度を実践的に学ぶとともに、心理学研究法、教育・心理データ解析法などを通して、データ解析や質問紙調査等の技術も学びます。3年次になると、ゼミを選択し、自分の関心の高いテーマによる研究を開始します。さらに公認心理師の職責、心理的アセスメント、健康・医療心理学、精神疾患とその治療、学習・言語心理学など専門的な授業が展開されます。4年次にはこれまで学んできた心理学研究法を用いて1年かけて卒業論文に取り組みながら、心理実習の授業を通して臨床現場の見学実習を行います。このように、カリキュラムは1年次から4年次まで体系的に組み立てられています。臨床心理学を基礎とする支援に関する技術を学ぶとともに、基礎心理学に基づいた研究法の授業も充実しており、「心のを聴くことができること」と「論理的な思考力」とを両立するカリキュラムとなっています。

先輩からのメッセージ

カウンセリングコースでは、同じ志を持つ仲間たちと少人数で学び、心理学の基礎知識や臨床的知識を得るだけでなく、問いや課題を自ら発見し、解決する力を養うことができます。

心理検査やロールプレイングを行う授業、心理実習を通して、心理職の難しさ、そしてやりがいを肌で感じることが出来ます。心理学は臨床現場だけでなく、実生活にも応用できる学問です。「相手の心」だけでなく「自分の心」と向き合い、理解することは、心理師として、人として非常に重要なことです。この4年間は、それを実践できた有意義な時間だったと感じます。私たち一人一人と真剣に向き合ってくれた先生方、仲間と一緒に自分の生きる道を見つけませんか？

(井手上桃子 2025年度卒業生)



心理演習の授業風景

特色ある科目

スクールカウンセリング概論、心理療法実践演習、公認心理師の職責、心理学概論、臨床心理学概論、心理学研究法、心理学実験、発達心理学、障害者・障害児心理学、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、精神疾患とその治療、心理演習、心理実習など

めざす仕事

カウンセリングコースの学生は、専門家になるために公認心理師（国家資格）などの取得をめざし、次のような仕事で活躍します。

- ・学校（教育委員会）や教育相談所に所属し、不登校、いじめ、発達障害、人間関係の問題等に対して専門的な支援を行うスクールカウンセラー、教育相談所相談員等。
- ・家庭の問題、虐待、非行などの問題に対して、心理学の専門性を活かして支援を行う児童相談所児童心理司、家庭裁判所調査官、法務教官、保護観察官等の公務員。
- ・心身の不調や障害を抱える人に対して、医療機関において臨床心理業務を行う専門職。



心理演習の授業風景

教育相談所相談員・
スクールカウンセラー

佐野渚月 さん

私は、区の教育相談所で相談員として働いており、保護者や子どもとの面談、プレイセラピーを行っています。また、区から学校に派遣されスクールカウンセラーとしても働いています。友人・家族との関係や学習について困っている子どもや、保護者・教員からの相談を受けたり、学校での子どもの様子を観察しアセスメントに役立てたりしています。相談所や学校では、より良い支援を行うために様々な機関や職種の方と連携をとることが多くあります。大学・大学院にて「多職種連携」について学んだことや、教員やその他の職種について知ることができたこと、実際に学校にて実習を行い学校の雰囲気を体験できたことが現在の仕事に活かされていると感じます。困っている人の心に寄り添い少しでも良い方向に進んだとき、やりがいを感じられます。

(2018年度卒業生・2020年度修士課程修了生)

児童相談所心理司

久保田琴美 さん

私は、児童相談所の心理司として勤務しています。児童相談所では、虐待、非行、障害などの子どもに関する様々な相談を受けており、福祉や医療分野の職員と連携して対応しています。心理司は子どもとの面接の中で、遊びや知能検査、心理検査を通して子どもの状態を把握したり、気持ちを受けとめたりしながら、今後の生活に必要な支援を見立てていきます。そして時には子どもの抱える「生きづらさ」を代弁することで、様々な援助者を繋ぐ役割も担っています。このような仕事をする中で私の基盤となっているのは、大学・大学院時代の授業や実習で得た発見を仲間と共有し学んだ日々です。立場の異なる人々と協働する中で、心理職に求められる姿勢や役割について丁寧に学べたことが、現場に出て大きな財産になっています。

(2018年度卒業生・2020年度修士課程修了生)

少年院法務教官

T さん

※職務の関係でイニシャル表記

私は、少年院で法務教官という仕事をしています。少年院は、非行に陥ってしまった少年に対し、矯正教育を施すことで、その立ち直りを支援する場所です。法務教官は、心理学や教育学等の専門的知識を生かし、少年が抱える問題をその少年と一緒に解決していきます。入院当初は心を閉ざし、行動問題が多かった少年が、徐々に心を開き、成長していく姿を見ると、この仕事をしていて良かったと感じます。法務教官として働く上では、大学時代に学んだ心理学の知識のほか、「教育」に関連する様々な専門的知識に触れることができた経験が役に立っていると感じています。また、悩み、苦しむ人を支えたいという志を持った仲間と出会ったことも、日々の心の支えになっています。

(2019年度卒業生)

精神科病院心理職

牛島あやの さん

小中学校に実習に行っていた期間に、カウンセリングコースの先生から「今のうちに多様な子どもたちの姿を知っておくことが大切」という言葉を頂いたことがありました。現在私は、単科精神科病院の公認心理師として勤務しているのですが、発達障害など様々な不適應を抱えるお子さんに会うと「こういう特性がある子どもが学校で安心して過ごせるためにはどうしたらいいんだろう」と、在学中に関わった子どもたちの姿を思い出して考えることが多くあります。教育領域の職場ではありませんが、在学中に得た学びを活かせるのはとても面白いところです。受験生のみなさんも、希望する進路は様々なと思いますが、学芸大での学びはどのような仕事にも結びついてくると思います。頑張ってください！

(2018年度卒業生・2020年度修士課程修了生)



教育支援専攻

ソーシャル ワーク



大学での講義や演習とともに、学外での実習や活動などを通して実践力を高めます

人々のウェルビーイングを増進する

教育機会を十分に保障されない子どもたちや家庭などを支援するスクールソーシャルワーカーをはじめとして、貧困、病気、障害、虐待など困難な状況に置かれている人々の最善の利益を守れるように支援する社会福祉の専門家を育てます。

4年間の学び

本コースは、人々のウェルビーイングの増進を目指し、ソーシャルワークの専門的知識や技術を持って、教育を始めとする関連領域の専門家と協働しながら、社会正義や人権尊重といった理念を体現できる社会福祉の専門家の養成を目的としています。その目的を達成するために、本コースでは、次のような授業を開設しています。

- 個人、家庭、社会等を理解するための授業
- 社会問題を理解するための授業
- 社会福祉政策・制度を学ぶ授業
- 支援を展開するための知識や技術を学ぶ授業
- 多様な専門職と協働することを学ぶ授業

1年次は社会福祉やソーシャルワークに関する基礎的な事項を学び、2年次以降徐々に専門的知識とソーシャルワーカーとしての基礎的技術を身につけていきます。3年次には2箇所以上の現場実習を行い、実践力を養います。また、5名の教員の研究室に分かれて社会福祉の研究方法を学びます。4年次には、各々の関心領域で卒業研究・論文作成に取り組みます。加えて、スクールソーシャルワーカーを目指す学生はスクールソーシャルワーク実習を行います。4年間を通じて無理なく、着実に社会福祉の専門家としての力を養います。

このコースでは、国家資格の社会福祉士試験受験資格の取得と、日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了者の認定を受けることができます。（定員20名。）

先輩からのメッセージ

このコースでは、ソーシャルワークの専門性を基盤とし

て人々が幸せに暮らすことができる社会の実現のための方策を学び、考えていきます。授業を通して社会福祉士としての価値や倫理、各分野における現状と制度・政策について理解し、3年次に行われるソーシャルワーク実習では、現場でに出て実践をしながら社会福祉士の役割や必要な技術・視点への学びを深めていきます。

少人数であるからこそ仲間や先生との距離も近く、それぞれの考えや学びが尊重される環境だと感じます。自分自身を理解し、人との関わり方から社会への働きかけまで幅広く学ぶことができるのが特徴的なコースです。

（小関汐音 3年）



演習の風景：課題の調べ学習や発表を行います

特色ある科目

ソーシャルワークコース入門セミナー、社会福祉原論、社会福祉演習、ソーシャルワークとキャリア形成、ソーシャルワーク論、スクールソーシャルワーク論、社会理論と社会システム、子どもの権利と現代社会、学校教育とスクールソーシャルワーク

めざす仕事

- 子どもや家庭を支える仕事（スクールソーシャルワーカー、児童養護施設職員、母子生活支援施設職員、児童発達支援センター職員等）
- 福祉政策に基づく制度を構築・運営する仕事（国家公務員・地方公務員）
- 児童相談所や福祉事務所等で公的に支援する仕事（地方公務員）
- 司法に関連して人の権利を擁護する仕事（家庭裁判所調査官、保護観察官等）
- 病気に苦しんでいる人や家庭を支える仕事（医療ソーシャルワーカー等）
- 困難な状況に置かれている人々を支援する仕事（地域包括支援センター職員、特別養護老人ホーム生活相談員、障害者相談支援事業所職員等）
- 地域の福祉を増進する仕事（社会福祉協議会職員、NPO職員等）



大学での学びを、社会で生かします

多摩少年院 / 法務教官

大嶋海嗣 さん (2022年度卒業生)

私の仕事

私は、多摩少年院で法務教官として働いています。法務教官は、少年院で矯正教育を通して少年たちの改善更生を促し、円滑な社会復帰のために支援を行うのが主な仕事ですが、それだけでなく少年院以外の法務省の機関において矯正行政の運営のために様々な仕事をしています。私は、中でも、少年院の教育部門というところで働いており、少年たちの生活場面で生活指導や体育指導を通して健全な心身を養うための指導を行ったり、就労や就学に必要な知識を身に付けてもらうため、職業指導や教科指導を行ったり、特別活動指導という、運動会などの行事を行い、協調性を養うための指導を行ったりしています。



仕事のやりがい

少年たちの成長を見たり、少年たちが出院した後に社会で頑張っているという報告を聞くと嬉しい気持ちになりますし、やりがいを感じます。少年たちの成長は内面的な考えの変化だけでなく、人との接し方が柔和になったり、家族関係が改善したり、何事にも意欲的に取り組むようになったりと様々です。その成長は少年たちが何かに本気で取り組むからこそ生まれています。少年たちが何かに本気で取り組み、気づきを得て成長していく姿は、逆に私たちに人を信じる大切さ、物事に本気で取り組むことの大切さを改めて学ばせてくれます。少年たちが様々な経験を経てたくましくなっていく様子は、やりがいを感じられるだけでなく、仕事をしている私たち自身の背中を押してくれる力になります。

大学の学びとのつながり

ソーシャルワークは対人援助職における基盤になりますが、それは法務教官も例外ではありません。人は自分の存在を受け止めてもらうことで人間関係を深めていきます。しかし、少年院にいる子たちはその経験に乏しいことが少なくありません。ソーシャルワークで学んだことは、少年たちと様々なコミュニケーションを通じて信頼関係を構築し、互いの人間性を育むことに非常に生かされています。問題性が根深く、なかなか信頼関係を築けなかったり、失敗を繰り返してしまう子の処遇に悩んだときは、ソーシャルワークで学んだことを思い返し、対人援助職としての基盤を徹底するようにしています。大学でソーシャルワークについて学んだことは、法務教官として働く私の土台になっています。

江東区役所 / 養育支援課

恩田瑞花 さん (2022年度卒業生)

私の仕事

私は現在、区役所で「虐待対策ワーカー」として働いております。主な仕事内容は大きく分けて2つあります。1つは名前の通り、児童虐待対応です。虐待が疑われる通告を受けると、その情報を元に対応します。虐待が疑われる事象の確認や、再発防止策を家族と一緒に考えていきます。

もう1つは関係機関との連携強化です。関係機関と定期的に会議を開き、情報共有を行っています。これにより、困っている家庭をいち早く見つけられる体制を作っています。



仕事のやりがい

この仕事は支援が難しい家庭も少なくありません。しかし、子どもの安心・安全を守るために粘り強く関わる必要があります。そんな時に、私たちが敵ではないことを理解してもらい、少しでも話し合えるようになる時にやりがいを感じます。また、子どもや家族から「前より落ち着いて過ごせてる、相談してよかった」と言われた時は、子どもの未来を守れたのかもかもしれないと思い、「この仕事をしてよかった」と感じます。

大学の学びとのつながり

大学の授業を通じて、知識や技術はもちろん福祉職としての心構えも学びました。それは常に念頭に置き、日々対応しています。また、ゼミでは自身の関心のある分野を調べて発表することが多く、他の人からも意見をもらい自身の学びを深めることにつながりました。その中で、現代の子育て世帯が抱える問題や地域での課題に関心を持ち、それらを解決したいと考えて現在の仕事に就き、日々動いています。



教育支援専攻

多文化 共生教育



異質さを超えた繋がり豊かなさ(インドでの異文化交流プログラムにて)

世界とともに生き、遊び、学ぼう

ボーダーレス化が進み、不安定で見通しの立たないグローバル時代。この時代に対応し、国の内外を越えて積極的にさまざまな人々と交流しながら、新しい社会と教育を構築していく、人間力あふれる人材を育てます。社会や価値観の急激な変化に対応できる基礎力と発想力・創造力をともに鍛えていきましょう。

4年間の学び

① 多彩な教員たちが幅広く丁寧に学びを提供することのできる少人数指導体制

人権教育やマイノリティ問題(移民・ジェンダー・少数言語 etc.)、グローバル課題(環境・開発・貧困 etc.)といったテーマについて、社会学、人類学、民俗学、歴史学、歴史社会学、地域研究、文学・文化研究など多様な専門分野の視点から探究します。多彩なゼミ活動の他、国内外の研究プロジェクトにも参加できます。

② 生きた言語を学ぶことができる充実した語学教育

ネイティブによる授業や外国語で発表する授業が用意されており、基礎的な語学力に加えて実践的に学ぶことができます。カリキュラム外で外国語の勉強会も開かれています。本学で最も留学率の高い本コースでは、多くの学生が語学研修に参加したり、交換留学制度を利用して海外に留学しています。

③ 体験を通じて学ぶための多様なフィールドワークを提供

多文化共生教育に関わる現場を訪問する実習授業の他、本コースの教員のネットワークを活かした海外研修や、国内外でのボランティア活動にも参加するなど、経験や知見を蓄積することができます。

先輩からのメッセージ

多文化共生教育コース在学中に探求した「言語・文化・価値観の異なる他者との関わり方」を実践するため、卒業後2年間、JICA 海外協力隊としてブラジルで活動しました。日本の野球文化が根づく日系社会で、少年少女への野球指導に加え、現地の青少年の健全育成を目的としたスポーツ振興事業にも携わりました。その土地の人々と同じものを食べ、同じ言語を話し、同じ悩みを共有しながら課題解決に取り組むという、貴重な海外経験となりました。本コースで培った、多様な人々や社会を柔軟に捉え、既存の価値観を問い直し、新たな視点を築いていくといった姿勢が、自らの常識が通用しない状況でも目の前の人たちと誠実に向き合う力の源とな

りました。

(川村 渉 2023 年度卒業)



JICA 海外協力隊で出会った仲間たち



ブラジルにおける野球指導とスポーツ振興

特色ある科目

- グローバル世界を理解する: 「グローバル化する世界と社会」「グローバル・ヒストリー」「グローバル社会論演習」など
- 持続可能で包摂的な次世代の多文化共生社会を目指す: 「多文化共生とダイバーシティ」「地域社会とサステナビリティ」「現代文化人類学」など
- 多様な言語文化に触れ多文化共生を考える: 「英語応用」の他ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・ロシア語関連授業、「言語と多文化」「比較文化論演習」など
- フィールド実践・研究の方法論: 「フィールド研究」「フィールドワーク論演習」「社会調査方法論演習」「多様な史資料へのアプローチ」「異文化間協働へのアプローチ」など

めざす仕事

国際的な活躍の場を目指す！

JICA・JETRO・国際連合等の国際機関の職員、国内外で多様な支援活動をしている NGO・NPO の職員、日本の在外公館職員、世界各国の在日公館職員など

次世代教育の現場で活躍する！

異文化理解とコミュニケーション能力を発揮する教育支援職、多様な教育ビジネス、日本人補習授業校などの在外教育施設など

グローバルなセンスと語学能力を活かす！

国際的な旅行・観光関連サービス、出版社、ジャーナリスト、メディア関連業、教育ライターなど

持続可能な包摂的社会に向けて才能を政策やビジネスで発揮！

国家・地方公務員（文部科学省、都庁など）、ソーシャルビジネス、ソーシャルデザイン、地域開発事業、社会福祉事業・介護事業など

多文化共生教育コースの多様な学び



キャンベラ大学でのデザインの授業では、グループで協力しライトを作成しました

日々の学びのなかで人種差別に問題意識を持ち、異なるバックグラウンドを持つ人々が暮らすオーストラリア社会を自分の目で見たいと考えました。留学生活は「挑戦」にあふれた毎日でした。デザインや建築史、ブランディングなど専攻以外の授業を履修することで、知識や経験の幅を広げるだけでなく多様な学生との議論やワークを経験しました。また、カフェでのアルバイトにも取り組み、働き方やコミュニケーションの取り方など、より近くで多文化を感じました。多くの人々との関わりから、挑戦する楽しさや行動に移す大切さ、そして自分の当たり前にとらわれず多角的に考える力を得ることができました。これらの経験は、今後も私の中の軸になると確信しています。（菊地稀衣 2024 年度卒業生）

多文化共生教育コースでは、現代社会が抱える「多様性」や「不平等」といった課題について深く探究します。私は4年次に交換留学でアメリカに渡り、日本でも関心を持っ



ボールステイト大学の友人たちと

て学んでいた社会学とジェンダー・スタディーズの授業を中心に受講しました。現地の学生と課題に取り組み、議論を重ねる日々は挑戦に満ちていました。そして、日本での学びを活かして授業内で執筆した「男女間賃金格差の複合的要因」に関する論文で、最高評価を得ることができました。アメリカ留学は、本コースで培った社会課題に対する多角的な視点と、様々な文化的背景を持つ人々と協働する力が、世界でも通用すると実感した経験です。そして、これらの知見とスキルは大学生活に留まらず、これからの人生において大きな財産になっていくと感じています。

（阿久津香織 2024 年度卒業生）

将来は、何らかの形で教育に携わりたいと思っていました。特に、差別やいじめ等、社会における「排除」に問題意識があり、その解決に果たす教育の役割への期待がありました。本コースでは、自分自身が多様な考え方に遭遇しながら、そういった学びを深められるのではと思い入学しました。

現在は、文部科学省で障害者の生涯学習の推進に関する業務に携わっています。当事者や支援者等、様々な方と関わりながら、「障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会」の実現を目指して、日々奮闘しています。まさに、本コースでの学びやその過程で培われた考え方が基礎になっていると、実感する毎日です。みなさんも、本コースで自分なりのテーマを深めてください。（野内瑛里 2020 年度卒業生）



教育支援専攻

情報教育



電子黒板と学習者用端末を利用した授業の支援（イメージ）

情報を科学し、未来を切り拓く

新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増している社会で生き、そして社会を創っていくための力を育てる情報教育と、教育効果をさらに向上させるために情報通信技術（ICT）の教育への活用が求められています。これらを学校の外から支える人を育てます。

4年間の学び

情報教育コースでは、B類情報コースの学生と共に、1年次に計算機システムの仕組み、プログラミングやアルゴリズム、情報科学の基礎、これからの学びの土台となる数学を学んだ後、2年次以降ではオペレーティングシステム、情報システム、ネットワークシステム、計算機ハードウェア、コンパイラ、HCI、情報メディアなど情報科学・情報工学の専門的な内容を学んでいきます。3年次では、データ分析や知識処理など、今注目されているAI・データサイエンスについても学びます。

加えて、学校現場と協働して様々な現代的教育課題の解決を支援できる人材を養成する教育支援課程の目的に沿って、E類の他のコースの学生と共に教育支援の基本知識と方法論を学びつつ、初等中等教育における情報教育とICT活用について体系的に理論と技能を学び、教育現場におけるフィールドワークを通して、教育情報化支援の実践的な力を磨いていきます。3年次からはB類情報コースの学生と共に研究室に所属し、研究室それぞれの専門分野における研究手法を学んで、4年次には卒業研究に取り組みます。卒業研究としては、授業や学習を支援するソフトウェア・ハードウェアの開発研究、情報教育とICT活用に関する実践研究やカリキュラム開発など様々なテーマに取り組んでいます。

先輩からのメッセージ

「情報」と「教育」その両方を本格的に学ぶことができる。そこが、教育支援課程情報教育コースの魅力です。授業では、プログラミングやシステムなどソフトウェアについては勿論のこと、ハードウェアやICT活用などについても学ぶ機会があり、「情報」としての学びの中でも幅広く学ぶことがで

きます。いきなり難しい内容ではなく、基礎的な内容から段階的に学ぶカリキュラムとなっているため、着実に実力をのばすことができます。また、研究室も多彩で、自分が興味を持っていることや研究したい内容に寄り添った指導を受けることができます。ICTの力で未来の教育現場をよりよくするために、教育と情報の新しい可能性に挑戦できる環境のなかで学んでみませんか。

（2024年度卒業生 大信友記恵）



ハイフレックスでの研究ミーティングの様子

特色ある科目

ソフトウェアシステムと教育支援、教育情報化論、教育情報化支援論、コンピュータシステム概論、オペレーティングシステム論、データベース論、情報システム、応用プログラミング、システムプログラミング、HCI、情報デザイン論、データ分析とコンピュータ論、知識処理と人工知能論

めざす仕事

- 最先端の ICT を活用した情報通信システムや教育用ソフトウェア、デジタル教材を開発し、学校の外から教育を支援する仕事（Yahoo、電通総研、ソニー、サイバーエージェント、KDDI 等に就職しています）
- 教育現場における情報教育や ICT 活用を支援、指導する仕事（ICT コーディネータ、ICT 支援員、ICT インストラクター等）
- これからの情報教育や教育への ICT 活用を担う教育者を育てる仕事（大学院進学後に大学教員、企業研究者等）
※大学院は、教育支援協働実践開発専攻教育 AI 研究プログラムが主な学内進学先となります。

教育 AI 研究プログラム

二見隆太郎 さん（2024 年度卒業）

教育や情報科学、情報工学は多数の分野からなる幅広い学問です。E 情ではそれらをバランスよく学ぶことができます。私は修正しやすいソフトウェアの作り方を学生にどう教えるかを研究しています。研究では、ソフトウェア開発工程に関することはもちろん、プログラム言語の理論、物事の捉え方など、たくさんの分野の知見を扱います。E 情は、研究の土台となる知識や考え方を授業の中ですべて、3 年次という早い時期から指導を受けながら研究にじっくり取り組むことができる、私にとって貴重な環境でした。修士課程では、カリキュラムの一環として行うフィールド研究などで、E 情での学びを活かしながら学校の先生方や学生に向けたソフトウェアの開発に取り組んでいます。AI が開発成果物を生成できるようになったとはいえ、ソフトウェアは知識の表現物であり、良いソフトウェアには良い知識が必須です。良い知識を学ぶにも、情報の捉え方を素養として身に付けておく必要があります。チームでやるならば仲間にも知識や考え方を与えることになります。情報以外の分野の学生とも関わりながら、情報も教育も学ぶ体験は、これから乗りこなす力となるに違いありません。



富士フィルムビジネスイノベーション株式会社

秋山仁美 さん（2024 年度卒業）

私は 2021 年に E 類情報教育コースに入学し、2025 年に卒業しました。現在は富士フィルムビジネスイノベーション株式会社（旧富士ゼロックス株式会社）において、働く現場を支えるクラウド商品のソフトウェア開発に携わっています。高校 3 年生のとき、情報工学が教育や医療をはじめとする多様な分野へ応用できる可能性を持つことを知り、加えて教育学・心理学・社会学にも関心があったことから、幅広い学びができる E 類情報教育コースへの進学を決意しました。本コースには、他大学の情報系学科にも引けを取らない専門的なカリキュラムと実践的な実習環境が整っています。在学中はアメリカンフットボール部のマネージャーとして活動し、スポーツ分野で活用が期待される画像処理技術や、現場を支援する IT 技術に強い興味を持つようになりました。その関心をもとに、3 年次には画像処理や機械学習を研究する研究室を選択し、本格的なソフトウェア開発を経験できる授業にも取り組みました。こうした学びと経験は、現在の業務にも確実に生かされています。E 類情報教育コースでの学修を通じて、皆様が充実した 4 年間を過ごし、その自信を胸に社会でご活躍されることを願っています。



情報教育コースの目指すところ

ICT の発展と社会への浸透に伴い、教育においても情報化への対応が必須となってきています。学習指導要領では、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として位置付けており、情報教育はますます重要になってきています。また、教師による ICT 機器の活用に加え、情報教育を円滑に行うためにも、教科等の学びを効果的・効率的にするためにも、児童生徒による ICT 機器の活用を日々の学びの中で行うことが求められています。これらの教育の情報化をより推進していくためには、児童生徒の発達や学校文化に合った情報システムや、教育的にもソフトウェアとしても

完成度が高いデジタル教材の存在が重要になります。そのため IT 系企業では教育の知見を持った、教材開発企業では情報通信技術を持った人材を求めるようになっていきます。さらにもますます重要になってくる人材が、教育と情報通信技術の両方の知見を有し、教師や他の教育支援者と協働して子どもたちの学びを作り上げていく人材（教育×ICT 支援人材）です。情報教育コースでは、これらの職種の人材、そしてそれらの分野を支える研究者の卵を育てることを目標としています。



教育支援専攻

表現教育



創造・伝達・鑑賞について、実践を通して学びます

多様な表現活動を知り、教育の場を支援する

高度情報化社会といわれる現代においてこそ、人と人が直接向き合うことの重要性が見直されています。このコースでは、さまざまな表現活動の学びを通じて、高いコミュニケーション能力を身につけ、教育の場を支援していくことのできる人を育てます。

4年間の学び

ライフスタイルが多様化した社会の中では、ひとりひとりが主体性を発揮しながら互いの個性を尊重して協働し、それぞれの想像力を生かすことが求められています。創造的なアイデアを提案し、他者にそれを理解してもらい、社会の中でいかにそれを実現していくかについて、芸術表現活動の実践や研究を通して学ぶとともに、そうした実践・研究を教育の場に生かす方法について学ぶことがこのコースの目標です。

このコースには、演劇表現、音楽表現、デザインについて研究している専任教員が所属しており、それぞれの専門分野や、隣接する身体表現、映像表現、言語表現に関する講義や演習を行います。

1年次秋学期に開設される必修科目は、表現教育コースにおける学びの土台となるものです。ここでは様々な芸術表現活動の基礎について学ぶとともに、それらを広く教育の場に応用する方法を考えます。

2年次・3年次には、コース科目から各自の興味・関心に合わせたものを選択し、芸術表現活動のそれぞれの分野についてより専門的な事柄を学びます。また、3年次からは専任教員のいずれかのゼミに所属し、研究・実践を積み重ねます。

4年次には、コース科目から各自の興味・関心に合わせたものを選択し、芸術表現活動のそれぞれの分野についての学びを深めるとともに、大学での学びの集大成として「卒業論文」を執筆します。

先輩からのメッセージ

「表現したい!」という気持ちで溢れている学科です。演劇や音楽、美術など、興味の方向は様々ですが、芸術表現について学びたいという気持ちは、皆が共通しています。周りの学生から刺激を受けることが多く、私は常に表現す

ることの面白さを感じています。

例えば、演劇の授業では、演劇を通して特定のテーマを学ぶワークショップを実践しました。先生も学生も優しいので、失敗を恐れずに表現することができました。デザインを学ぶ授業では、絵本や映像を制作しました。試行錯誤を繰り返した分、心に残る作品ができた時の達成感は計り知れないものです。

芸術表現をとことん追求したいという方は、いかがでしょうか。
(牛島惇 4年)



協働的な活動を通して、表現を探究します

特色ある科目

演劇と社会、演劇と教育、音楽表現概説、ビジュアルデザイン表現概説、批評理論研究、戯曲翻訳研究、インプロ研究、音楽表現研究、ビジュアルデザイン表現基礎、演劇表現分析演習、舞台表現分析演習、舞台表現指導演習、ビジュアルデザイン実践演習、アート・マネジメント論、芸術家と教育支援

めざす仕事

表現教育コースの学生の進路は、芸術表現を活用した教育を支援する仕事（教育現場における「演劇」や「表現」などの授業を支援するファシリテーター等）、芸術表現活動に関する知識と実践力を活用して学校と学校外の組織とを連携する仕事（劇場、美術館、地方自治体等）、芸術表現活動を支援する仕事（文化財団、劇場、ホール、イベント関係の団体や企業等）、芸術表現活動の振興にかかわる仕事（芸術文化振興団体、広告代理店、出版社、メディア関連企業等）等、さまざまな場での活躍が期待されています。



表現活動を支援する小道具を実際に作って活動してみます

株式会社 LITALICO

笠利 瞭 さん（2023 年度卒業生）

私の会社は、発達が気になるお子さまの支援や、障害のある方の就労支援を中心に、障害福祉・児童福祉分野でさまざまな事業を展開しています。私は現在、児童発達支援事業所に勤務し、未就学のお子さまへの学び、支援を届ける仕事に取り組んでいます。お子さまひとりひとりの持つ個性を大切にしながら支援することで、前向きに生きる力や自信に繋げることを目指しています。



大学で学んだことが活かしていると特に感じる場面は、お子さまへの「伝える」工夫を考えるときです。事業所にはさまざまなお子さまが来られますが、そのひとりひとりに合わせて課題の提示方法を柔軟に変えなければなりません。そういう時、表現教育コースで学んださまざまな表現技法や実践経験を振り返り、指導の中に積極的に取り入れています。

表現教育コースは、多様な芸術表現を学びながら教育的実践に取り組むコースです。在学中私が魅力として感じていたのは、表現活動の学びを通じた人と人との関わりの機会が学校内外に多くあったことです。実際に、演劇の授業の中で地域の子どもたちを招いてワークショップを開いたり、授業外では地域で活動するクリエイターが集まるイベントに参加し、コースの仲間と共に自分たちの作った作品を展示・販売したりと、貴重な経験を沢山させていただきました。そこで出会った方々から自分の作品、表現に対しあたたかい言葉を貰った時の感動や、そんなコミュニケーションを通じて人の輪が広がっていく楽しさこそが、教育の場における表現活動の可能性の一つではないかと私は感じています。

表現教育コースに集まる仲間は得意な表現の幅も広く刺激的です。コース内の雰囲気を取り返してみると、ひとりひとりがありのままの個性を隠さず発揮でき、それを受け入れ活かし合いながらより素敵な作品、人の繋がりを生み出している、私にとってはとても居心地の良い協働の場でした。大学4年間でさまざまな学び、人との出会いを通じ、その人だけの持つ個性を大事にできること、されることは人の心のより豊かな成長に繋がると確信できたことが、そのまま今の仕事のやりがいにも繋がっています。さまざまな選択肢がある中でこの表現教育コースに関心を持ってくださった皆さんが、自分の「らしさ」に胸を張って、将来充実した学校生活を送られることを心より応援しています。

株式会社バックスグループ

坂本彩夏 さん（2023 年度卒業生）

表現教育コースを目指している皆さんの中には既に特定の文化芸術に触れている経験があり、それらへの興味関心を抱いている方もいれば、そうでもない方もいると思います。この学科で学ぶことの一番の魅力は、「仲間と一緒にさまざまな表現・実践にチャレンジできること」だと思っています。



私は演劇に一番興味を持っていたので、ワークショップ運営やパフォーマンス研究、インプロ、戯曲研究の授業が特に印象に残っています。中でも受講者全員で演出・プロデュース・役者をシーンごとにローテーションしながら演劇2作品を上演するという授業はかなりハードなものでしたが、作品を複数の視点から捉え、どのようなシーンとして表現したいのか考えて実践に落とし込んでいく、という非常に楽しかった思い出になっています。部活も演劇部に所属し、年間3~4回の公演を行い、役者や制作、衣裳担当など多くの役割に積極的に取り組む演劇漬けの生活でした。一方で、音楽表現の授業や、映像制作、ダンス、アートセラピーなどさまざまな表現や分野に触れ、自分が興味を持ったものは一度挑戦してみよう!というスタンスで積極的に取り組んでいました。

表現教育コースの授業では、演劇や音楽、ダンスに映像、デザインなど多岐にわたる表現ジャンルについて、実践を繰り返しながら学ぶことが出来るのはもちろん、教育という分野とそれらを組み合わせる際にどんなことが出来るのか、表現とコミュニケーションについて、素晴らしい想像/創造力を持った同期や先輩後輩、先生方と共に学びながら経験を積むことのできる大変貴重な機会です。また授業で学ぶことはもちろん、本を読んだり、観劇したりと文化芸術に多く触れる機会を積極的に持つのも重要だと思います。みなさんが自分の興味に従って、さまざまな表現や価値観に触れながら、充実した学びを得られる4年間を楽しめることを願っています。



教育支援専攻

生涯スポーツ



スポーツを自ら実践・指導できるスペシャリストの養成を目指しています

支えよう、健康とスポーツ

本コースでは、運動・スポーツを中心として地域、学校、家庭の連携を実現していただける教育支援のコーディネート力と運動指導力を備えた人材の育成を目指します。

4年間の学び

本コースでは、スポーツが得意でスポーツ教育に興味・関心のある人、健康づくり・子どもの外遊び・スポーツの支援活動に関心をもつ人、さらには地域、学校、家庭の連携を実現していただけるような教育支援のコーディネート力と運動指導力を備えた人の育成をめざします。1年・2年次には教育支援、生涯スポーツ、スポーツ科学、健康科学、運動・スポーツ指導などについて基礎理論を広く学びます。2年・3年次では演習や実習形式の授業が徐々に多くなり、実験や指導の実践を通して実用的な知識や技能を習得できます。3年次からは自分が所属した研究室の活動や指導教員との関わりの中で専門的な知識や技能を習得できます。4年次には研究室の教員の指導の下で科学的な卒業研究の執筆と実践の双方より包括的に学ぶことが可能です。さらに、所定の科目を履修することで、卒業時に多様なスポーツ指導者関連の資格（健康運動指導士、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会指導者資格など）を取得できたり、取得が有利になったりします。

先輩からのメッセージ

私はE類生涯スポーツコースを卒業後、修士課程（教育協働研究プログラム）を経て、現在は公益財団法人日本スポーツ協会で「総合型地域スポーツクラブ」を支援する業務に携わっています。総合型地域スポーツクラブは学校部活動を地域で支える重要な役割を担っており、まさに教育を外側から支える仕事に関われていることに、日々やりがいを感じながら働いています。

高校時代から、将来は「教育」と「スポーツ」に関わっていききたいという思いがあり、その学びを深められるE類生涯スポーツコースを選びました。大学では、スポーツ実践に必要な身体の構造や機能、またスポーツ史や地域とスポーツの関わりなど、多角的にスポーツを捉える授業を受けることができました。また、教育支援課程の他コースと共通の課題に取り組むこともあり、異なる分野を学ぶ学生との学びを通じて、教育の中でスポーツが持つ価値を新しい視点から考えること

ができたのもいい経験となりました。こうした経験があったことで、卒業後は日本のスポーツ振興に関わる仕事がしたいと強く思うようになり、就職してからも生涯スポーツコースで学んだことが随所に活かされていると感じています。さらに、私自身も陸上競技部で日々練習に励んでいましたが、生涯スポーツコースには様々なスポーツに熱意をもって取り組む学生が全国から集まっており、日々刺激を受けていました。教育とスポーツについて専門的に学びながら、自身のスポーツ活動にも力を注ぎたいという方にとって、生涯スポーツコースはぴったりの環境だと思います。学芸大学を目指す皆さんが、充実した学生生活を送られることを心から願っています。（窪田章吾 2018年度卒業生）



教室での授業でも活発な議論によって実践的に学びを深めます

特色ある科目

スポーツ産業論、体育・スポーツ経営学、発育発達学、スポーツリハビリテーション、生涯スポーツとキャリア形成、生涯スポーツ研究法A・B、スポーツ社会学、スポーツ政策学、運動疫学、スポーツアントレプレナーシップ論

めざす仕事

- ・学校の運動部活動を学外から支援したり、運動会などをサポートしたりする仕事
- ・体育授業に適應できない身体条件・運動能力の児童や、体育指導が得意でない教員を支援する仕事
- ・地域における健康問題やスポーツの活性化を支援する仕事
- ・ナショナルレベルのスポーツ振興について企画・運営する仕事
- ・野外教育施設でレクリエーションスポーツ、キャンプなどの指導に携わる仕事
(スポーツ指導員、スポーツ関連団体・企業職員、学校体育支援NPO職員、スポーツ行政等従事者、自然の家職員など)



人体の持久力を測り、科学的に分析する授業も用意されています

東京都障害者スポーツ協会

野崎信吾 さん (2018年度卒業生)

私は、現在、東京都障害者スポーツ協会に所属しており、障害のある人が「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめるような生涯スポーツの実現に向けて、日々業務に励んでいます。



障害のある人へスポーツの支援や指導をおこなうにあたり、教育に関する学びだけでなく、生涯スポーツに関連する学び（ニュースポーツ実習、地域スポーツ支援演習）を深めたことは、現在に活かされていると実感しています。

また、大学生活を通して、スポーツを「する、見る、支える」など様々な角度から捉える力が身につき、私の中でスポーツの可能性が大きく広がりました。

皆さんも、きっかけは何であっても、この大学でスポーツについて学ぶことは、今後の自分に大きくプラスになると思います。

私はこれからも、どんな形であれ、引き続き生涯スポーツ社会の実現に貢献していきたいです。

株式会社 大修館書店 保健体育スポーツ事業部

久保田真帆 さん (2023年度卒業生)

私は現在、教科書や副教材を刊行している出版社で編集者として勤務しています。一般書籍を担当することもあります。主に担当しているのは小・中学校の保健体育の教科書と高校の保健体育の実技副教材です。編集者という難しく聞こえるかもしれませんが、書籍の企画を立案したり、著者の先生方と打ち合わせをしながら内容をすり合わせたり、先生方から届く原稿の校正をしたり、デザインを決めたりと、計画通りに書籍が刊行できるように“ディレクター”のような役割を担っています。自分が携わった教材や書籍が形となって、みなさんの手にわたっているところを見ると、とても嬉しいです。やりがいを感じます。子どもたちにとって、保健体育での学びがより身近で重要なものだと思ってもらえるよう、また保健体育をより好きになってもらえるような教材を目指して、日々業務に励んでいます。



大学生活を通して「教育支援」について学び、“教員”とはまた違う外側の視点から「教育」や「スポーツ」に携わり、子どもたちの学びをサポートしたいと感じたことが、この仕事に興味を抱いたきっかけでした。生涯スポーツコースで、自分自身がスポーツに取り組んだり、身体の動きや健康の仕組みについて知ったり、実際にその学びを生かす効果的な指導法を学んだり、地域とスポーツの関わりへの理解を深めたりすることで、スポーツを「する、みる、支える、知る」といった多様な楽しみ方を仲間と共有することができました。今の仕事は、直接的に子どもたちにスポーツ指導をするわけではありませんが、大学時代に学んだスポーツの多様な楽しみ方や可能性を、教材を通して子どもたちに伝えることができる点で、教材づくりの中で生かされていると実感しています。

このコースには、各競技のトップレベルで活躍しながらも、「教育」について熱い気持ちをもった学生が多くいます。みんな考え方はそれぞれですが、競技のことやベースにある「教育」への気持ちを共有することは、とても刺激になります。大学4年間を通して、勉学にも競技にも全力で取り組めたことは私の財産です。このコースの魅力だと思います。

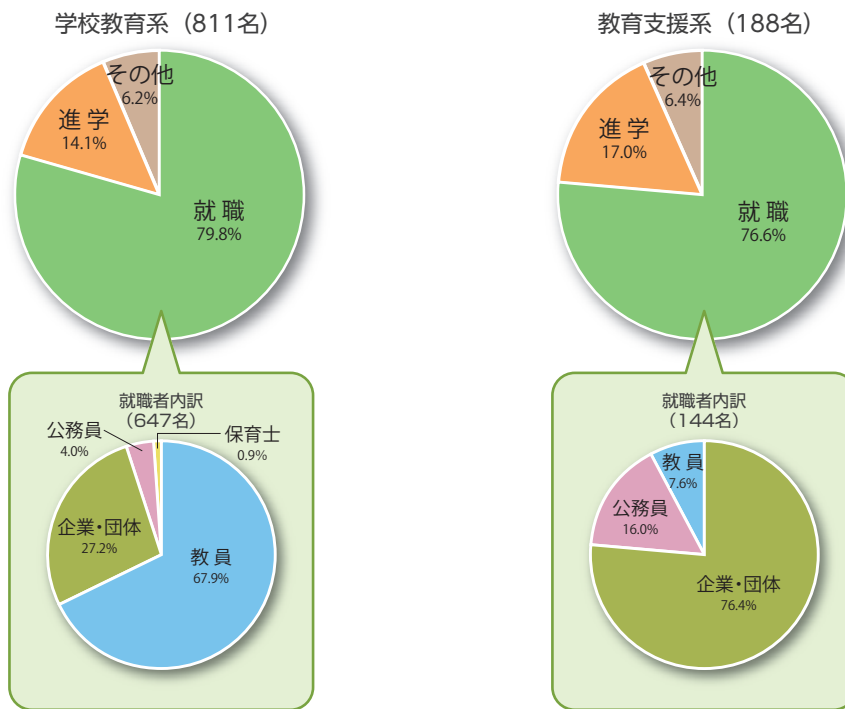
ぜひみなさんも、この大学で充実・成長の4年間を送っていただきたいです。

卒業後の進路

※ 2025年3月卒業生のデータです。

東京学芸大学の卒業生の多くは、学校の教員になっています。小学校教員が多いのですが、それ以外にも中学校・高等学校・特別支援学校などの教員となって全国各地で活躍しています。さらに専門性や実践力を高めてから教員になりたいと、大学院に進学する人もいます。

また、教員のほか、大学で学んだ専門性を活かして、学芸員や司書、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、企業、団体職員や公務員などの広く教育を支援する仕事についています。



◎ 2025年3月卒業生就職・進学状況【2025年9月30日現在】

※留学生及び前年9月卒業生は除く

学校教育系

初等教育教員養成課程 (A類)

専攻	進路先	教員 (非常勤含む)						保育士	公務員	企業・団体	進学	その他	計
		幼稚園	小学校・義務教育学校	中学校・中等教育学校	高等学校	特別支援学校	日本人学校						
国語		0	40	3	5	0	0	0	3	17	4	2	74
社会		0	30	7	4	1	1	0	1	15	5	1	65
数学		0	20	18	10	0	0	0	0	3	5	2	58
理科		0	28	7	5	0	0	0	6	20	13	3	82
音楽		1	10	1	0	0	0	0	0	5	3	4	24

進路先 専攻	教員（非常勤含む）						保育士	公務員	企業 団体	進学	その他	計
	幼稚園	小学校・義務 教育学校	中学校・中 等教育学校	高等学校	特別支援 学校	日本人学校						
美術	0	4	3	0	0	0	0	0	9	4	4	24
保健体育	0	21	3	1	0	0	0	1	16	3	1	46
家庭	0	3	0	1	0	0	0	1	7	2	0	14
英語	0	7	0	0	0	0	0	0	0	3	2	12
学校教育	0	9	0	0	0	0	0	1	3	3	0	16
学校心理	0	8	0	0	1	0	0	2	7	1	3	22
国際教育	0	4	0	0	0	4	0	2	3	3	1	17
情報教育	0	6	2	1	0	0	0	1	7	4	2	23
環境教育	0	4	2	3	0	0	0	1	10	2	1	23
ものづくり技術	0	4	1	0	0	0	0	0	2	3	1	11
幼児教育	9	0	0	0	0	0	6	1	5	1	0	22
計	10	198	47	30	2	5	6	20	129	59	27	533

中等教育教員養成課程（B類）

進路先 専攻	教員（非常勤含む）						保育士	公務員	企業 団体	進学	その他	計
	幼稚園	小学校・義務 教育学校	中学校・中 等教育学校	高等学校	特別支援 学校	日本人学校						
国語	0	0	3	8	0	0	0	0	3	4	4	22
社会	0	3	5	7	0	0	0	2	2	2	0	21
数学	0	0	4	6	0	0	0	0	9	4	1	24
理科	0	2	5	9	0	0	0	0	5	12	3	36
音楽	0	3	9	0	0	0	0	0	3	3	4	22
美術	0	2	4	4	0	0	0	0	2	4	5	21
保健体育	0	2	5	1	0	0	0	0	7	5	1	21
家庭	0	2	3	2	0	0	0	0	4	1	0	12
技術	0	0	3	0	0	0	0	0	2	1	0	6
英語	0	1	8	2	0	0	0	0	2	4	2	19
書道	0	2	1	6	0	0	0	3	4	3	1	20
計	0	17	50	45	0	0	0	5	43	43	21	224

特別支援教育教員養成課程（C類）

進路先 専攻	教員（非常勤含む）						保育士	公務員	企業 団体	進学	その他	計
	幼稚園	小学校・義務 教育学校	中学校・中 等教育学校	高等学校	特別支援 学校	日本人学校						
聴覚障害教育	0	8	0	0	21	0	0	1	1	10	1	42
言語障害教育												
発達障害教育												
学習障害教育												
計	0	8	0	0	21	0	0	1	1	10	1	42

養護教育教員養成課程（D類）

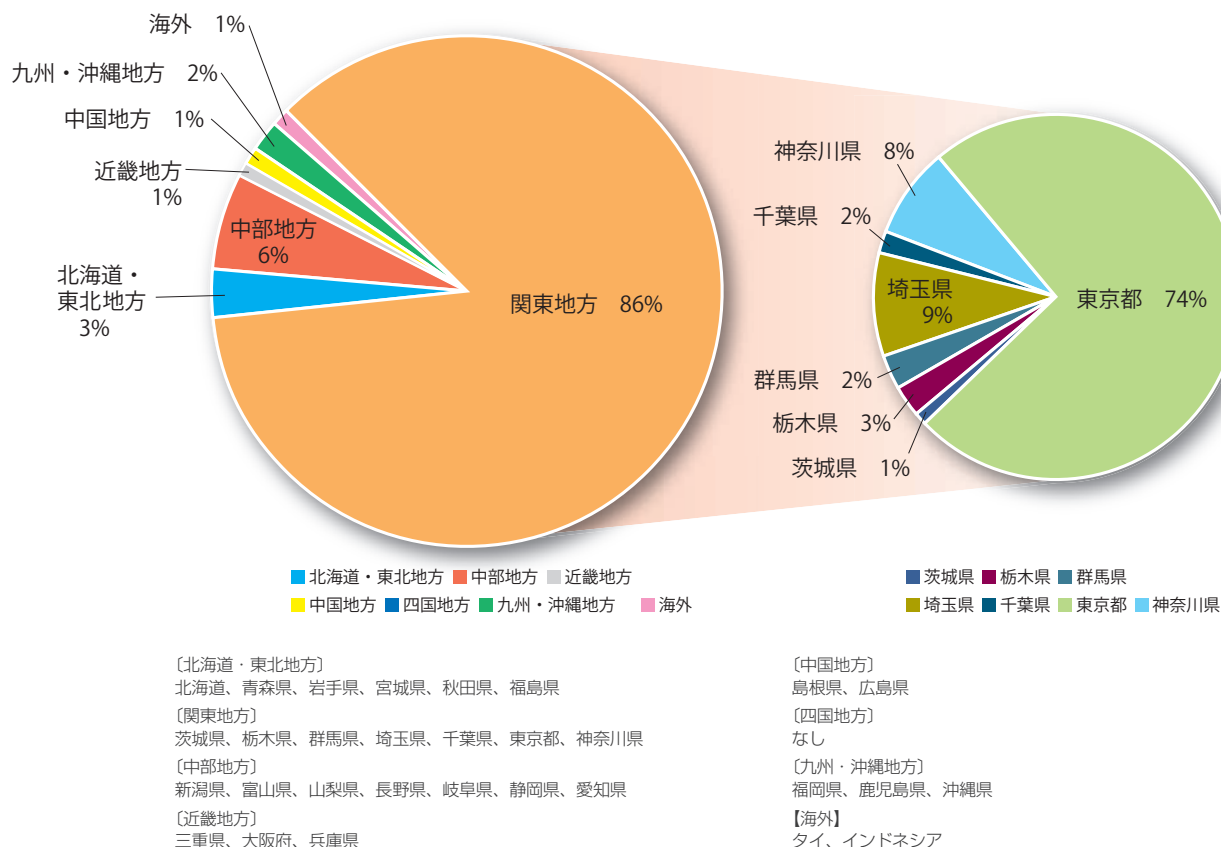
進路先 専攻	教員（非常勤含む）						保育士	公務員	企業 団体	進学	その他	計
	幼稚園	小学校・義務 教育学校	中学校・中 等教育学校	高等学校	特別支援 学校	日本人学校						
養護教育	0	4	2	0	0	0	0	0	3	2	1	12
計	0	4	2	0	0	0	0	0	3	2	1	12

教育支援系

教育支援課程 (E類)

専攻	進路先	教員	公務員	企業・団体	進学	その他	計
生涯学習		0	11	22	2	3	38
カウンセリング		0	1	3	15	0	19
ソーシャルワーク		0	8	13	0	0	21
多文化共生教育		8	2	27	3	2	42
情報教育		0	0	6	7	1	14
表現教育		0	1	16	1	3	21
生涯スポーツ		3	0	23	4	3	33
計		11	23	110	32	12	188

◎ 地域別教員就職状況 (2025年3月卒業生 学校教育系)



◎ 大学院進学状況【2025年3月卒業生】

東京学芸大学、東北大学、宮城教育大学、筑波大学、埼玉大学、千葉大学、東京大学、東京科学大学、
 東京芸術大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、大阪大学、東京都立大学、早稲田大学、上智大学、
 青山学院大学、国立音楽大学、洗足学園音楽大学

◎ 教員以外の主な就職先 【2025年3月卒業生】

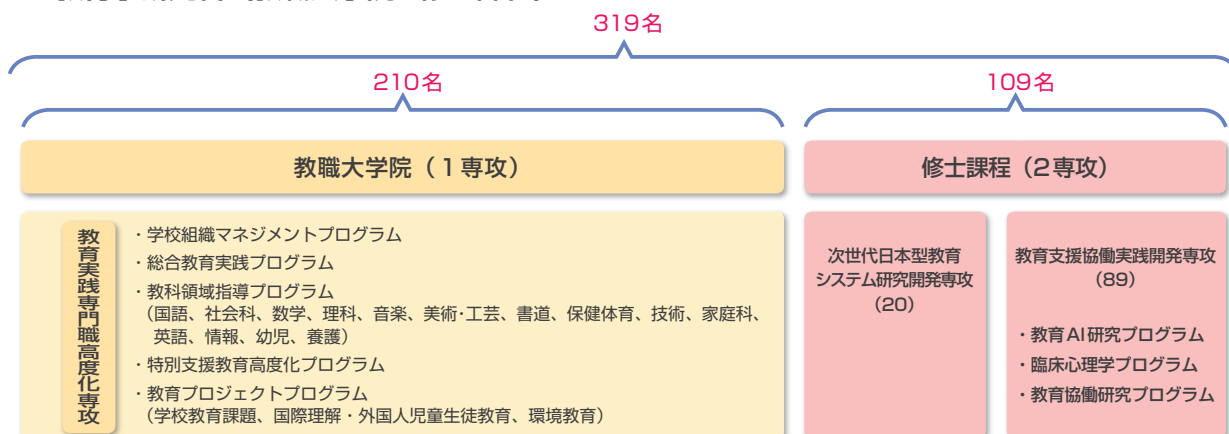
業種	企業名等
教育・学習支援業	株式会社ベネッセコーポレーション、株式会社 LITALICO、国立大学法人東京大学、国立大学法人北海道大学、株式会社ナガセ、株式会社河合塾 マナビス、株式会社学究社、株式会社公文教育研究会、株式会社公文エルアイエル、株式会社四谷大塚、株式会社推進塾、株式会社仙台進学プラザ、株式会社創英コーポレーション、明光義塾、株式会社早稲田アカデミー、株式会社早稲田学習研究会、株式会社日本入試センター、ヒューマンアカデミー株式会社、株式会社さなる、高井戸児童館、拜島第一学童クラブ 他
官公庁	総務省、法務省、厚生労働省、国土交通省、気象庁、栃木労働局、山形地方検察庁、北海道庁、福島県庁、茨城県庁、群馬県庁、埼玉県庁、東京都庁、神奈川県庁、広島県庁、東京都福祉局、いわき市役所、宇都宮市役所、厚木市役所、杉並区役所、中野区役所、三鷹市役所、小平市役所、日野市役所、八王子市役所、朝霞市役所、藤沢市役所、浜松市役所 他
医療・福祉	済生会熊本病院、国立障害者リハビリテーションセンター、株式会社こどもの森、株式会社このこのリーフ、株式会社ニチイホールディングス、株式会社ベネッセスタイルケア、社会福祉法人東京都社会福祉事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人双葉の園、社会福祉法人六踏園調布学園・第二調布学園 他
情報通信	株式会社集英社、明治図書出版株式会社、実教出版株式会社、株式会社全音楽譜出版社カワイ出版部、株式会社第一法規、株式会社日本経済広告社、株式会社博報堂プロダクツ、東京スポーツ新聞社、株式会社大塚商会、Sky 株式会社、NTT コムウェア株式会社、株式会社 NTT ドコモ、株式会社モバイルコミュニケーションズ、株式会社ニッポン放送、株式会社サイバーエージェント、一般財団法人日本気象協会、UUUM 株式会社、日本情報通信株式会社、日鉄ソリューションズ株式会社、株式会社東京サウンド・プロダクション、株式会社ぐるなび、株式会社日本ビジネス開発、株式会社オービック、株式会社ランドコンピュータ、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社 他
学術研究・専門・技術サービス業	独立行政法人国際協力機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
製造業	山崎製パン株式会社、JFE スチール株式会社、住友電気工業株式会社、新日本電工株式会社、日本ファイリング株式会社、PCI ソリューションズ株式会社、株式会社キーエンス、山一電機株式会社、株式会社マウスコンピューター、富士電機株式会社、スズキ株式会社、株式会社アイシン、株式会社オカムラ 他
金融業・保険業	日本銀行、株式会社北洋銀行、株式会社 SBI 新生銀行、株式会社横浜銀行、三菱 UFJ 信託銀行株式会社、大和証券株式会社、SBI ホールディングス、ピーエムジー株式会社、マネックス証券株式会社、アフラック生命保険株式会社、日本生命保険相互会社 他
建設業	住友林業株式会社、株式会社空ディメンジョンズ 他
運輸・郵便業	日本航空株式会社、全日空商事株式会社、ANA エアポートサービス株式会社、Platinum heritage、株式会社ニチレイロジグループ本社、首都高速道路株式会社、日本貨物鉄道株式会社 他
卸売業・小売業	株式会社内田洋行、JFE 商事株式会社、伊藤忠ケミカルフロンティア株式会社、稲畑産業株式会社、岡谷鋼機株式会社、日本事務器株式会社、富士器業株式会社、イオンリテール株式会社、川田屋株式会社、ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社、株式会社ビームス、株式会社ベイクルーズ、株式会社ルミネ、株式会社大丸松坂屋百貨店、株式会社大創産業 他
生活関連サービス業・娯楽業	NPO 劇場創造ネットワーク、エイベックス・エンタテインメント株式会社、四季株式会社（劇団四季）、株式会社メッセ・ゴー、つくばユナイテッド SubGAIA、株式会社アニメイト、株式会社コスモエージェンシー、公益財団法人日本スポーツ協会、阪急交通社 他
その他のサービス業	株式会社マイナビ、アクセンチュア株式会社、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、近畿日本ツーリスト株式会社、有限会社カイカイキキ 他

もっと学びたい人は

大学を卒業した後にもっと勉強したいという人には二つの道があります。一つは大学院、もう一つは特別専攻科です。

東京学芸大学大学院の教育学研究科には、教職大学院（専門職学位課程）と修士課程があります。更に学びたい人は、連合学校教育学研究科（博士課程）に進学することもできます。

◎ 教育学研究科（教職大学院・修士課程）



大学院は、2019年度から大きく変わりました。教職大学院（教育実践専門職高度化専攻）は、210名に定員を大幅に増やして、5プログラムで構成されます。特に、教科領域、特別支援教育、教育課題に対応したプログラムを充実させ、学校教育に関するほぼすべての領域をカバーする我が国最大規模の先端型・総合型教職大学院になりました。

修士課程は、次世代日本型教育システム研究開発専攻、教育支援協働実践開発専攻の2専攻に改組しました。教育支援協働実践開発専攻は、三つのプログラム（教育AI研究プログラム、臨床心理学プログラム、教育協働研究プログラム）で構成されます。

大学院（教職大学院・修士課程）Web サイト

<https://www.u-gakugei.ac.jp/graduate/>

◎ 「教員養成高度化プロジェクト」について

本学では、教職への高い意欲と適性を持った学生が、教職大学院への接続プログラムを受講することにより、教員養成の高度化のための事前教育を進め、教職大学院への効果的な接続を図ることを目的とした「教員養成高度化プロジェクト」を実施しています。学校教育教員養成課程の学生がこのプロジェクトに参加したうえで、所定の条件を満たした場合は、教職大学院の入学選抜における「特別選抜」に出願することが可能となります。

◎ 連合学校教育学研究科（博士課程）



学校教育学専攻								
教育	教育	発	言	社	自	芸	健	生
構	方	達	語	会	然	術	康	活
造	法	支	文	系	系	系	・	・
論	論	援	化	教	教	教	ス	技
講	講	講	系	育	育	育	ポ	術
座	座	座	教	講	講	講	ー	系
			育	座	座	座	ツ	教
			講				ス	育
			座				系	講
							教	座
							育	
							講	
							座	

本研究科は、東京学芸大学・埼玉大学・千葉大学・横浜国立大学の4大学による連合大学院であり、東京学芸大学に設置している博士後期課程（3年間）のみの独立研究科です。「広域科学としての教科教育学」の専門研究者を養成することに加えて、教員養成系大学における教科専門諸科学や教育諸科学の実践的研究者の養成を目的としています。

◎ 特別支援教育特別専攻科（特別専攻科）

特別専攻科は、大学を卒業した後に特別支援教育を1年間で学ぶコースです。

特別支援について多様な知識を身につけた教員になることを目指します。

入学時にすでに取得している教員免許状の種類により、特別支援学校教諭一種免許状もしくは専修免許状を取得することができます。

教職大学院生へのインタビュー

Q1 なぜ、教職大学院に進学しようと思ったのですか？

学部とは異なる環境で学びたいと思ったからです。私は本学のA類数学選修出身です。当時は、算数・数学の専門性を高めようとする友人らと共に学び、算数・数学教育について理解を深めました。そのまま、算数教育への理解を活かして小学校教員になろうと思っていたのですが、心のどこかで「自分とは異なる専門性を持つ人と学んでみたい」とも思っていました。総合教育実践プログラム(総プロ)について知ったのはちょうどその頃です。私の在籍する総プロでは、教科の専門性や主免許の校種の異なる学卒院生、現職院生が多くいます。そうした人達と共に学ぶことで、学部の時とは違う学びができるのではないかと思います。教職大学院に進学しました。

Q2 教職大学院ではどのような勉強をしていますか？そして、教職大学院の魅力は？

障害のある子どもが通常の学級でも学ぶことができる体制の実現を目指して、研究をしています。実習校での体験をもとに研究をしているのですが、この実習は教職大学院の魅力の一つだと思います。学部の実習との大きな違いは自由度です。教職大学院の実習で、私は2日おきに入る学級を変える形式を取らせていただきました。小学校1年生～6年生までの全学級の児童と関わったことで、発達段階の違いを具体的に捉えることができました。また、先生方の研修や職員会議にも参加させていただきました。授業以外の教員の仕事について理解を深めることができたと思います。

Q3 将来の進路は？

現段階では公立の小学校教員を志望しています。学部で得た算数教育への理解と、教職大学院で学んでいる特別支援をはじめとした様々な理論、どちらも活かしていきたいです。

Q4 高校生へのメッセージ

教職大学院は、教科の専門性に依らない教員の本質、いわば教員の専門性に迫ることの出来る場所だと私は思います。学部で教科の専門性を高め、教職大学院で教員としての専門性を高める、そのような学び方はいかがでしょうか。ぜひ教職大学院への進学を検討してみてください！



教育実践専門職高度化専攻
総合教育実践プログラム

小幡 眞さん

修士課程の院生へのインタビュー

Q1 なぜ、大学院に進学しようと思ったのですか？

大学院進学を考えた当時、将来は専門性を持った生物の高校教師として、生徒に探究する面白さを伝えたいと考えていました。そのため、学部3年生から取り組んできた遺伝子組み換え植物の研究をさらに深く多角的に追究することで、研究能力や専門性を身に付けたいと思うようになりました。そして、教員養成に強みを持つ本学で、研究と教育の両面から専門性を磨きながら指導力を高めたいと考え、大学院進学を決意しました。

Q2 大学院ではどのような勉強をしていますか？そして、大学院の魅力は？

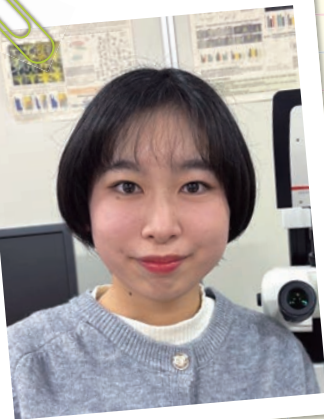
個人としては、植物生理学、植物形態学、分子生物学の3つの視点を中心に遺伝子組み換え植物の研究に取り組んでいます。「フィールド研究」では、学外の現場で自分の研究テーマに取り組むことで、実践的な学びを深めることができます。また、本専攻の学生の専門領域は、生物学や教育史、日本語教育など多岐にわたります。異なる関心を持つ同期と互いの研究や教育について意見交換できる環境は、新たな視点や考え方を学べる点で魅力的だと感じています。

Q3 将来の進路は？

教科書会社で教材制作に携わりたいと考えています。学んだ知識や研究経験を生かして、分かりやすく、学ぶ楽しさを感じられる教材づくりに貢献したいです。児童や生徒に自然科学の面白さを届け、新しい世界を探究するきっかけを作りたいです。

Q4 高校生へのメッセージ

本学は、研究と教育の両方をじっくり学べる環境が整っています。自分の「好き」や「疑問」を深めながら、新しいアイデアを試したり多様な専門を持つ仲間と意見交換したりして、自分ならではの学びを広げられます。皆さんが自分の興味を大切に、未来につながる一歩を踏み出すことを応援しています！



教育学研究科次世代日本型教育システム研究開発専攻

黒川 千智さん

取得可能な免許・資格

学校教育教員養成課程の学生は、教員免許取得に必要な要件を満たすことが卒業要件となっています。指定されている教員免許の他に各コースで取得可能な教員免許もあります。また、教員免許のほかにも受験資格が得られるものや、取得できる資格があります。

A 初等教育専攻

国語コース
 社会コース
 数学コース
 理科コース
 音楽コース
 美術コース
 保健体育コース
 家庭コース
 英語コース
 現代教育実践コース
 学校教育プログラム
 学校心理プログラム
 国際教育プログラム
 環境教育プログラム
 ものづくり技術コース

小学校教諭一種免許状

幼児教育コース

幼稚園教諭一種免許状

B 中等教育専攻

国語コース	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
社会コース	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史又は公民）
数学コース	中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（数学）
理科コース	中学校教諭一種免許状（理科） 高等学校教諭一種免許状（理科）
音楽コース	中学校教諭一種免許状（音楽） 高等学校教諭一種免許状（音楽）
美術コース	中学校教諭一種免許状（美術） 高等学校教諭一種免許状（美術）
保健体育コース	中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
家庭コース	中学校教諭一種免許状（家庭） 高等学校教諭一種免許状（家庭）
技術コース	中学校教諭一種免許状（技術） 高等学校教諭一種免許状（工業）
英語コース	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
書道コース	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（書道）
情報コース	中学校教諭一種免許状（数学） 高等学校教諭一種免許状（情報）

C 特別支援教育専攻

特別支援学校教諭一種免許状
 （聴覚障害者）（知的障害者）（肢体不自由者）（病弱者）の4領域
 小学校教諭一種免許状

D 養護教育専攻

養護教諭一種免許状

◎ 取得可能な教育職員免許状



初等教育専攻・中等教育専攻・特別支援教育専攻の学生は、卒業要件として指定されている教育職員免許状の他に、必要な単位を積み上げることにより、下記の免許の取得をめざすこともできます。
ただし、一学年につき履修できる授業数には限りがありますので、全ての免許が取得できるわけではありません。

幼稚園教諭一種免許状	
小学校教諭一種免許状	
中学校教諭一種免許状	国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・保健・家庭・技術・英語
高等学校教諭一種免許状	国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・工芸・保健体育・保健・家庭・工業・英語・書道・情報
特別支援学校教諭一種免許状	(聴覚障害者)(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)の4領域

養護教育専攻の学生は、卒業要件として指定されている教育職員免許状の他に、必要な単位を積み上げることにより、下記の免許の取得をめざすこともできます。

中学校教諭一種免許状	保健	高等学校教諭一種免許状	保健
------------	----	-------------	----

◎ 取得可能な資格



○学校教育教員養成課程、教育支援課程とも所定科目の単位を修得することで以下の資格の取得が可能です。

- ▶司書(13科目)
- ▶司書教諭(5科目、ただし基礎となる教育職員免許状(小・中・高)のいずれかが必要)
- ▶学校司書(14科目)
- ▶学芸員(11科目)
- ▶社会教育主事・社会教育士(13科目)
- ▶スポーツ指導者関連資格(所属コースにより必要な科目数は異なる)
 - 公認スポーツプログラマー
 - 公認ジュニアスポーツ指導員
 - 公認水泳コーチ1
 - 公認水泳コーチ3
 - アシスタントマネジャー
- ▶登録日本語教員(13科目、単位修得により国家試験のうち基礎試験免除)

○特定のコースに所属する学生のみ、取得可能な資格は以下のとおりです。

- ▶保育士：幼児教育コースのみ対象。
- ▶社会福祉士：ソーシャルワークコースのみ対象。国家試験受験資格。
- ▶スクール(学校)ソーシャルワーカー：ソーシャルワークコースのみ対象。ただし社会福祉士の資格取得が必要。
- ▶健康運動指導士・健康運動実践指導者：生涯スポーツコースのみ対象。ただし、外部試験での合格が必要。

○特定のコースに所属する学生のみ、卒業後に取得をめざすことができる資格は以下のとおりです。

- ▶公認心理師：カウンセリングコースのみ対象。国家試験受験資格(受験資格を得るためには、学部在学中に指定の30科目を修得し卒業した後、大学院における要件科目の修了、もしくは法令等で定められた施設での実務経験が必要)。

※教育職員免許状・資格ともに各コースの時間割との関係で、取得困難になる場合もあります。



国際交流と留学

東京学芸大学は、21の国・地域の68大学と交流協定を結び、学術交流や学生交流をしています。大学には、学生交流協定校をはじめとした各国から外国人留学生が来ており、授業、サークル等において、学生交流が盛んに行われています。

また、本学からは毎年世界各地の協定校へ学生が交換留学をしています。交換留学制度を利用すると、留学先での授業料等を支払う必要がないほか（留学期間中、本学に授業料を払う必要があります。）、修得した単位を本学の単位として申請することができます。このほか、夏休み、春休みを利用して、協定校が実施しているサマープログラムや本学が企画する協定校での短期研修プログラムに参加することができます。

●海外留学制度

	交換留学	認定留学	休学して海外渡航する場合
派遣先	交流協定校	非交流協定校	非交流協定校等
本学の在学期間	留学期間も在学期間にも含まれ、最短年限での卒業（修了）ができる場合もあります。ただし学校教育系については、教育実習等の関係で4年間での卒業が困難な場合があります。教育支援系の学生が教員免許を希望する場合も同様です。		休学期間の分卒業（修了）が延びるので、4年「大学院修士課程・教職大学院の課程は2年、博士課程は3年」では卒業（修了）できません。
留学期間中の本学の授業料	納付する (相手大学には支払わなくてよい)	納付する (相手大学にも支払う)	事前に学務課・大学院課に相談してください。(留学先の学校には支払う)
奨学金	<ul style="list-style-type: none"> JASSOに採択されたプログラムに参加する場合には支給があります(資格・要件を満たした場合)。 学生後援会から留学奨励金の支給があります。 民間奨学金に応募可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生後援会から留学奨励金の支給があります。 民間奨学金に応募可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間奨学金に応募可能です。
留学先での履修科目の単位認定	帰国後、成績証明書等必要書類をそろえて学務課・大学院課に申請し、関係会議で総合判定され、認定を受けることができます。		単位認定の申請はできません。

※休学をする場合は、学務課・大学院課に「休学願」を提出する必要があります。

- 交換留学…留学先大学の入学料・授業料が免除になります。
留学先大学の窓口教員や交換留学生在がいるので情報収集が容易にできます。
入学手続きやトラブルに対して、大学がサポートします。
- 認定留学…留学先は自由に選べますが、手続きは各自で行います。
本学と留学先大学の双方に授業料等を納入します。
特別な事情がある場合は、許可を願い出て留学期間を2年まで延ばせます。
帰国後、単位認定を受けるには、渡航3か月前に認定留学の手続きが必要です。

●毎年実施されている主な語学・文化研修留学プログラム

国名	大学名等	プログラム名	期間	内容
ドイツ	ハイデルベルク大学	サマープログラム	約1か月	初級～上級ドイツ語集中講座
フランス	キャンパス・フランス (フランス政府留学局)	春季・夏季フランス語学研修	約1か月	初級・中級フランス語集中講座。サンティエンヌ大学、グルノーブル大学の附属語学学校で実施
オーストラリア	西シドニー大学	短期海外語学研修 (オーストラリア、シドニー)	3週間	全てホームステイ、附属語学学校での英語でのレポートの書き方、プレゼンテーションの方法等の集中講座

★上記以外にも中国・韓国・香港・台湾・アメリカ等、様々な国・地域のプログラムが多数あります。

トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学 (フランス)

留学期間 2024年9月～2025年6月

E類多文化共生教育コース4年

山崎 由侑

中学・高校と帰国子女が多い環境で過ごす中で、海外で授業を受けてみたいという思いを持っていました。そんな中、大学に入学し、フランス語の授業で、英語とはまた違ったフランス社会や文化に触れたことで、もっと深く知りたいという思いが強くなり、フランスへの留学を決めました。語学の向上だけでなく、現地の人と関わり、フランスの多文化社会について学びたいという目標を胸にフランスへ渡りました。

しかし、授業が始まると、先生の説明の半分も理解できない状況でした。最初は落ち込み、戸惑ってしまった部分もありましたが、生活に慣れていく中で、徐々に留学の目標を思い出し、現地の学生やクラスメイトに自ら働きかけ、分からないところをなくしてきました。拙いフランス語でも臆せず自ら働きかけ、意見や思いを伝えていくことで、交流自体を楽しむことができるようになったと思います。

授業外では、現地の子供たちと関わる日本語補習校でのボランティアや、ゴスペルクワイアの団体



での活動を通して交流を広げました。初めての環境に一人で飛び込むため不安は常でしたが、勇気を出して参加することで、大学では出会えない社会人の方とも関わりを持って、フランスでの生活や仕事など、フランス社会についてのお話を聞くことができたのは貴重な経験でした。ゴスペルのコンサートの日におにぎりを持って行った際には、メンバーが喜んでくれたのも嬉しい思い出です。ほかにも、友人との交流も大切にし、寮の共有キッチンで一緒に料理をしたり、カフェで会話をする中で、フランス語が上達したと友達から言ってもらえた時には、自ら動くことの大切さを実感できました。

様々なルーツを持つ人々が暮らすフランスでは、それぞれが自分の考えや価値観を大切に生きています。その中で、私も他人と比較するのではなく、「自分はどうしたいのか」を考え、自分らしく生活することの大切さに気づきました。同時に、行動することで、自分の世界を広げることや、現地の言葉で会話ができる喜びや楽しさを実感しました。こうした経験が、将来は日本と海外をつなげる活動をしたいという目標につながりました。留学に興味のある方は、ぜひ一歩踏み出してみてください。応援しています。



留学体験記

ソウル大学校師範大学

留学期間2024年8月～2025年7月

A類現代教育実践コース国際教育プログラム

内山 知宥

高校生の頃から、大学に入学したら「必ず留学に挑戦したい」という思いを抱いていました。その後、東京学芸大学に進学し、教員養成に力を入れている大学であることから、「留学先の選択肢はあまり多くないのではないか」と不安を感じていました。しかし、大学の留学案内に目を通してみると、私の想像をはるかに超える数の国や大学が留学先として紹介されており、その瞬間、留学への期待が一気に膨らみました。

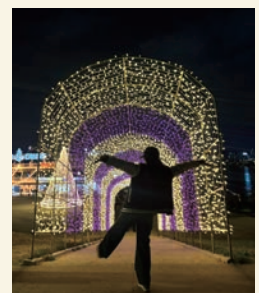
そのような選択肢の中で私が特に惹かれたのが韓国でした。幼い頃から韓国文化が身近にあり、以前から韓国の教育制度や学校現場に強い関心を持っていたからです。そこで、韓国への留学を決意し、その中でも韓国の教育を牽引する存在であるソウル大学で学ぶことを選びました。

ソウル大学での生活は私の人生において、一生忘れることのできない大切な経験になっています。ソウル大学では、私は「留学

生」というマイノリティになり、自分とは違う文化を持つ、様々な国から来た留学生達とかかわることで、自分の価値観の狭さを改めて認識するようになりました。自分が持っている考えが「普通」ではないと、わかっているようでわかっていた私にとって、新しい視点をくれたかけがえない経験です。

ソウル大学では、主に韓国語・歴史・教育に関する授業を受講しました。ソウル大学と東京学芸大学の違いは、ソウル大学は総合大学であり、教育学部以外にも多くの学部が存在しているということです。そのため、専攻ではないものの関心のある分野の授業を聴講することができました。また、教育学部以外の学生と意見を交わす中で、自分にはなかった視点から生まれた考えに触れる機会も多く、学びの幅が大きく広がりました。

もちろん、留学が正解かどうかは行ってみなければ分かりません。だからこそ、悩んでいる人にはぜひ一度挑戦してほしいです。



《海外の大学との短期交流プログラム》

学生の短期派遣及び外国人留学生の受入によるグローバルキャンパス構築とグローバル教育人材育成

— International Student Step Up Program (ISSUP) —

東京学芸大学では、グローバル化する社会や教育現場に対応できる教員の育成を目指し、教員養成大学ならではの短期派遣や外国人留学生の受入プログラムを実施しています。プログラムは学生のニーズにも応じた多様な内容となっています。

《派遣プログラム》

長期休暇中に10日間程度の短期留学プログラムを実施しています。現地の小中学校での授業見学や大学授業への参加及び現地大学生との交流など、グローバル教育人材の育成を目指す内容です。各プログラムのテーマに関連する文化施設なども訪問します。

●これまでの派遣プログラム実施例

- 米国・サンフランシスコ短期留学プログラム（9月下旬～10月下旬）
「ダイバーシティとサイエンスからみるアメリカ～西海岸の最先端の知と教育を探求する～」

日系移民やLGBT民権運動の歴史、科学教育とその実践などについて学びます。

主な訪問先：ローレンスホール（カルフォルニア大学バークレー校科学教育研究所）、カストロ地区、サンフランシスコ・スクール、エンジェルアイランド移民博物館、サンノゼ日系アメリカ人博物館など

- 豪国・メルボルン短期留学プログラム（3月上旬）

「オーストラリアの多文化主義と美術教育～その課題と可能性を考える～」

美術館や博物館でのスタディツアーや大学や大学院の授業への参加、小学校での授業見学などを行います。

主な訪問先：ビクトリア国立美術館、メルボルン博物館、移民博物館、モナシュ大学、メルボルン大学（大学院）など



《受入プログラム》



〈受入プログラムの様子〉

大学間交流協定校の大学生が本学を訪問する際、一緒に授業に参加するだけでなく、様々な協働活動を通してグローバル化時代の社会や文化、教育などを理解するための多面的な視点を身につけます。英語でのディスカッションや課題遂行により、語学力や異文化間コミュニケーション能力も磨きます。

●これまでの受入プログラム実施例

- 学芸フロンティア科目C

2020年度から「日米学生交流プログラム」が「学芸フロンティア科目C」として授業化され単位取得が可能になりました。2025年度は海外の現職教員との交流や東京学芸大学の留学生と協働で英語による交流活動を行いました。

《講演会・ワークショップ》

国内外の大学の教員や研究者、著名な活動をされている方々をゲストに迎えて、講演会やワークショップを実施しています。

●講演会・ワークショップ実施例（2025年度）

- Nurturing the Humanities: Holistic Approaches to Education in Charter Public School (Angelica Vendetti, Rising Tide Public Charter School 教師)
- Education, Parenting, and the Future of Japan (竹村 直記、認定こども園長栄幼稚園 プログラムマネージャー；小池 エバン、東京大学東京カレッジ 特任助教)
- Financial Education for Community Empowerment: Lessons from Banking and Japanese American History (越 和夫、クレディセゾンバンカー、米日カウンシル JASP 講師)
- ロンドン大学東洋アフリカ研究学院－東京学芸大学オンライン交流会 (古川 彰子 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 教授)



CAMPUS Asia キャンパス・アジア・プログラム

CAMPUS Asia (Collective Action for Mobility Program of University Students in Asia) は、国際的に活躍できるグローバルな人材の育成と大学教育のグローバルな展開力の強化を目的に、日本・中国・韓国の大学がコンソーシアムを形成し、日本人学生の海外留学や外国人学生の積極的受入れ等、質保証を伴った学生交流や教育連携プログラムを実施する事業です。日本では文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として行われています。

東京学芸大学は、2016年度からの第2モードにおいて日本の教員養成系大学として唯一採択され、2020年度まで、北京師範大学（中国）・ソウル教育大学校（韓国）と共に「東アジア教員養成国際大学院プログラム」を実施してきました。

文部科学省の事業としての活動は終了しましたが、東南アジアへの拡大を視野に広く東アジア・東南アジアの大学と連携して、引き続きプログラムを運営していきます。

《主なプログラム実施内容》

● 交換留学の実施

【派遣】春学期、秋学期それぞれ、北京師範大学とソウル教育大学校を始めとする東アジア・東南アジアの協定校に本学学生を半年～1年間派遣しています。派遣された学生は、自身の専門を深めつつ、各国の教育・文化を学び、語学力の向上を目指します。

【受入れ】北京師範大学、ソウル教育大学校を含むアジア圏の大学の学生が本学に留学プログラムに参加しています。本学学生も留学経験者を中心に「キャンパス・アジア・アソシエイト」として、日本の教育や文化について学びあい、プログラムに参加し交流を図ります。

● 短期語学・文化研修プログラム

【派遣】夏季の長期休暇期間中に、短期（2～3週間程度）の中国・韓国への派遣プログラムを実施しています。語学の集中トレーニングのほか、各国の歴史や文化、学校教育について体験的に学べる機会となっています。この短期留学をステップに、長期留学に挑戦する学生もたくさんいます。

《留学に向けた各種活動》

● 学芸フロンティア科目 B 「留学のすすめ」

社会で幅広く活躍し、実績・経験豊かなゲスト・スピーカーが講義する「学芸フロンティア科目」の一つとして、2017年春学期から開設されています。本学海外協定校への留学の魅力やその実態を、海外の大学教員や留学経験者が具体的に紹介します。

● 言語ラボ

中国・韓国への留学希望者や派遣決定者を対象に、留学先での学修や生活に必要な語学力の習得を目的として、中国語・韓国語の「言語ラボ」を実施しています。それぞれの言語の担当教員が、学生のニーズに合わせた実践的な指導を行います。

● ダブルディグリー・プログラム **大学院教育学研究科**

本学は、北京師範大学（修士課程）およびソウル教育大学校教育専門大学院と「ダブルディグリー・プログラム」を実施しています。このプログラムに参加する学生は、北京師範大学またはソウル教育大学校に一定の期間留学し、本学および派遣先大学の修了要件を満たした際に、それぞれの大学から修士（教育学）、教職修士（専門職）の学位を取得することができます。



〈短期プログラム in 北京〉



〈短期留学プログラム in ソウル〉



学生キャリア支援室

学生キャリア支援室では、学生の皆さんが有意義で生き生きとした学生生活を送り、将来のキャリアをデザインできるよう、日常的なサポートを行っています。



進路相談

◎キャリア支援課窓口

キャリア支援の各種講座、ガイダンス、教員採用試験、企業・公務員就職活動等について分からないことがありましたら、キャリア支援課窓口にご相談ください。あなたの進路にあったご案内をさせていただきます。

◎指導教員

日頃、皆さんの相談相手として一番身近な存在は誰でしょうか。大学においては所属教室の指導教員がその役割を担います。

指導教員は一般的な就職情報のみならず、皆さんの人となりをよく理解した上での相談相手として、また専門の学問領域に関連した相談に対処できる存在でもあります。指導教員との意思疎通をよくしておくことが大切です。

◎専門の相談員

皆さんの進路、就職に関する悩み事について専門の相談員が相談に乗ります。教員就職、教育支援職（企業・公務員）就職にそれぞれ経験の深い先生方が対応にあたります。3年生からの就活本番における相談が多いですが1、2年生のうちから進路相談で来られる方もいます。（予約制です）

教員志望者対象のキャリア支援行事

教員を志望する方には、「教員の魅力」を知るための各種ガイダンス等、次のような指導・講座を実施しています。

◎教師力養成特別講座（万ゼミ）（3年生：10月～翌4月）

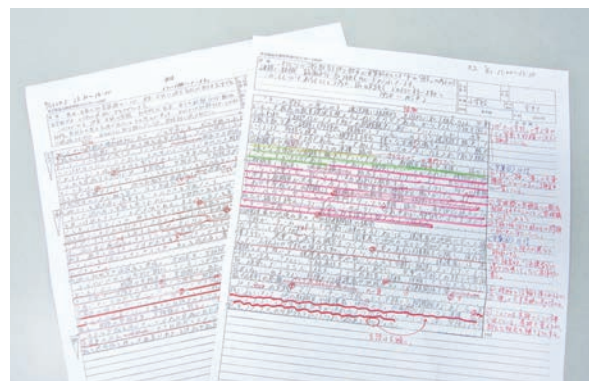
教師力養成特別講座（通称：万ゼミ）は、教職経験豊かな本学卒業生（公立学校長、教育委員会指導主事経験者等）が講師となって、論文添削や面接指導等、教員採用試験対策のための指導を行っています。

◎2年生向け教採対策講座（2年生：11月～4月）

3年次に教員採用試験が受験可能となったことを受け、早い時期から教員採用試験対策を始めることを支援するために、2年生向けに開講されている講座です。

◎直前対策講座（当該年度教採受験者：5月～8月）

教員採用試験に向けて、論文添削・個人面接・場面指導・模擬授業など、練習したい試験内容のみを選択し、指導が受けられる講座です。



教員就職担当相談員により添削された論文



2年生向け教採対策講座における講義

◎教採1次対策学内模試の受験料補助（2年及び3年：2月）

教員採用試験の1次試験対策として、学内でやっている模擬試験を行っています。また、対象学年の学生に対して大学が受験料を一部補助しています。

◎教員採用試験説明会（11月～翌5月）

全国の教育委員会の採用担当者による教員採用試験についての説明会を開催します。学芸大生のためだけにお話しいただきますので、学年問わず参加できます。

◎教員採用試験への大学推薦（12月～5月）

学業成績及び人物が特に優秀で教職に就く意志が強固な学生を、公立学校教員採用試験の大学推薦制度に推薦します。

◎教育委員会が主催する教員養成事業（教師養成塾）関係（埼玉、千葉、神奈川）

教育委員会が主催する教員養成事業（教師養成塾）等に、希望する学生の募集・推薦をしています。

◎学習のためのコンテンツ（随時）

学生キャリア支援室のホームページでは、本学の学生向けに教員採用試験対策のための学習コンテンツを公開しています。

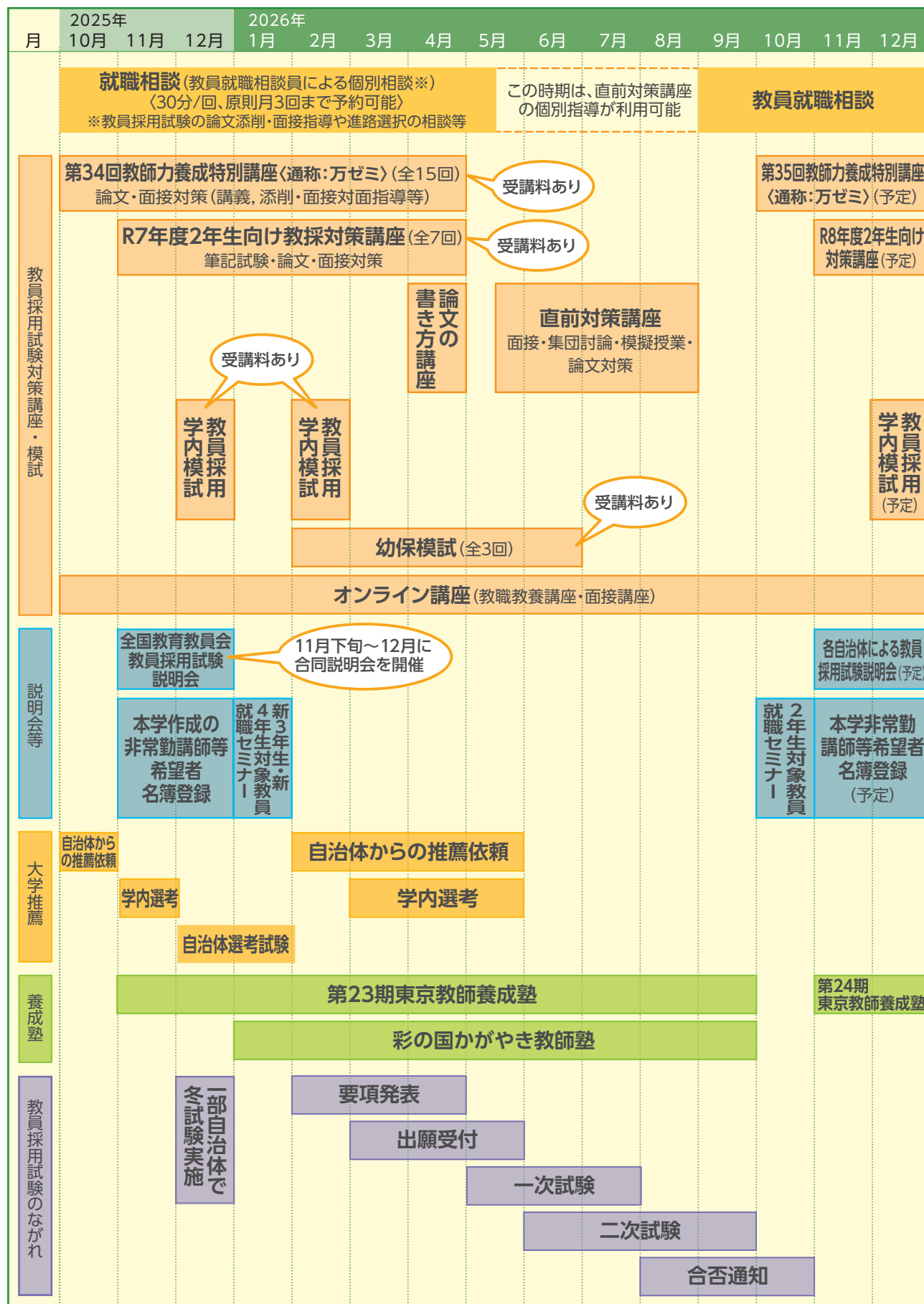


学生キャリア支援室ホームページ



▲QRコードを読み込んでホームページをチェック！

教員就職関係講座・行事等スケジュール



※教員採用試験の早期化等に伴い、上記スケジュールは変更となる場合があります。

教育支援職（企業・公務員）志望者対象のキャリア支援行事

◎ 企業・官公庁等インターンシップガイダンス（4月）

企業・官公庁等のインターンシップに参加したい人を対象にガイダンスを行います。

◎ 企業・公務員就職対策講座

本学の就職相談員や学外講師、本学卒業生や内定者による就職対策講座を行っています。

- 就職活動準備講座
- 就活本番スタートアップ講座
- 自己分析、業界研究
- エントリーシート、面接対策のポイント
- 公務員就職ガイダンス、公務員面接対策講座
- 内定者報告会

◎ 公務員就職説明会（11月～12月）

国家・東京都・特別区等、それぞれの人事担当者による公務員就職に関する説明会を行っています。

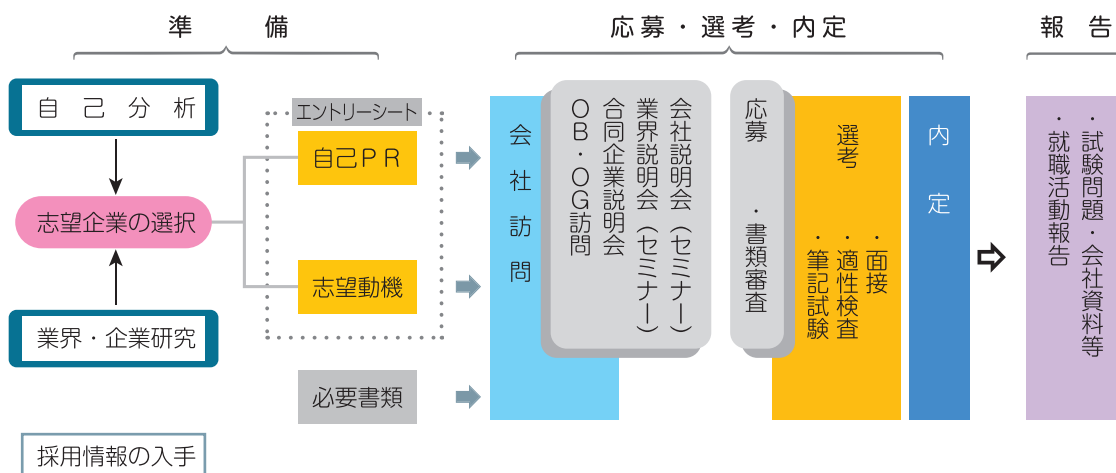
◎ 面接特別練習会（7月～翌2月）

オンライン面接・個人面接・集団面接・グループディスカッションについて、少人数のグループで練習会を行います。受講生は面接練習を行うだけではなく、面接官役も体験することで、面接官がどこを見ているのかを理解することができます。

【受講生の声】

- 面接は苦手だったが、講師から丁寧な指導をいただき、自信がついた。
- 面接は話の内容だけではなく、立ち居振る舞いや表情などの印象も大事であることを実感した。
- 面接官役として他の受講生が面接を受ける様子を見て、自分も注意すべき点に気づくことができ、講義よりも得られるものがあった。

◎ 企業就職活動の流れ



※こちらで示しているのはあくまで一例で、インターンシップ参加後に早期選考に進むこともあります。

教育支援職（企業・公務員）就職関係講座・行事等スケジュール

月	2025年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月	
就職相談（企業・公務員）就職相談員による個別相談 エントリーシート添削、面接指導、進路選択の相談に対応													
対策講座	インターンシップ ガイダンス （概要・科目・マナーについて）		春学期講座（全学年対象） ● ES対策 ● 自己分析と適性理解 ● 企業・業界研究 ● 面接対策			秋学期講座（全学年対象） ● 面接対策 ● ES対策 ● SPI・適性検査 ● 内定者報告会 ● 卒業生座談会			低年次向け講座 ● 就活スタート講座 ● 社会人基礎力				
面接練習会				オンライン対策		集団・グループ ディスカッション対策			個人対策				
行事	3年生対象 キャリア支援 セミナー		企業・官公庁 との交流会 （お茶会）		1・2年生対象 キャリア支援 セミナー					新4年生対象 キャリア支援 セミナー			
企業・法人による採用試験説明会の案内													
公務員	公務員対策講座 ● 試験攻略法 ● 公務員の面接						職員採用試験説明会 （国家・東京都・特別区）						
公務員関係説明会の案内（各省庁による個別の業務説明、公務研究）													
留学生				日本の 就活 講座			面接 対策 講座						
生がい学生										就活 不安解消 講座			
〈参考〉学生の動き	学部3年・修士1年		就活スケジュール 確認		夏インターンシップ申込 ▶ 参加		(3/1) 企業；採用広報・応募開始						
					秋インターンシップ申込 ▶ 参加		冬インターンシップ申込 ▶ 参加						
					(一部) インターンシップからの早期選考								
	学部4年・修士2年		(6/1) 企業；採用選考開始		内々定……					内定			

※就職活動の早期化・長期化に伴い、上記スケジュールは変更となる場合があります。また、政府の示す就活スケジュールにとらわれず動く企業や自治体もあるので個別に調べると良いでしょう。

その他のキャリア支援

◎ 自己創造のための教育体験活動

自己創造のための教育体験活動とは、3年次の教育実習に参加する前の1・2年次に、自らが求めて学校現場（母校など）等で30時間以上の体験活動を行うことを通して、教職の意義や魅力を体感したり、その課題に気づいたりすることを目的とした授業科目です。活動は、長期休暇中も含め、授業等の空き時間を利用して行います。この科目での学びを通して、教職を目指す上での自己のアイデンティティを形成するとともに、自ら学び、成長し続ける意義について理解することを期待しています。

「自己創造のための教育体験活動」に参加して (実施期間：2025年7月～9月)

私は今回の体験活動で、アートスクールの子どもクラスにて、制作指導・支援を担当しました。子どもたちと接する中で気づいたことをまとめる機会ができて、良かったと思っています。子どもたちとかかわる中で、どのような声掛けをしたらよいかを模索しました。対応が難しい場面もありましたが、先生方に協力していただき、ありがたかったです。

作品についてアドバイスをする時は、淡々と述べるのではなく、良いところを見つけながら知識や考えを伝えたいと思いました。まずは、子どものやりたいことに共感したり、一緒に考えたりしながら、子どもの表現を肯定したいと考えるようになりました。

ときには、子どもが好きなものを通して楽しく交流する時間もありました。ただ制作について教えるだけでなく、さまざまな対話をする中で、子どもとの良好な関係がつかれるのではないかと思います。この時間は、私にとってとても楽しいものでした。

今回の体験活動を通して、子どもと実際に触れ合うことの大切さを実感しました。自然体で子どもと関わるということについて考えるきっかけができたと思います。この体験を、これからの教育実習や将来の教員生活で生かしていきたいです。



教育体験活動の様子（過去の事例）

◎ インターンシップ

インターンシップとは、実際の職業現場に出向き、そこで職業活動を体験することです。なお、3年生以上の方で単位化を希望する場合は、1つの企業・公（共）的機関で60時間以上のインターンシップを行う必要があります。活動は、長期休暇中も含め、授業等の空き時間を利用して行います。将来の就業への円滑な移行のため、多くの学生に利用してほしい制度です。

「文部科学省インターンシップ（夏期）」に参加して (実施期間：2025年8月4日～8月15日)

私はこのインターンシップで、省内の業務を詳しく学ぶとともに、“こども霞が関見学デー”の運営補助、職員や他のインターン生との意見交換会、外部施設の見学、さらに個人で設定した政策課題への取り組みと成果発表など、幅広く多様な経験をさせていただきました。単なる見学にとどまらず、実際の業務や政策形成の現場に関わることで、自分の視野を大きく広げ、挑戦と成長を実感できる貴重な機会となりました。

インターンシップ中の目標は、

1. 大学で専攻する社会教育がどのように政策として議論され、実践へ結びつくのかを学ぶ
2. 国家公務員の働き方や職場の雰囲気を感じ、自分の将来を深く考える契機とする
3. 様々な視点で考え、意見交換を行い、積極的にチャレンジ・努力する

というものでした。実際に、教育全般や自分の関心分野について理解を深めるとともに、業務のプロセスや職員の働き方を肌で感じる事ができ、目標を概ね達成できたと感じています。特に、政策課題に取り組む過程で「自分の考えを形にする力」を試せたことは、大きな成長につながりました。

この2週間で得た学びや経験を糧に、今後は多くの人々に貢献できる人を目指して挑戦を続けていきたいと思っています。

◎ ボランティア

大学には、多くの小中学校や官公庁、NPO法人から、ボランティアの募集が来ています。大学や自宅の近隣小中学校で活動する教育支援ボランティアを行っている学生も多く、実際の教育現場を体験する貴重な機会となっています。

「猪苗代町教育支援ボランティア」に参加して (実施期間：2025年9月1日～9月12日)

私は大学1年生で教育支援ボランティアに参加しました。学校教育や学校について学ぶ上で、児童ではなく教師としての視点をあらかじめ持つことで、これからの大学での学びをより具体的に捉えることができ、実りのあるものになるのではないかと考えたからです。

実際にボランティアに参加して、学校における教師としての視点や児童との関わり方、また自分自身の課題点が見つかり、大学で学びたいと思う内容がより具体的になりました。また、自分が受けていた教育とは異なる新しい教育を実際に見て学ぶことができました。小学1年生からタブレットを活用した授業、小学5年生から始まる英語の授業など、私が小学生だった頃より進化した教育がたくさんあり、驚くことが多かったです。

現在の学校教育や学校の姿を知ったことで、ボランティア参加後の大学の講義では、実際の学校現場に置き換えて考えられるようになったと感じています。

教師の立場で児童と話したり関わったりすることで、将来、教員となった自分の姿を想像することができ、教員として働きたいという気持ちが強まりました。猪苗代町で過ごした2週間は、1日1日が充実していて、忘れられない体験となりました。



ボランティア活動の様子
(過去の事例)



学生生活支援

東京学芸大学では、指導教員制をとっており、学生に対するきめ細やかな指導・相談をしています。また、学生が、安心して勉学に励み、充実した生活を送ることができるような支援をしています。

経済支援

■奨学金

本学の学生は、日本学生支援機構などの外部奨学金に申請することができます。日本学生支援機構の奨学金には、原則返還不要の給付型奨学金と卒業後に返還が必要な貸与型奨学金があります。詳しくは本学ホームページ>学生生活・キャリア支援>「奨学金制度」をご覧ください。

奨学金
042-329-7187
学務部学生課学生支援係

■入学科・授業料免除

日本学生支援機構の給付奨学生に採用されると、採用の区分に応じた入学科・授業料の免除が受けられます。1年次春学期分の申請は、入学手続き時にしなければなりません。秋学期以降は各学期ごとに申請を受け付けます。詳しくは本学ホームページ>学生生活・キャリア支援>「入学科・授業料の免除・徴収猶予制度」をご覧ください。

入学科・授業料免除
042-329-7186
学務部学生課学生支援係

住居支援

■学生寮

本学には3つの学生寮があります。学生寮の申込は入学式前にしなければなりませんのでご注意ください。

学生寮について
042-329-7188
学務部学生課課外教育係

■住居に関する相談

東京学芸大学生活協同組合（生協）では、アパート等を紹介しています。詳しくはウェブサイト（「学芸大生協」で検索）をご覧ください。

《お問い合わせ》東京学芸大学生生活協同組合本部（042-324-6225）

学生寮の概要

寮名	小平寮	大泉寮
所在地	小平市鈴木町 1-102	練馬区東大泉 5-22-1
性別	女子	男子
入寮定員	160名	130名
寄宿料	月額 4,300円	月額 4,300円
居室様式	鉄筋5階建 個室(約6畳)	鉄筋4階建 個室(約6畳)
通学方法・所要時間	バス 15分 自転車 10分	バス又は電車 70分 自転車 50分



東久留米国際学生宿舎

※原則として学部学生対象（日本人学生）です。

国際学生宿舎の概要

宿舎名	所在地	性別	入寮定員	寄宿料	居室様式	通学方法・所要時間
東久留米国際学生宿舎	東久留米市氷川台 1-22-2	男子 女子	38名 72名	月額 4,700円	鉄筋3階建 個室(約7畳)	バス又は電車 60分 自転車 50分

※国際学生宿舎は、外国人留学生と日本人学生の混住方式の宿舎です。勉学環境と国際理解の場を提供することを目的に設置されています。

学生生活支援

学生生活で困ったことが起きたときの相談窓口も複数あります。

■保健管理センター

誰でも気軽に利用できる健康支援の機関です。

医師、看護師、カウンセラーがおり、一般診療や応急処置、健康相談のほか、精神的・心理的な悩みの相談に対応しています。

■学生相談室

「大学になじめない」「友達や家族とうまくいかない」「やる気がでない」など、学生生活上のさまざまな問題に対して、専門スタッフが親身になって相談に応じています。

■学生後援会

学生生活がより豊かになるように、いろいろな活動に対する経済的支援を行っています。課外活動、就職活動、留学等は学生後援会の支援によって、より参加しやすいものになっています。入学の際等にいただく会費が財源です。

■生協（生活協同組合）

学生生活全般に対して、様々な支援をしています。購買書籍部では、教科書やパソコンなどの学習用品の販売や教習所の受付、毎日利用する食品の販売などを行っています。食堂では定食・丼・麺類など様々なメニューを提供しています。

■notecafe

図書館の1階にあるおしゃれなカフェです。大学と地域の人が交流するためのノートが置いてあり、壁に巨大な地域の地図もかかっています。本格的なコーヒーや焼きたてのパン等をお楽しみいただける、くつろぎの空間です。また、コーヒー豆の販売も行っております。

■キャンパスライフ委員会

本学のすべての学生には安全で快適なキャンパスライフを送る権利が保障されています。万が一セクハラなどのハラスメントの被害にあった場合には、キャンパスライフ相談員が対応します。



障がい学生支援

■障がい学生支援室

本学では、障がいのある学生が安心して学生生活を送れるように、障がい学生支援に全学で取り組んでいます。障がい学生支援室では、修学や学生生活における配慮や支援の必要性がある学生の相談を受け、一人ひとりの状況に合った合理的配慮や支援の方法について、教職員による「個別支援チーム」を設けて検討しています。また、学内のバリアフリー化やアクセシビリティの向上等の基礎的環境整備も進めています。支援室には専門スタッフがおり、障がい学生に対する合理的配慮や支援のコーディネート、学内外の関係機関との連携、学生サポーターの登録・派遣・研修、支援用機器機材の準備を担当しています。

●相談したい

聴覚障がい、視覚障がい、肢体不自由、病弱・虚弱（内部疾患）、発達障がい、精神障がいを主な対象としています。情報保障（パソコンテイク、手話通訳、対面朗読など）、移動支援、そのほか相談に応じて様々な支援方をおこなっております。学生本人だけでなく、保護者や友人、教職員からの相談もお受けしています。

●支援したい（学生サポーター）

情報保障や移動支援などの支援活動は、学生サポーターが担っています。学生サポーターは、随時募集しておりますので関心のある方は障がい学生支援室までご連絡ください。学生サポーターの活動としては、障がい学生の授業支援のほか、支援に関わる研修会やワークショップへの参加（任意）などもあり、互いに学び合う機会を得ることができます。

障がい学生支援室 中央6号館1階

- 電話
042-329-7905
- メール
gsupport@u-gakugei.ac.jp

自主ゼミ & EXPLAYGROUND



東京学芸大学の特色の一つに、「自主ゼミ」があります。これは、学生がみずからの興味・関心をもとに、主体的に参加・活動する授業外の教育研究活動です。確かな記録はありませんが、学芸大では昭和20年代から「自主ゼミ」が存在していたようです。自分の専門分野をさらに掘り下げたり、より幅広い教養や知識を身に付けたりすることを目指し、現在でも多くの自主ゼミが活動を続けています。

ゼミ名「現代文学・文化ゼミ」

■当ゼミは、国語科の学生を中心に、様々な文学作品の読解を通じて歴史、社会、哲学、現代思想など様々な問題を考えてゆこうとするものです。先代の「昭和文学ゼミ」を引き継ぎながらも、現代の様々な表象文化の多様性を考慮に入れ、文学小説や詩歌以外にも、マンガ、アニメ、テレビドラマ、歌詞など様々な物語や表現形態をも、積極的に研究対象としてとりあげています。これまでの文学研究のメソッドを現代文化にどう活かしてゆくか。日本文学分野の足田雅昭先生を顧問に迎えて和気藹々と活動しております。



■ゼミ参加学生からのコメント

学年や所属の垣根を超えた活発な議論が魅力です。多様なジャンルの物語作品を新たな視点で読み解く力を養いながら、近現代文学への理解を深めつつ、学際的な教養を身につけることができます。大学の講義にも活かせるスキルが習得できる、大変有意義な学びの場です。



東京学芸大学のもう一つのユニークな取り組みが、「Explayground」です。教職員や学生だけでなく、附属の先生、企業人、NPO、行政など、学内外の多様な参加者が主体的に自分の「好き」「面白い」「課題」を持ち込み、共感者と「ラボ」と呼ばれるプロジェクトを形成します。このラボ活動はそれぞれが創造的な研究開発やその後の社会実装につながる営みであると同時に、ラボ活動が集まったExplayground自体が新しい公教育のモデルになっていくことを目指します。(2025年4月現在59のラボが活動中)

ラボ名「I MISSION」

【I MISSIONとは】

自分を愛するをテーマに、非日常体験を通してワクワクする、自分でやる、閃いて行動する、友達と意見を出し合い協力する、自由な時間と自然の中で心を動かす、体験をします。ミッション化することで楽しいを学びに、一緒に楽しんで経験するラボです！

1日プラン

【つくたべ教室】

大学の農園で釜戸を建ててご飯を炊いたり、餅つきをしたり、自分たちで作って食べる体験をしています。東京水道局と協力して楽しく学ぶ防災体験も開催しています。



宿泊プラン

【すぐすぐ体験】

田舎の古民家に宿泊し、自分たちで野菜を自由に収穫し3食作って食べる、をモットーに、すぐに体験すぐ体験できるプランです。ヤギのお世話、竹を切り倒して流し素麺をするなどの非日常体験を行っています。



■代表者の言葉

僕は1年間休学してカンボジアに行った経験をもとに、非日常体験の価値を子どもたちに届けたいと思い、この活動を始めました。「自然、伝統、ものづくり、食育」をテーマに、新たな出会いや自然の大きさを感じ、収穫して食べるといった、地方での体験で子どもの心を動かし、子どもが一段ずつ成長していくプログラムづくりをしています。



サークル 図鑑

東京学芸大学には教員養成大学ならではの
教育系サークルもたくさん!

2026年3月現在

やったことないこと、やってみたかったこと、
一緒にはじめてみませんか?

音楽・演劇・映像

アカペラサークル Infini
ウインドアンサンブル
音楽友之会
軽音楽部 JAZZ 研
東京学芸大学管弦楽団
東京学芸大学クラシックギタークラブ
東京学芸大学混声合唱団
フォークソング愛好会
邦楽サークル 白菊会
モダンフォークソングクラブ



モダンフォークソングクラブ



東京学芸大学混声合唱団



アカペラサークル Infini

東京学芸大学和太鼓サークル結
演鑑演劇部
演劇研究部 劇団漠
the@ter メトロ
劇団なきがお
放送研究会
創作視聴覚文化研究部
デジタル創作系サークル SSET
家庭科バンド HOUSE
東京学芸大学映画研究会
劇団うめおにぎり



東京学芸大学
和太鼓サークル結



音楽友之会

教育

北多摩東 BBS 会
国分寺子どもクラブ
子ども学習支援サークル 小金井てらこや
サークルちえのわ
理科教育系サークル Aggressive!!
Pages
STEAMer



サークルちえのわ

学童サークル cococolors
障害児と楽しく遊ぶ会 おこりんぼ
小学校ボランティアサークル Let's
地域子ども会活動サークル むぎのこ
英語教育実践サークル EGG
せんせいのたまご
ぼくらのおうち 起業部

武道・パフォーマンス

ラテンアメリカ研究会
 東京学芸大学ジャグリングサークル CHELSEA
 東京学芸大学お笑いサークル GOC
 柔道部
 剣道部
 東京学芸大学空手道部 空心会

弓道部
 少林寺拳法部
 ストリートダンスサークル @fterbeer
 チアリーダー部 Hydrangea
 学芸陣式太極拳サークル
 東京学芸大学 K-POP コピーダンスサークル Lupinus

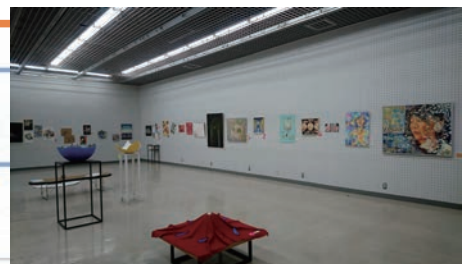


東京学芸大学お笑いサークル GOC

美術・食・文化・趣味・その他

絵本創作サークルきつねのしっぽ
 写真研究部
 美術研究部
 漫画研究部
 書道サークル 審美会
 星空サークル シリウス
 総合史学研究会
 小金井祭実行委員会
 生協学生委員会
 生協留学生委員会
 生協読書マラソン委員会
 鉄道研究部
 民俗学研究会

スイーツ同好会
 総合文藝サークル「拙作」
 TGU ポケモンサークル
 盤上遊戯研究会(東京学芸大学麻雀部)
 お散歩サークル みつあみ
 東京学芸大学キリスト者学生会
 TRPG サークル卓上劇団ひゅぶのしす
 茶道部
 東京学芸大学かるた会
 東京学芸大学アマチュア無線クラブ
 学芸大クイズ同好会 NIWAKA
 囲碁研究会
 TGU アイドル研究会 Gakum@s



美術研究部

留学・国際交流サークル
 東京学芸大学 e スポーツサークル
 トルコアイス研究会
 おにぎりサークルころりん
 東京学芸大学 E.S.S
 カーレットクラブ
 東京学芸大学博物館周遊会
 清掃ボランティア団体ハピクリ
 こすぷり

アカペラサークル Infini



こんにちは！アカペラサークル、Infini (アンフィニ)です。アカペラと聞くと、「凄そう！！」「難しそう！！」というイメージがあるかもしれませんが、音楽が好きなお学生が集まっている楽しいサークルです。アカペラは敷居が高そう...と思わず、一度サークルに遊びに来てみてください。一緒に音楽を、歌を、楽しみましょう。部員一同、心よりお待ちしております！

テニス・ホッケー
体操・水泳・レジャー
卓球・ラグビー



スキューバダイビングサークル
NEPTUNE

硬式テニスサークル elf	体操競技部	東京学芸大学アルティメットフリスビーサークル BIG APPLE
硬式テニスサークル「Double Fault」	体操&アクロバットサークル	ワンダーフォーゲル部
T-CRUISE	男子水泳部	スキューバダイビングサークル NEPTUNE
Wonderland	女子水泳部	熱気球倶楽部ホ〜ホケキョ
男子硬式庭球部	スキーサークル FRONTIER	卓球部
女子硬式庭球部	男子一般運動サークル (G.S.C.)	ラグビーフットボール部
ソフトテニス部	女子一般運動サークル (G.S.C.)	東京学芸大学モルックサークル chee!
アイスホッケー部	レクリエーションスポーツクラブ	ソフトテニスサークル なんてね

サッカー・ラクロス・陸上
ハンド・バスケ・バレー・バド
アメフト・野球



女子バスケットボール部

東京学芸大学蹴球部	陸上同好会	バドミントン部
女子サッカー部 DUMBO	男子ハンドボール部	バドミントンサークル LIBERTE
F.C.LEO	東京学芸大学女子ハンドボール部	アメリカンフットボール部 SNAILS
FC.ALEX	男子バスケットボール部	男子ソフトボール部
FC.Beginners	女子バスケットボール部	女子ソフトボール部
男子ラクロス部	REGULUS	東京学芸大学硬式野球部
女子ラクロス部	S.B.C	軟式野球部
陸上競技部 (男子)	男子バレーボール部	軟式野球サークル Vinvins
陸上競技部 (女子)	女子バレーボール部	ウィッフルボールサークル AirDropper
	バレーボールサークル BRAVO!	

REGULUS



女子ラクロス部



こんにちは！女子ラクロス部です！みなさんは大学生活をどんな4年間にしたいですか？女子ラクロス部では「本気を楽しむ開拓者」を理念に活動しています。楽しい思い出も辛い経験もみんなで味わって、一人一人が成長できる最高の場所です。最後の大学生活、私たちと最高に充実した4年間にしませんか？！グラウンドで待っています！！







野球場

N

クロマツ通り

グラウンド門

体育館

附属幼稚園
小金井園舎

ケヤキ通り

東門

附属小金井小学校

附属小金井中学校

ぷらり学芸 キャンパスマップ

- ▶ 建物入口 自動ドア、車いす推奨
- ▷ 建物入口 手動ドア(引き戸)
- ▽ 建物入口 手動ドア(開き戸)
- ◁ 建物入口 常時開放

- ↗ スロープ(約5度~)
- ↘ スロープ
- ≡ 階段
- 段差

◀◀◀ 傾斜路(約2~4.5度)
一人での移動が可能な傾斜路。

◀◀◓ やや急な傾斜路(約4.5~7度)
介助者の同伴が望まれます。

◀◓ 急な傾斜路(約7度~)
介助者の同伴が必要であり、
移動の際には注意が必要です。

♿ バリアフリートイレ

🚪 エレベーター

⚡ AED設置場所
[屋内]

🍴 飲食施設

🚒 AED設置場所
[屋外]

🚶 避難場所



より詳しいキャンパスマップ・バリアフリーマップはこちら





附属図書館



図書館公式キャラクター
まなぶんぶん

東京学芸大学の正門を入ってすぐ、ウッドデッキの隣に見える建物が図書館です。蔵書は約92万冊あり、教育の専門書を中心に収集しています。授業期間中の平日は8:30から21:30まで開館しているため、空きコマや放課後の時間を学習や研究に有効活用することができます。

東京学芸大学附属図書館の使命と目標

～デジタル社会の教育を支える「知の循環」の再構築～



附属図書館は、質の高い学術情報を収集し、学芸大生の学習を支援する拠点の一つとして機能しています。現在、附属図書館では、図書や電子コンテンツなど、さまざまな情報に触れることができます。紙やデジタルという枠組みにとらわれず、それらを整理・保存・提供していきます。また、附属図書館には所蔵資料だけではなく、色々なスタイルで学習・研究ができるエリアがあり、新たな知を紡ぐ場としても機能します。それらの紡がれた新たな知・研究成果を、世界に向けて発信していきます。附属図書館は、知の創造・発信拠点として「知の循環」を促します。



ラーニングcommons

図書館の1階には、声を出すことができる学習スペースを備えています。グループワーク用のテーブルで仲間と議論を深めながら学習したり、電子黒板を使った模擬授業やプロジェクターを使ったプレゼンの練習をしたりできます。また、個人ブースが設置されておりますので、図書館でオンライン授業に出席していただくこともできます。このように、さまざまな学習スタイルに対応した設備を提供しています。



開架エリア

教育関係の専門書の他に、デジタル教科書、児童図書や絵本など、子どもや教育にまつわるさまざまな資料を所蔵しています。資料を利用して、静かな閲覧席で学習することができます。休憩に利用できる、ソファのあるスペースもご用意しています。



インフォメーションcommons

図書館所蔵の映像資料を見たり、コンセントのある席で電子機器を利用することができます。

notecafe

併設のカフェでは、パンやコーヒーを楽しめます。

書庫

江戸期の往来物などの貴重書のほか、戦後の歴代教科書などが収められています。

東京学芸大学大学史資料室

大学史資料室では、本学の運営や教育研究、師範学校時代からの本学の歴史に関する資料を収集、整理、保存しています。閲覧スペースがあり、資料室所蔵の貴重な歴史資料を閲覧することができます。また、4～12月の期間は、師範学校や大学の歴史に関する常設展示を行っています。



Data 開館時間 平日授業期：8:30-21:30 平日休業期：8:30-17:00 土日祝：11:00-18:00
HP: <https://lib.u-gakugei.ac.jp/>

2024年度統計
蔵書冊数：918,152冊 和書：699,981冊 洋書：218,171冊
年間貸出冊数：40,131冊





学芸大の学食



学芸大には、学内に2つの学食（学生食堂）があります。昼休みは多くの学生で賑わっています。その他の時間は学生がのんびりのくつろげる場所となっています。



第1食堂（通称：大生）



第2食堂（通称：コパン）

人気&おすすめメニュー

学芸大生人気No.1!



「学芸大丼」
550円（税込）

日替わりセットメニュー



「定食セット」
528円（税込）から



麺類人気No.1!

「担々麺」
528円（税込）



カレーコーナーおすすめ

「ヒレカツカレー」
517円（税込）



●上記の他、多数メニューを取りそろえています。 ●学芸大の学食は「東京学芸大学生生活協同組合」が運営しています。
●表示は2025年3月現在の価格です。今後変更になる場合があります。

notecafe

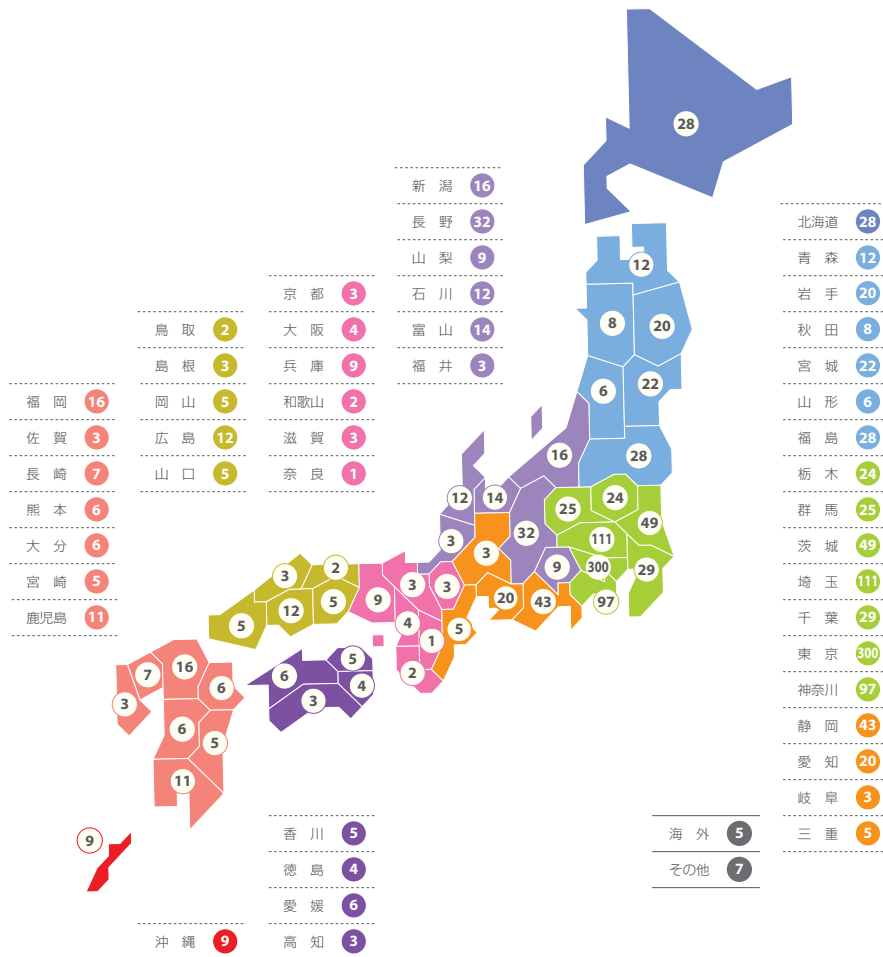
附属図書館1階のおしゃれなカフェです。大学と地域の人が交流するためのノートが置いてあり、壁に巨大な地域の地図もかかっています。焼きたてのパンとコーヒーが好評で、学生、教職員に人気のスポットです！





Gakugei

東京学芸大学概要



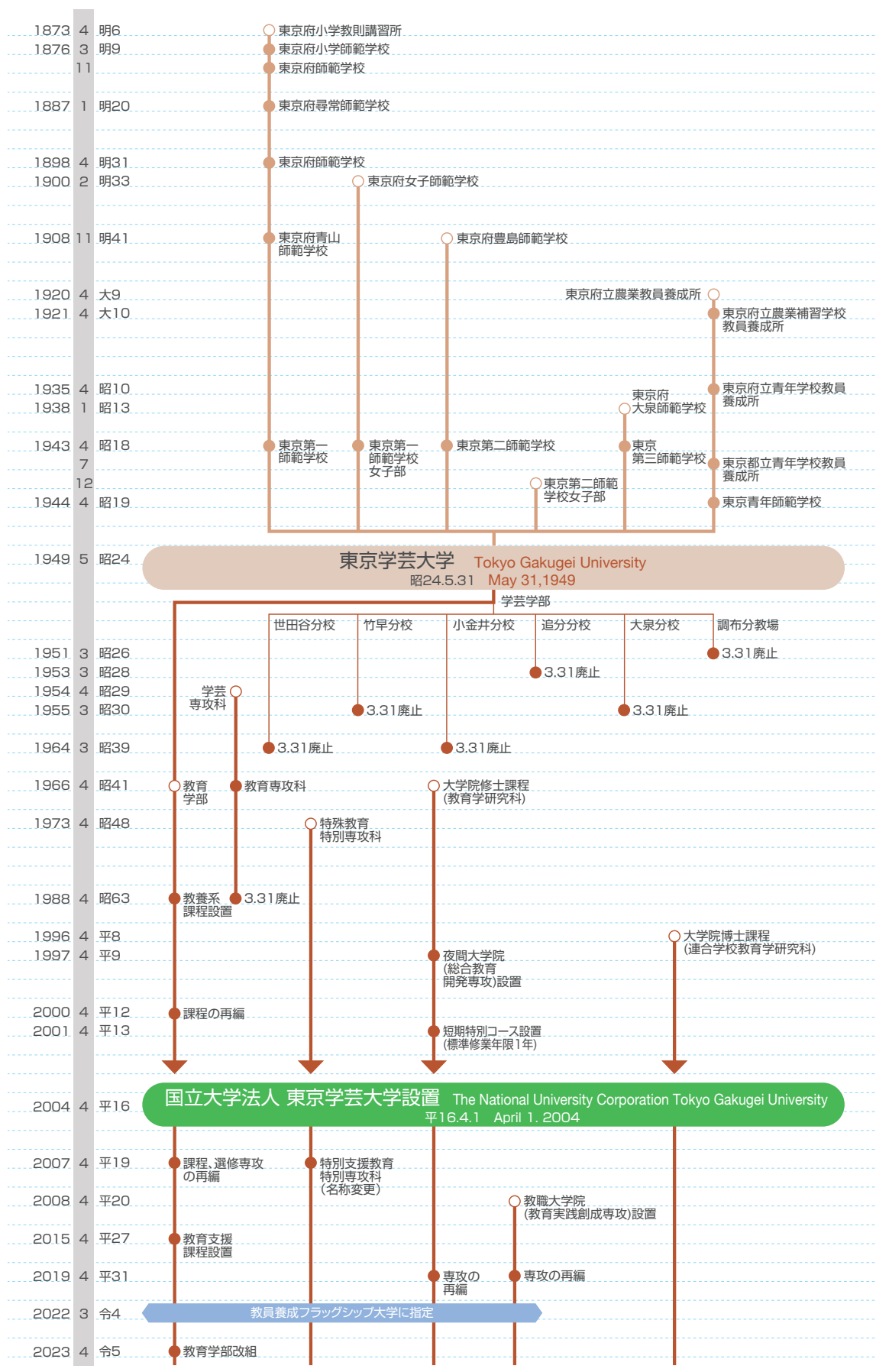
学芸大学には、全国から学生が集まってきます。

(2026年度入学生出身高校所在都道府県)

※ その他は、高等学校卒業程度認定試験、国際バカロレア資格等による入学者。
ただし、編入学による入学者は含まない。

沿革表

History



附属学校（園）

教育実習及び教育研究の場として、次の附属学校（園）が設置され、約5,400人の幼児・児童・生徒が学んでいます。

これら児童等に普通教育を施すとともに、各学校園はそれぞれテーマを設定し、大学と連携して指導理論を踏まえた実証的・実践的研究に取り組んでいます。

また、年間約1,400人の学生を受け入れ、教育実習を行っています。

小金井地区



附属幼稚園小金井園舎



附属小金井小学校



附属小金井中学校

世田谷地区



附属世田谷小学校



附属世田谷中学校



附属高等学校

竹早地区



附属幼稚園竹早園舎



附属竹早小学校



附属竹早中学校

大泉地区



附属大泉小学校



附属国際中等教育学校

東久留米地区



附属特別支援学校

学位授与数・学位論文数、専門学術論文数、 教員免許取得状況、諸資格取得者数

Number of Degrees Conferred / Number of Dissertations / Teacher's Licenses Obtained / Qualifications Obtained

学位授与数 Number of Degrees Conferred

(2025年度修了生)
(Academic year 2025 graduates)

学位 Degree	専攻分野の名称等 Area of Specialization	大学院（修士課程） Graduate School of Education (master's course)	教職大学院（専門職学位課程） Graduate School of Teacher Education (professional degree program)	連合学校教育学研究科（博士課程） United Graduate School of Education (doctoral course)
修士 Master	教育学 Education	95		
	学術 Arts / Philosophy / Science	0		
教職修士（専門職） Master of Education in Teaching			194	
博士 Doctor	教育学 Philosophy in Education			22 (1)
	学術 Philosophy			2

() 内は論文博士で内数

学位論文数又は特定の課題についての研究の成果（課題研究の成果）数 Number of Dissertations / Research Reports

	大学院（修士課程） Graduate School of Education (master's course)	教職大学院（専門職学位課程） Graduate School of Teacher Education (professional degree program)	連合学校教育学研究科（博士課程） United Graduate School of Education (doctoral course)
学位論文 Dissertation	95		23
課題研究の成果 Research Report	0		
専門学術論文 Academic papers		93	

(2025年度修了生（論文博士を含めず。）
(Academic year 2025 graduates (not including graduates of "dissertation only" doctoral programs))

教員免許状取得状況（学部） Teacher's Licenses Obtained (Undergraduate)

(2025年度卒業生)
(Academic year 2025 graduates)

選修・専攻 Program	卒業生数 Number of graduates	免許取得者数 Graduates who acquired license	免許種 License type							一人当たり免許状取得数 Distribution based on number of licenses per graduate				
			小学校 Elementary school	中学校 Lower secondary school	高校 Upper secondary school	幼稚園 Kindergarten	特別支援 School for special needs education	養護 School health care and education	計 Total	1枚 1	2枚 2	3枚 3	4枚 4	5枚以上 5
A類	555	536	528	403	473	93	20	-	1,517	96	42	266	121	11
B類	235	232	33	235	292	5	4	-	569	-	145	71	14	2
C類	43	41	41	10	10	16	41	-	118	-	18	13	7	3
D類	13	12	-	13	13	-	-	12	38	-	-	11	-	1
学校教育系・計 School Education Course, total	846	821	602	661	788	114	65	12	2,242	96	205	361	142	17
E類	186	50	-	39	56	-	-	-	95	11	33	6	0	0
教育支援系・計 Educational Specialist Course, total	186	50	-	39	56	-	-	-	95	11	33	6	0	0
総計 Total	1,032	871	602	700	844	114	65	12	2,337	107	238	367	142	17

教員免許状取得状況（大学院） Teacher's Licenses Obtained (Graduate School)

(2025年度修了生)
(Academic year 2025 graduates)

課程 Courses	修了生数 Number of Graduates	専修免許状取得者数 Graduates who acquired Specialized Certificate
修士課程（旧課程） Master's Course	0	0
教職大学院 Professional Degree Program	194	184

諸資格取得者数 Qualifications Obtained

(2025年度修了生)
(Academic year 2025 graduates)

	2025年度の内訳 Academic year 2025		2025年度 Academic year 2025 total
	学校教育系 School Education Course	教育支援系 Educational Specialist Course	
司書教諭 Librarian teacher	133	4	137
司書 Librarian	18	18	36
社会教育主事 Social education director	3	28	31
学芸員 Curator	9	15	24
社会福祉士（受験資格） Certified social worker (eligible for taking certification exam)	0	19	19
スクールソーシャルワーカー School social worker	0	6	6
保育士（幼児教育選修のみ） Nursery teacher (Early Childhood Education major only)	18	-	18

教員免許状取得状況（特別専攻科） Teacher's Licenses Obtained (Postgraduate Course in Special Needs Education)

(2025年度修了生)
(Academic year 2025 graduates)

専攻名 Major	修了生数 Number of Graduates	一種免許状取得者数 Graduates who acquired licence	専修免許状取得者数 Graduates who acquired Specialized Certificate
特別支援教育 Special Needs Education	19	18	1

免許取得者数等は一括申請分

Note: Figures for "Graduates who acquired license" and other figures are based on the collective applications made by the university.

学部学生のみ数



令和9年度「入学者選抜要項」「学生募集要項」について

令和8（2026）年度に実施する令和9年度入学者選抜試験の基本的な事項を記載した「入学者選抜要項」は令和8年7月中に、各選抜の詳細及び出願手続方法を記載した「学生募集要項」は8月以降に順次、それぞれ公表する予定です。いずれも本学公式webサイト上の「学部入試情報サイト」にPDFファイルで掲載しますので、ぜひご覧ください。

「入学者選抜要項」は冊子による配布も行います

- 「入学者選抜要項」の冊子は、公表後、テレメール（外部サービス）による配布を行います。テレメールによる請求方法については、本学「学部入試情報サイト」>「入学者選抜要項・学生募集要項・広報誌」のページをご確認ください。また、本学の正門守衛所でも配布します。配布する時間は8:30～20:30です。
- 各選抜の「学生募集要項」は、PDFファイルによる公表のみとなります。冊子の配布は行いませんのでご注意ください。

インターネット出願を導入しています

- 本学ではインターネット出願を導入しています。出願手続の一部をインターネットで行っていただきますが、郵送で提出していただく書類もあり、インターネットでの手続だけで出願手続が完結するものではありませんのでご注意ください。
- 出願手続の詳細は「学生募集要項」に掲載しますので、公表後にご確認ください。
- 出願手続方法は、前年度の内容や学生募集要項に記載した内容から変更となる場合があります。必ず令和9年度学生募集要項をご確認いただくとともに、「学部入試情報サイト」を随時確認してください。

- 入試に関する情報▶学部入試情報サイト

（大学公式サイトトップページ>「入試情報」>「学部入試情報サイト」）



- 各種要項・学部入試情報サイトを見て分からないことがあったら▶

- 入試に関するお問い合わせフォーム
- 電話 042-329-7204（学務部入試課）



※電話での問い合わせは、平日の9時から17時まで（12時から13時を除く）です。

授業料

※授業料の改定が行われた場合には改定時より新授業料が適用されます。

2026年度	学部生	大学院生	特別専攻科生	研究生	科目等履修生
授業料	年間 535,800 円 (春学期 267,900 円) (秋学期 267,900 円)	年間 535,800 円 (春学期 267,900 円) (秋学期 267,900 円)	年間 273,900 円 (春学期 136,950 円) (秋学期 136,950 円)	年間 356,400 円 (月額 29,700 円)	1 単位 14,800 円
入学料	282,000 円	282,000 円	58,400 円	84,600 円	28,200 円
検定料	17,000 円	30,000 円	16,500 円	9,800 円	9,800 円

ノート型パソコンの必携について

●東京学芸大学ではノート型パソコンの必携をお願いしています。



本学では、教育におけるコンピュータの活用方法を学ぶ授業やハイブリッド型の授業をはじめとして、様々な授業でコンピュータを使用します。また、履修登録や成績通知、教育実習の手続等、大学生活の中で日常的にコンピュータを使う場面が多々あります。これらを踏まえ、本学では学生がノート型パソコンを必携することになっています。経済的なご負担は小さくないかもしれませんが、ノート型パソコンを必ず所有して大学に持参するという、本学の方針をご理解くださるようお願いいたします。

問い合わせ

●電話での問い合わせは、平日の9:00から17:00まで(12:00から13:00を除く)

東京学芸大学の住所 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

入学後のカリキュラム・
教員免許取得について

●電話 **042-329-7176**
学務部学務課総務係

入学料・授業料免除
042-329-7186
学務部学生課学生支援係

奨学金制度
042-329-7187
学務部学生課学生支援係

障がい学生支援室
中央6号館1階

●TEL
042-329-7905

●MAIL
gsupport@u-gakugei.ac.jp

学生寮について
042-329-7188
学務部学生課課外教育係

ノート型パソコンの必携
042-329-7194
学務部学務課教務第一係



東京学芸大学 大学案内2027
2026年5月30日発行

【編集】広報基金本部、総務課広報・基金室、
教育インキュベーションセンター
【デザイン監修】教育インキュベーションセンター
【印刷】サンプロセス



国立大学法人

東京学芸大学

Tokyo Gakugei University